

170201警備業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	1	8 ～ 10	制帽を取りに行くために、大学構内の門付近を歩いていたところ、前日の降雪により凍結した路面上で転倒し、左後頭部を強く打ち、一週間後に死亡したもの。	719	2	50～ 99
2022	1	22 ～ 24	被災者は、国道の中央分離帯に茂った樹木の剪定作業に伴う交通誘導業務に従事し、剪定箇所から約600m手前（トンネル坑口付近）で、車線規制の予告案内（旗振り）を行っていた。作業開始の当初は中央分離帯内で案内を行っていたが、しばらくして車道の中央部に出て案内するようになり、国道を走行中の乗用車にはねられて死亡したもの。	231	17	30～ 49
2022	2	8 ～ 10	工事業者による市役所内での停電作業に先立ち、被災者は、エレベーター搬器内に人が残っていないか確認するため、鍵によりエレベーターの扉を開けたところ、そこに搬器はなく、6.3メートル下方のピット内に墜落した状態で発見された。	214	1	100 ～ 299
2022	2	12 ～ 14	場内の巡回警備を行っていた被災者が、建物内部の階段で頭部から血を流して倒れているところを発見されたもの。	413	1	500 ～ 999
2022	2	8 ～ 10	電話回線の回収工事において、工事業者が対象となる電柱を探すために車道脇の擁壁上（幅143cm程度）を移動していたところ、交通誘導のために現場にいた警備業者に所属する被災者が工事業者を追従し、高さ7.2メートル、勾配63度の擁壁上から車道に転落した。	417	1	10～ 29
		8	木造アパート建築工事に付随する道路舗装工事現場において、コンバイン			

2022	5	～ 10	ドローラーをトラックの荷台から降ろし、作業場所に移動させるために後退させた際に、後方で一般車両等の交通誘導を行っていた警備員を轢いたものである。	144	7	10～ 29
2022	6	～ 12	国道において、被災者が一般車の交通誘導を行っていたところ、トラックの運転手がいねむりをしていたため、被災者の停止合図に気付かず、被災者も危険を感じたため、道路脇に逃げようとしたものの、間に合わずトラックにひかれたもの。被災者は事故発生日から入院していたが、後日容態が急変し、呼吸不全により死亡したもの。	221	17	10～ 29
2022	6	22 ～ 24	団地内の警備巡回中に倒れているところを通行人に発見され、緊急搬送されるも死亡確認。	715	11	100 ～ 299
2022	6	～ 14	木造家屋建築工事の警備を炎天下で行っていた被災者が立てない状況となり、救急搬送されたが、2日後熱中症による多臓器不全により死亡したもの。被災当日は2名で警備業務を行っていたが、被災時1名は休憩中で、休憩から現場に戻って来た時、被災者は座り込んでおり、立てない状況であった。	715	11	30～ 49
2022	7	～ 6	4 ～ 6 早朝出勤してきた学校職員が事務室出入口で倒れている被災者を発見したが、死亡が確認されたもの。被災者は学校の鍵閉め巡回業務を行っていた。	715	11	300 ～ 499
2022	7	10 ～ 12	ガス管理設後の舗装復旧工事に被災者含め3人で警備。交替休憩で被災者は午前中に警備位置を離れた。30分後も戻らず、指定休憩場所のコンビニへの経路（警備位置から約240m）検索でも未発見。検索と別に、通行人が付近公道の階段最下段で倒れている被災者を発見・通報し、意識不明で搬送後に死亡。死因は転落が原因の脊椎骨折による脊髄損傷。階段は高さ約4mで手すりあり。	413	1	100 ～ 299
		14	警備員である被災者は、午前9時頃から市内各所、午後1時頃からケーブル配線工事現場で交通誘導業務に従事していた。休憩のため小型自動二輪車に乗り現場を離れたところ、約85m先の路上で転倒し意識不明となっ			30～

2022	7	7 ～ 16	た。病院に救急搬送されたが、翌日「熱中症による多臓器不全」により死亡した。当日は、曇り、気温約30度、湿度約70%と蒸し暑い天候であった。	715	11	49
2022	7	0 ～ 2	被災者は道路上において、工事に伴う幅寄せ交通誘導業務に従事していたところ、道路上走行してきた一般車両にはねられ、頭部を負傷し死亡したものの。	231	17	50～ 99
2022	7	12 ～ 14	被災者は午前8時頃より、屋外工事現場で工事車両の誘導警備に従事。午前の業務を終え、現場に停めた自家用車（冷房設備、水、塩あり）にて休憩。その後、当該自家用車の脇に横たわった状態にて発見され、約10分後に現場監督が救急通報し、医療機関へ搬送された。搬送当時は意識があるも、意識混濁を繰り返し、後日、熱中症に起因する意識障害による誤嚥性肺炎にて死亡。	715	90	30～ 49
2022	8	12 ～ 14	電話工事に伴う誘導業務従事後、昼休憩のためにコンビニエンスストアへ原動機付自転車にて移動中、信号機のない交差点にて、軽自動車と出会い頭に衝突し、転倒した。3時間後に容体が急変、同日夜に死亡した。	231	17	10～ 29
2022	8	14 ～ 16	被災者は、公道上のガス管敷設工事現場に、交通誘導員として他の誘導員6名とともに出張していた。交通誘導作業中の被災者がフラフラして様子がおかしかったため、路肩で休ませたが、その数分後に倒れこみ呼びかけても反応がなく、現場付近のクリニックで応急処置をしたものの、回復せず病院へ救急搬送されたが同日死亡した。死因は熱中症と特定された。	715	11	50～ 99
2022	8	16 ～ 18	新築建設工事現場で雑踏警備に就労していた。終業直前に、被災者が現場から徒歩で離れてゆくのが目撃されたが、帰ってこないため、何度か電話をかけた。その後、電話がつながったが、取ったのは本人ではなく、救急隊員で病院に搬送中と言われた。翌日、熱中症による多臓器不全のため死亡。	715	11	30～ 49
		20	被災者は、工場で守衛の業務を終え社用車（軽自動車）で所属事業場事務			100

2022	8	～ 22	所に帰社する途中、道路上の傾斜地の路肩に社用車を止めていたところ、当該社用車が下り方向に動き出し、外に出ていた被災者が激突され右後輪と側溝に胸部をはさまれ死亡したもの。	231	6	～ 299
2022	9	～ 12	被災者は発生場所の県道において、工事現場の交通誘導員として警備を行っていたところ、誘導しようとしたダンプトラックにはねられ死亡したもの。	221	17	30～ 49
2022	10	～ 24	車両感知器柱建替え工事を行うため、国道（高架上）で片側2車線の上下線ともに中央分離帯側の車線を工事看板やカラーコーンを使用して車線規制準備を行っていたところ、各務原方面から大垣市方面へ西進する4トントラックが車線規制最前に激突し、規制内で作業を行っていた警備員及び工事看板等をはね飛ばし、工事看板等の激突により現場の作業員1名が死亡し、4名が負傷した。	221	17	～ 299
2022	10	～ 12	被災者が工事現場の車両誘導業務を行っていたとき、現場内にあった2台の車両を退出させ、その箇所にトレーラーを搬入させた後、一旦場外に退出させた車両（2トン積トラック）が駐車箇所に向かおうと公道上を後退してきたところ、公道上にいた被災者はそれに気が付かずに背面から轢かれた。	221	7	0
2022	10	～ 18	国道上において、ワゴン車が路上に飛び出した鹿と衝突、そのはずみで反対車線にはみだし、対向走行してきたトラックと正面衝突したもの。ワゴン車に乗車していた2名が死亡、トラックに乗車していた1名が重傷を負った。現場は日没から約30分後の外灯がほとんどない直線道路で、両側には木が生い茂っており、視認性は低い状況であった。	719	17	～ 299
2022	10	～ 18	国道上において、ワゴン車が路上に飛び出した鹿と衝突、そのはずみで反対車線にはみだし、対向走行してきたトラックと正面衝突したもの。ワゴン車に乗車していた2名が死亡、トラックに乗車していた1名が重傷を負った。現場は日没から約30分後の外灯がほとんどない直線道路で、両側には木が生い茂っており、視認性は低い状況であった。	719	17	～ 299
		10				

2022	11	～ 12	国道をバイクで走行中転倒し、被災者が道路左側へ投げ出されたところ、左側を走行していたトラックの右後輪に轢かれ、死亡したものの。	231	17	10～ 29
2022	12	8 ～ 10	法面工事現場付近の国道において、片側1車線道路の片側交互通行規制の交通誘導作業中、走行してきた軽トラックに激突された。	231	17	30～ 49
2021	1	10 ～ 12	事業者Aに所属する労働者が新型コロナウイルス感染症を発症していることが判明した。その後、同事業場内で7名の労働者が次々と新型コロナウイルス感染症を発症。被災者は、PCR検査で陽性となり、同日、病院に入院したものの、新型コロナウイルスの感染症による急性心筋梗塞の合併により心肺停止し、死亡した。	911	90	50～ 99
2021	1	8 ～ 10	被災者は、工事現場の駐車場から道路の反対側にある現場事務所に向かうため、国道を横断中、軽トラックにはねられ死亡した。（被災者は、事務所に出勤後、車で現場に移動。）	221	17	30～ 49
2021	1	8 ～ 10	下水道の清掃業務現場の交通誘導を依頼された警備会社の警備員が、下水道清掃業者の高圧洗浄車に轢かれたもの。高圧洗浄車が現場に到着し、運転者はマンホールの確認等のため運転席を離れた後、高圧洗浄車が無人で坂道を下り、高圧洗浄車と住宅の塀の間に被災者がはさまれた。※被災者は現場に到着直後、何らかの目的で高圧洗浄車の後部に行ったと思われるが、被災時に目撃した者はいなく理由は不明。	229	7	10～ 29
2021	2	8 ～ 10	堤防強化工事現場において、盛土を搬入するダンプトラックがバックで運搬路を進入する際、当該運搬路上で携帯電話を操作していた被災者の存在に気付かないまま、バックするダンプトラックと接触し、死亡したものの。	221	6	1～9
2021	3	14 ～ 16	県道沿いの斜面補強工事のため一般車両の通行止めを行っていた道路において、通行止めの解除を行った後、被災者は交通誘導を行っていた。最初にライトバンが通過した後、後続にミキサー車が被災者の近くを通過しようとした際、被災者が後ろ向きのままバランスを崩して約7.7メートル下の河川敷に墜落したものの。	221	17	1～9

2021	5	10 ～ 12	道路の拡幅工事において、被災者は交通誘導を行っていた。残土排出のため後進してきた4 tトラックに轢かれたもの。離れた位置で作業していた作業員が轢かれた被災者を発見し、運転手に停車を促した。その後、被災者は病院へヘリ搬送されたが死亡したもの。	221	7	10～ 29
2021	5	8 ～ 10	高速道路上において、入路車線路肩部の工事規制帯を徒歩にて移動していたところ、工事規制帯内に進入してきた一般車両にはねられたもの。	231	17	30～ 49
2021	5	12 ～ 14	商業施設及びホテルの解体工事現場において、解体建物内1階での待機指示を受け、その後、被災者が当該建物内1階の待機指示場所付近で倒れているのを発見された。傷病名は出血ショックを原因とした低酸素性脳症である。被災者が倒れていた付近には階段が設置されていたが、階段から転落したかどうかは不明。	999	99	10～ 29
2021	6	8 ～ 10	交通誘導員である労働者が、渋谷駅前の路上にてバス誘導をしている際に転倒し、バスの後輪に頭部を轢かれ、死亡した。	231	17	100 ～ 299
2021	6	12 ～ 14	同僚が運転する高所作業車がバックしたところ、被災者に激突し、被災者が当該高所作業車の下敷きとなった。	146	17	100 ～ 299
2021	6	12 ～ 14	ずい道掘削工事現場の汚泥を積み込んだダンプトラックが、現場から出発し、国道に出るため交差点を左折したところ、交差点でダンプトラックを誘導していた被災者に接触したもの。	221	17	300 ～ 499
2021	7	14 ～ 16	ガス管の布設工事に伴う片側交互通行の工事現場において、路盤材を積み込んだ3 tダンプトラックの後退に当たり交通誘導業務を行っていたところ、当該ダンプトラックの右後輪に轢かれたもの。被災者は病院に救急搬送されたものの、死亡した。	221	7	50～ 99
2021	7	10 ～ 12	出勤中の警備員が、ふ頭ゲートに立ち寄ったところ、門扉中央付近で被災者が血を流し、倒れていたもの。	418	6	100 ～ 299

2021	7	16 ～ 18	自宅にて倦怠感を覚え、その後発熱し、死亡した。症状発症時期に職場内で感染者が発生しており、業務引継ぎ等で接触があったと確認されている。	911	90	～ 299
2021	7	12 ～ 14	ガス管配管工事現場において、ドラグ・ショベルの誘導に従事していた被災者が、後進で走行してきたドラグ・ショベルのキャタピラに轢かれ被災したものの。	142	7	30～ 49
2021	8	16 ～ 18	水道管敷設工事において、警備員として道路上で交通誘導業務を行っていたところ、路肩で転倒し、法面を転げ落ち側溝に転落。被災後、直ちに救急搬送されたが熱中症による急性心不全で死亡した。災害発生日の気温は32.5℃（参考値）。	715	11	10～ 29
2021	8	2 ～ 4	新型コロナウイルス感染症による死亡災害。被災者は警備員、病院の警備業務を行っていたところ感染したものの。勤務中に症状（咳）が現れ、翌日発熱したことから病院にてPCR検査を受けたところ陽性判定、以降自宅療養を続けていたが、症状が悪化。入院後、さらに、容態が悪化したため別の病院に転院するも病状は改善せず死亡した。	911	90	50～ 99
2021	8	0 ～ 2	土砂崩れに係る復旧工事において、道路の通行止め場所の警備業務に1人で従事していたところ、走行していたトラックにはねられたもの。後日、多臓器不全により死亡。	221	17	～ 299
2021	9	2 ～ 4	被災者は、鉄道駅ホームにて、同僚警備員と二手に分かれて巡回警備を行っていた。同僚警備員は合流地点に被災者が現れないため、2番ホームを確認すると被災者が軌道内に転落していた。被災者は病院に搬送されたが、後日死亡した。	417	1	100 ～ 299
2021	9	6 ～ 8	被災者所属事業場は、受注した機械設備の整備工事に係る工事車両誘導等の業務を行う事業者であるが、被災者は構内に出勤後、同社構内の駐車場に社用車を駐車し、同社構内の道路を横断していたところ、構外道路から同社構内に左折、進入してきた車両に轢かれた。	231	6	10～ 29
		22	店舗駐車場にて車両を交通誘導中（被災者は事故発生時に公道（車道）に			100

2021	9	～ 24	いた)、誤って急発進でバックしてきた車両にひかれ、車両とブロック塀に挟まれ負傷。大量の出血となり、病院に搬送されるも意識が戻ることなく死亡。(尚、相手の運転手は酒気帯び運転で現行犯逮捕となる)	231	17	～ 299
2021	10	14 ～ 16	被災者は道路工事現場において交通誘導の業務に従事していたところ、当該現場を横断するダンプトラックの誘導をしようとしたときに、当該現場で使用していた工事車両(道路清掃車)が後進してきて下敷きとなり死亡したもの。	149	17	～ 299
2021	10	4 ～ 6	被災者は、車線規制をして高速道路を補修する工事の警備業務および車線規制等の標識を撤去する作業を担当していた。災害発生時、走行車線を規制せずに、工事用車両3台を路側帯に停車させて標識撤去作業を行っていた。被災者は走行車線にはみ出して立った状態で、3台のうち中央に停車させた工事用車両の荷台に標識を固縛する作業を行っていたところ、後方から走行車線を走行してきた12tトラックに激突されて死亡した。	221	17	～ 299
2021	10	16 ～ 18	被災者を含めた警備員2名により、国道に隣接する敷地に入出入りする大型ダンプの交通誘導業務を行っていた。大型ダンプを国道から同敷地に進入させるため、被災者が国道を走行してきた軽トラックに停止を求めたが、停止しなかったため、被災者が同軽トラックにはねられたもの。	221	17	50～ 99
2021	11	22 ～ 24	河川付替工事の交通誘導に従事していた被災者が、休憩時間を過ぎても作業場所へ戻ってこないため、現場周辺を捜索したところ、約50メートル先の川に浮いている状態で発見された。	713	10	50～ 99
2021	11	12 ～ 14	被災者は、中央分離帯の樹木の剪定作業(工事ではない)のため、片側3車線右端の中央分離帯に接する車線に交通規制をかけている作業帯の内側、交通規制看板の後方で交通誘導を行っていた。被災者は交通誘導中、右端車線を走行して作業帯に突っ込んできた乗用車にはねられて中央車線にとばされた直後、中央車線走行中の別の乗用車にも轢かれて死亡した。	231	17	10～ 29
2021	12	10 ～ 12	片側1車線の車道上にて、バイクを運転中、何らかの理由にて右側走行中の自動車と接触し、転倒。転倒したところを後続の自動車にはねられたもの。	231	17	50～ 99



2021	12	12	自動車専用道路パーキング入口付近において、路面工事のための車線規制をし、規制区域内にて設置した規制材の点検作業をしていたところ、規制区域内に進入してきた一般トラック（20t超）に轢かれた。	221	17	100 ～ 299
2020	1	8 ～ 10	工事現場において、道路の舗装作業中に後退してきた路面切削機と現場の警備員が接触し、警備員が路面切削機の後輪に轢かれて被災、心肺停止状態となり数時間後に死亡したものの。当時、被災者は西側車線から東側車線に移動中であった。	149	7	50～ 99
2020	1	14 ～ 16	工事現場の警備業務終了後、帰社するため軽自動車に同僚3人が乗り合わせ、国道を走行中、ガードレールに衝突し、後部座席に乗っていた被災者が死亡したものの。	231	17	50～ 99
2020	2	10 ～ 12	掘削用の防護壁の支柱として使用していたH型鋼（長さ：766cm、幅：30cm、重さ：約660kg）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルで吊り上げ、旋回していたところ、玉掛け用の吊りクランプから当該H型鋼が脱落し、付近で交通誘導をしていた被災者の背後に向かって倒れ、そのまま同者に激突したものの。	212	6	1～9
2020	3	18 ～ 20	被災者は、同僚2名とともに、委託先事業場の敷地内の巡回を行っていたが、敷地内のバスから海中に転落したものの。救出され病院に運ばれたが死亡した。	713	10	50～ 99
2020	3	14 ～ 16	被災者は道路の路面補修工事において、市内方面に向かう片側3車線のうち中央車線で交通誘導を行っていた。工事終了後、交通誘導を行いながら路上にあった交通規制資材の撤去中に、走行してきた第三者の運転するワゴン車にはねられ、約30メートルほど飛ばされたものの。	231	17	30～ 49
2020	3	20 ～ 22	道路の補修工事現場において、工事で発生したアスファルト屑の清掃を行う路面清掃車が後退を始めたところ、付近で一般車両等の誘導業務を行っていた警備員である被災者を轢き、被災者は路面清掃車の下敷きとなり死亡したものである。	149	17	50～ 99
		10	被災者は警備状況を確認するため、自宅から現場へ向かって社用車を運転			50～

2020	4	～ 12	していた途中、上記発生場所において、穴水方面から走行してきたトラックと衝突し、病院に搬送されたが、死亡した。	231	17	99
2020	5	6 ～ 8	自動車道の上り線での舗装工事において、夜間巡視を行ったのち、車内で待機していた労働者2名が、工事エリア路側帯に停車していたところ、車の中で意識不明の状態で見られ、搬送先の病院で労働者2名とも死亡した。なお、消防隊員が車内を測定したところ、硫化水素が検出された。	514	12	30～ 49
2020	5	6 ～ 8	自動車道の上り線での舗装工事において、夜間巡視を行ったのち、車内で待機していた労働者2名が、工事エリア路側帯に停車していたところ、車の中で意識不明の状態で見られ、搬送先の病院で労働者2名とも死亡した。なお、消防隊員が車内を測定したところ、硫化水素が検出された。	514	12	30～ 49
2020	6	12 ～ 14	警備員がセンサー異常による警報があった市内の契約先にパトロールに赴いたところ、脚立を登り、鉄骨2階建の建物の2階に上るために設けられていたローリングタワーの架設通路（階段）を登った際又は、降りる際に足を踏み外したか、バランスを崩してコンクリート床の地上に墜落して手首と踵を骨折した。入院加療中に血栓が心臓近くの血管に詰まり死亡した。	413	1	30～ 49
2020	6	6 ～ 8	被災者は、事務所に出勤後、同僚1名とともに、私物の自転車を運転し、警備対象の工事現場へ移動していた。事務所から約2.5kmの地点である川沿いの道路左側を北方向に走行中、突然、体勢を崩した被災者が左方向に転倒し、川に転落した。前日からの雨で増水していたため、被災者の姿はすぐに見えなくなり、その後、被災者の捜索活動が行われたが、翌日に被災者が発見され、死亡が確認されたもの。	362	17	10～ 29
2020	6	10 ～ 12	国道沿いにある交通遮断機の点検及び保守業務を行う紀南管内道路構造物点検業務工事において交通誘導業務を行っていたところ、走行してきた軽トラックにはねられ、死亡したものである。	221	17	50～ 99
		14	工事現場内のドラグ・ショベルAの誘導を行うために入っていた被災者は、作業の進行で不具合が生じたため、一時、誘導をしていたドラグ・ショベルAの近くから離れた。その際に、同じ敷地内でドラグ・ショベル			100

2020	7	7 ～ 16	Bが掘削した土砂を運搬していたダンプトラックが、積み込み場所を変えるため移動し、後退している途中で、ダンプトラックの左後方部にはねられた。	221	6	～ 299
2020	7	2 ～ 4	フェリーターミナルにおいて、係留ロープの脱着、車両誘導作業を行っていた労働者が、フェリー到着時に係留ロープ作業箇所になかったことから、同僚が搜索したところ、海面にうつぶせの状態で見つかったもの。	713	10	～ 299
2020	7	14 ～ 16	片側二車線の県道上にて、片側の右側車線を閉鎖し、中央分離帯の除草作業中、被災者（警備員）が道路上で右側車線の走行車両を左側車線に誘導していた際、暴走してきた乗用車に追突されたもの。その後、暴走車は他の2名の被災者（除草作業員）にも追突した。	231	6	30～ 49
2020	8	14 ～ 16	片側交互通行規制された道路工事現場において、赤信号を無視して走行してきた軽トラックが、路肩のガードレールに激突した反動で工事区域に弾き飛ばされ、工事区域内に設置されたテント内で交通監視業務（仮設信号機の作動、保安用資材等の点検確認作業）を行っていた被災者に激突した。なお、現場には、ブレーキ痕は残されていない。	221	17	10～ 29
2020	8	8 ～ 10	施工する工事現場において、交通誘導を行っていた被災者が何らかの理由でドラク・ショベルの作業範囲に立入った際、バック走行してきたドラク・ショベル（機体重量1 t以上）のキャタピラー部分にひかれて死亡したものの。	142	7	100 ～ 299
2020	8	12 ～ 14	下水道工事において交通誘導警備員として労働者3名が配置されていた。午前頃から交通誘導警備を開始。お昼ころ、被災者から労働者Aに無線で体調が悪いと連絡が入り、被災者は現場近くに駐車していた労働者Aの車両にて休憩に入った。労働者Aが被災者の様子を見に行ったところ、返事がなく救急要請。搬送先医療機関にて死亡した。	715	11	10～ 29
2020	9	14 ～ 16	工事現場の車道で工事車両が停まっていたので、追突防止の為に幅寄せを行っていたところ、前方から来たバイクに追突され、工事車両に激突、被災者は死亡したものの。	231	17	10～ 29

2020	10	6 ~ 8	自動車道の夜間集中工事にて、下り線の車線規制解除するために、ラバーコーンをトラック荷台後方に付設した専用の搭乗設備に乗って回収していたところ、コーンを2つ回収したところで作業者が転落した。トラックは徐行しながら後進していたため、右後部タイヤ部分で轢かれたため死亡したものの。被災者はヘルメット着用していた。	221	17	10~ 29
2020	10	22 ~ 24	道路上で片側交互通行にして水道管設置工事を行っていたところ、交通誘導の警備員が誘導に従わず進行してきた車両にはねられて死亡した。	231	17	30~ 49
2020	11	12 ~ 14	道路工事において、工事区間の交通規制に従わなかった車両が、規制区域内で警備業務を行っていた被災者をはねたもの。	231	17	1~9
2020	11	14 ~ 16	片側1車線対面通行の自動車専用道路の片側車線を規制して側溝付近の草刈り作業が行われていた箇所で、交互通行するための交通整理をしていた被災者が、通行車両にはねられたもの。	231	17	30~ 49
2020	11	16 ~ 18	災害発生当日、被災者を含む3名の労働者は、工事現場の交通誘導業務に従事していた。業務を終了後、事業場事務所に移動していたところ、被災者が運転する軽トラックが法面に乗り上げて横転した。その後、軽トラックは電柱に追突し、被災者は電柱と軽トラックに挟まれた。	221	17	30~ 49
2020	11	22 ~ 24	補修工事を終えた道路の警備をしていた被災者が、勤務時間中に転倒し、路面に後頭部を打ち付けて死亡したもの。	417	2	10~ 29
2020	12	16 ~ 18	被災者は、業務終了後本社へ戻るためオートバイで走行していたところ、ガードレールに衝突し、衝撃で投げ出され放水路に転落し、全身を強く打ち死亡したものの。	231	17	100 ~ 299
2020	12	8 ~ 10	交通規制に係る誘導業務に就いていた被災者が、マイクロバスにはねられ死亡した。	231	17	100 ~ 299

2020	12	8 ～ 10	被災者は、トンネル工事現場の交通誘導員として入場し、所定の作業場所である出入口付近に移動中であつたところ、隧道内部より掘削した土砂の搬出作業により走行中のダンプと接触し被災したもの。	221	7	50～ 99
2019	2	20 ～ 22	被災者は、会社構内の警備業務に従事していたものであるが、翌朝、出勤してきた者が守衛室に被災者の姿がないことに気付き、搜索していたところ、海に浮いている被災者を発見したもの。なお、翌朝まで守衛室のボードが「巡回中」となっていたこと、巡回時に使用する双眼鏡が海底から発見されていること等から、夜間の巡回中に被災したものと推定される。	418	10	30～ 49
2019	2	14 ～ 16	電気工事現場において、一般車両の交通誘導業務を行っていたところ、一般道路を走行してきた乗用車に衝突されたもの。	231	17	50～ 99
2019	3	2 ～ 4	市内の保線工事に関し、自動車等が当該現場に立ち入らないように、現場責任者（施工者）より指定された場所（当該工事現場から約360m離れた道路上）で被災者（警備員）が1人で車両誘導をしていたところ、車道を走行中の乗用車に跳ね飛ばされて被災（死亡）した。	231	17	30～ 49
2019	3	2 ～ 4	港の巡回警備において、社有車で街灯のない港を巡回していたところ、何らかの原因で港から社有車ごと海に転落し、溺死した。	231	10	100 ～ 299
2019	4	8 ～ 10	被災者は、道路整備工事現場において、現場の周辺に規制表示の看板を設置した後、現場に移動するため規制エリア内を歩いていたところ、規制表示を無視して侵入してきた乗用車にはねられ、頸椎損傷により死亡したものである。	231	17	100 ～ 299
2019	4	6 ～ 8	被災者ら2名で、建設工事現場の警備業務に向かうため乗用車で移動中、交差点で信号を右折しようとした際、対向車線を直進してきた軽ワゴン車と衝突し、後部座席に乗車していた被災者が死亡した。	231	17	1～9
2019	4	10 ～ 12	交差点付近で交通誘導業務を行っていたところ、警備員の誘導を無視して走行した軽自動車にはねられたもの。	231	17	10～ 29

2019	7	14 ～ 16	掘削土砂運搬現場において、堤防上を警備していた交通誘導員がうつ伏せで倒れているのを通行したダンプトラックの運転手が発見して救急車で病院へ搬送されたが、熱中症により死亡したもの。 気象条件 天候晴れ 気温 32.8度 風速0.5m/s	715	11	10～ 29
2019	7	14 ～ 16	被災者は、工事現場において、片側交互通行規制の交通誘導を行っていたところ、停止の合図を無視してきた一般車両に轢かれたもの。その後、入院加療中であったが、後日容態が急変し死亡した。	231	17	50～ 99
2019	8	14 ～ 16	被災者が朝から交通規制に伴う交通誘導業務を行っていたところ、意識を失ったもの。なお、被災者が倒れたところを現認した者はいない。昼ごろに歩行者が路上で倒れている被災者を発見し、病院に救急搬送されたが、後日熱中症の疑いで死亡した。	715	11	10～ 29
2019	8	14 ～ 16	被災者は岸改修工事で交通誘導員として現場の工事用車両の搬出入の誘導を行っていた。夕方頃、被災者の体調の異変を感じた同僚が休憩を指示し、被災者は休憩所に向かったが、25分後、別の同僚が休憩所へ向かう途中にある公衆トイレの前で倒れている被災者を発見した。その後、被災者は救急車で病院に搬送され、死亡が確認された。	715	11	100 ～ 299
2019	8	8 ～ 10	工事現場から道路へ出るダンプトラックを誘導するため、道路上で、北進する一般車両に停止の合図を行っていたところ、当該一般車両にはねられたもの。	231	17	10～ 29
2019	8	8 ～ 10	被災者は建設工事現場前の道路上で当該工事に係る交通誘導警備員として被災事業場の労働者Aと2名体制で交通誘導の業務に従事していた。被災当日、当該工事に係る荷の搬入のため、車両積載型トラッククレーン（最大積載荷重2トン）の誘導を当該車両の後方から行っていたところ、後退してくる当該車両の後輪に被災者が轢かれたもの。	212	17	100 ～ 299
2019	9	14 ～ 16	市道で橋梁の点検作業に使用する高所作業車が坂道を逸走し、同作業のため交通整理にあたっていた警備員に激突したものである。	146	6	30～ 49

2019	9	12 ～ 14	被災者は、高速道路上で通信ケーブル張替敷設工事に係る交通誘導規制作業及び警備業務を行っていた。工事終了後、資材車の助手席に乗り、矢印板テーパー等の撤去作業を行った。同僚は、荷台の整理を行うため、路肩に資材車を止め、整理作業を行っていたが、被災者が資材車から降りてこないため、様子を確認したところ、意識を失っていた。病院に搬送され、治療を行っていたが後日死亡した。	715	11	10～ 29
2019	9	22 ～ 24	路面補修工事において、廃材を運搬する大型ダンプを誘導中、バックしてきた大型ダンプに轢かれ死亡したもの。	221	7	30～ 49
2019	9	22 ～ 24	被災者を含む3名で施設警備業務中、被災者が巡回終了予定時刻になっても戻らないことから、他の2名が施設内を捜索していたところ、濁水でほぼ満水となっていた集水枡（縦横55cm、深さ1.2m）内に上半身を前に屈めた状態で沈んでいた被災者を発見した。集水枡にはグレーチングが設置されていたが発見時には開いていた。	419	10	100 ～ 299
2019	9	10 ～ 12	高速道路の道路工事の交通誘導業務に就いていた被災者は、当該工事が終了したため、交通規制の撤去作業を行っていたところ、走行してきたトラックと接触し、規制車両との間に挟まれたもの。	221	17	10～ 29
2019	9	10 ～ 12	事業場敷地内に植えられた樹高3.3mほどのヒバ（アスナロ）の剪定を、脚立に上って作業していたところ、バランスを崩し約1.9～2.2m墜落し、頸部損傷により死亡した。	371	1	10～ 29
2019	11	8 ～ 10	被災者は、警備先の埠頭の出入りゲートに詰める警備員。ゲートから出る車には、右折禁止・左折のみ可と指示しているが、右折しようとする大型キャリアカーの社名入りの5台以上積載型（空荷）を見て、制止のためゲートを出て、手を振りながら、当該車両に左後方から接近したところ、突然左折した当該車両の左側方に巻き込まれて引きずられ、全身打撲で死亡した。	221	17	30～ 49
2019	12	2 ～	下水道管工事現場にトラックが突っ込み、警備員2名（うち1名死亡）がはねられ、さらに停止していた工事車両に追突し、当該車両の付近にいた	221	6	100 ～

		4	作業員4名（うち1名死亡）と警備員1名も巻き込まれたもの。			299
2018	1	18 ～ 19	神社の雑踏警備業務終了後、帰社するため社用軽自動車に同僚4人が乗り合わせ、自動車道上り車線を走行中、追越車線を走行中の普通自動車（私用目的）がスリップして右後部に追突したため横転し被災した。災害時、雪による50キロ速度規制となっており追突された軽自動車は時速50キロで走行していた。後部座席の2名はシートベルト未着用であった。	231	17	100 ～ 299
2018	1	0 ～ 1	警備場の警報を本社管制センターが受信。待機所の被災者へ管制センターより指示があり、確認のため1名で庁舎1階電気室へ向かった。その後、庁舎内の被災者と連絡が取れなくなったため、他の待機所より同僚が、現地に到着したところ、焦げた臭いを感じ119番を行った。消防隊員が庁舎内から被災者を救出したが、病院にて死亡が確認された。	352	13	300 ～ 499
2018	1	22 ～ 23	被災者は、排雪作業現場で一般車両の交通誘導を交差点の道路上で行っていたところ、被災者の後方から後進してきたモーター・グレーダーが、交差点を後進のまま左折したところ、外輪差のために右側前輪で被災者を轢いたもの。なお、助手席に乗り込んでいた助手が倒れている被災者を発見し、救急車により病院に搬送されたが死亡したもの。	141	17	30～ 49
2018	2	8 ～ 9	被災者は雪堆積場の出口で退場するダンプトラックの交通誘導の業務を行っていたところ、道道から右折して当該雪堆積場に入ろうとしていたダンプトラックが、対向してきた乗用車に衝突し、その反動で当該乗用車が被災者の立っていた場所に突っ込み、被災者が撥ねられて死亡したもの。なお、衝突された乗用車の運転手は出勤途中であり、軽傷を負った。また、ダンプトラックの運転手には怪我はなかった。	221	17	30～ 49
2018	2	16 ～ 17	競輪場内での警備業務終了後、帰社のため敷地内駐車場に停めた車輛へ向かう途中、うつ伏せで倒れていたところを同僚により発見された。発見当時、被災者は顔面を強打しており、出血した状態で意識が無かったため、救急搬送により療養も、後日多発脳梗塞により死亡が確認されたもの。	418	2	50～ 99
		8	市道沿いの街路樹の剪定作業を行う現場において、被災者が道路上で交通誘導を行っていたところ、市道を北側から走行してきた乗用車にはねられ			



2018	2	～	たもの。現場はセンターラインのある片側1車線の直線道路で、市道の幅	231	17	10～
	9		は約9mであった。被災者は約2時間後に搬送先の病院で脳挫傷で死亡した。			29
2018	2	～	被災者は、防災センターにて受付業務に従事していた際、座っていた椅子	921	90	30～
	21		から倒れたため、同僚が救急車を要請し、病院に搬送された。同日から入院し、療養を継続していたが後日くも膜下出血により死亡したものの。			49
2018	3	10 ～ 11	商業ビルの機械式駐車場の警備員が、車両の入庫誘導作業を行っていた際に、入庫者の求めに応じて、搬器奥にある車誘導ミラーの清掃を行おうとしたところ、搬器と躯体との間の隙間から約11メートル下の地下2階に墜落し、腹腔内臓器損傷により死亡したものの。	416	1	1000 ～ 9999
2018	3	10 ～ 11	県道において、橋接ぎ部等の改修工事に伴う車線規制（片側交互通行）が行われていた。車線規制の中程（上流側）路側帯で交通誘導を行っていた被災者が、前方不注意の乗用車に跳ね飛ばされ、その勢いで欄干（高さ9	231	17	10～
			3cm）を乗り越えて約9m下の河川中州（根固めブロック上）に墜落し、死亡した。			29
2018	4	2 ～ 3	被災者の勤務地である守衛室において、体調異変が生じたため救急隊に搬送された（急性心筋梗塞）。その後、死亡したものの。	921	90	1～9
2018	4	8 ～ 9	被災者は、道路拡幅工事現場で、交通誘導業務を行っていたところ、道路上に設置されたカラーコーンをなぎ倒しながら走行してきた軽トラックにはねられ、病院で治療を受けたが、死亡したものの。また、被災者の近くで	221	17	50～
			作業を行っていた別法人の事業者の役員（専務取締役）もトラックにはねられ負傷したものの。			99
2018	6	2 ～ 3	所在する大学守衛室において、夜間の警備業務に従事する被災者は毎朝警備状況についての定時報告を行うことになっているにもかかわらず、当該報告がなされず、また、電話にも応答しなかったため、被災者所属事業場の	371	1	50～
			労働者が当該守衛室に赴いたところ、血を流して倒れている被災者が発見			99

			されたもの。死因は「急性硬膜下血腫」。			
2018	6	22 ～ 23	国道の橋梁補修工事において、被災者は片側二車線の内、左車線の交通規制のため、右車線へ交通誘導を行っていたところ、左車線を走行してきた乗用車に激突された。	231	6	50～ 99
2018	6	12 ～ 13	警備を行っている店舗内において、「脳幹出血」を発症させ死亡したものの。	921	90	50～ 99
2018	6	14 ～ 15	小学校の耐震工事現場において、交通誘導をしていた労働者が、現場近くの交番に押し入り拳銃を奪った加害者に銃撃され被災したものの。	911	90	50～ 99
2018	7	22 ～ 23	豪雨で川が増水したため、国道の通行止めを行うことになり、警備員22名を配置した。うち、10名及び行き場を失っていた4名の一般人は、国道上まで増水した濁流にのまれ、警備員2名が流され、残り12名は河川脇の竹林につかまり命は助かった。警備員2名は遺体で発見。	713	10	100 ～ 299
2018	7	22 ～ 23	豪雨で川が増水したため、国道の通行止めを行うことになり、警備員22名を配置した。うち、10名及び行き場を失っていた4名の一般人は、国道上まで増水した濁流にのまれ、警備員2名が流され、残り12名は河川脇の竹林につかまり命は助かった。警備員2名は遺体で発見。	713	10	100 ～ 299
2018	7	12 ～ 13	被災者は午前から線路上で行われていた電気設備工事の現場で列車見張り警備の業務に従事。昼の休憩中に作業員集合場所の道路上で寝ていることを不審に思った同僚が声をかけたところ体調不良を訴えたため、応急手当を行ったが回復せず、救急車を要請、病院へ搬送されたが熱中症により死亡した。	715	11	100 ～ 299
2018	7	14 ～ 15	大学の試験があり、会場周辺の道路での違法駐車防止及び道案内のため警備を行っていた被災者が、駐車場北側で倒れているところを通りがかった人が見つけ、消防に通報し、病院へ搬送されたが、熱中症により死亡と診断されたもの。	715	11	10～ 29

2018	7	6 ～ 7	橋梁建設工事において、警備業務に従事していた被災者が、作業現場内のトイレカーの横で俯せに倒れているところを発見、救急車で搬送したが、後日熱中症により死亡した。	715	11	50～ 99
2018	7	12 ～ 13	山頂にて安全誘導業務に従事していたが、台風接近に伴い早めに勤務交替をし、2名で下山中、強風により動けなくなり、救助を要請した。救助隊合流時には意識が朦朧としており、救急車で搬送中、心肺停止、翌日、搬送先の病院で低体温症にて死亡。	715	11	100 ～ 299
2018	8	4 ～ 5	道路拡張工事に伴う電柱工事の現場で交通規制誘導業務に従事していた被災者が資材をトラックへ積み込んでいたところ、加害車両が別の警備員の制止を振り切って直進し、被災者をはねて積込作業中のトラックに激突した。被災者は病院に搬送されたが、当日死亡した。	231	17	10～ 29
2018	8	2 ～ 3	自動車IC追越車線（車線規制内）において、交通規制撤去作業中の被災者は、保安用資機材（カラーコーン）を積込むために後退してきた2tトラック平ボディに轢かれた。なお、加害車両を運転していた者は、同じ事業場の同僚である。	221	7	30～ 49
2018	9	10 ～ 11	片側1車線を規制し道路工事を行っていたが、交通誘導をしていた警備員が、現場にバックで入場してきたトラックに轢かれたもの	221	17	50～ 99
2018	9	4 ～ 5	高速道路保守工事の交通誘導を行っていた被災者は、工事終了の後片付けで、500メートル先で工事を行っていることを走行車に知らせる標識の撤去作業に立ち会い、中央分離帯上から追い越し車線を通行する大型車を確認したので作業員に道路横断をやめさせ、減速を確認した上で、中央分離帯から路側帯へ横断しようとしたところ、大型車の後方を走行してきた加害者乗用車が、大型車を左側から追い越し、被災者をはね飛ばしたものの。	231	17	10～ 29
2018	9	20 ～	工場で警備警報があり被災者が現場に向かったが、その後、連絡がつかなくなった。同僚警備員が現場に駆け付けたところ、被災者が運転した車両がエンジンがかかったままで本人行方不明であったため警察に通報。警察	713	10	10～

		21	で被災者の行方を捜査していたところ、後日、現場から12キロ下流の 川の三角州において被災者の遺体が発見されたもの			29
2018	10	2 3	国道において国道の舗装修繕工事の事前調査のため片側通行の道路規制を かけていたところ、走行してきた大型トラックが道路規制の停止線を越え 標識車の後部に追突し、標識車の運転席にいた労働者が追突によるショッ クで心肺停止し、搬送先の病院で死亡が確認された。また助手席にいた労 働者も軽傷（鼻血のみ）を負ったもの。	221	17	10～ 29
2018	10	2 3	夜間、埠頭内の警備業務において、11ゲートから8ゲートに自転車で移 動している際に、岸壁から海へ転落したものの。事故当時、雨天であった。	418	10	10～ 29
2018	10	12 13	被災者が道路工事に伴う片側交互通行規制の交通誘導員をしていた際に、 走行してきた乗用車が被災者の立つ停止位置に気付かず規制車線内に進入 しようとし、被災者に激突したものの。	231	17	30～ 49
2018	12	12 13	被災者は、下り車線において、高速道路上の工事に伴う車線制限誘導作業 を北に向かって行っていたところ、南から同僚の運転する2トントラック が後退し、それに轢かれた。その後、病院に搬送されたが、出血性ショッ クにより死亡した。	221	6	50～ 99
2018	12	12 13	警備を終え次の現場に原動機付バイクに乗って移動中の事故。信号待ちを していたところ、右折をしようとしていたトラックに信号無視の乗用車が ぶつかり、その反動でトラックが被災者に突進し、トラックの下敷きと なった。	231	17	30～ 49
2017	1	14 15	市場において警備業務に従事していたところ、午後2時頃に胸痛を訴え胸 を押さえながら苦しんでいる状態であったため、病院に救急搬送したが、 同日午後10時に急性心筋梗塞により死亡。	921	90	50～ 99
2017	1	12 13	タイヤ会社において、荷物搬送用エレベーターの点検作業を行っていた被 災者が搬器の上端の梁と2階エレベーター出入り口部の上部との間に上半 身と右足を挟まれた状態で発見された。	141	7	10～ 29

2017	2	20 ～ 21	公園内を軽トラックにより、警備巡回中、Uターンしようと敷地外の村道に出たところ、トラックが縁石にぶつかって横転し、車外に投げ出された労働者が被災した。	221	17	50～ 99
2017	2	16 ～ 17	下水道工事現場において、町道を走行するドラグ・ショベルの土場までの交通誘導を終え、町道を歩いて下水道現場に置いてある車に戻る途中に、何らかの理由で倒れた。倒れていた被災者は誘導旗の棒の先端が右目を貫通している状態で発見された。歩行中、町道の側溝の取手穴に躓いて転倒したものと推定される。	417	2	30～ 49
2017	2	0 ～ 1	電路のがいしを交換する作業のため、工事指揮者1名、作業責任者1名、作業従事者1名、見張人1名が現場配置した。下り線の作業であったが、上り線の貨物列車の通過を待つため、作業等者は退避、見張者は当該貨物列車にライトで退避完了を合図していたところ、当該見張者が貨物列車先頭車両右側面に接触した。	232	18	10～ 29
2017	2	4 ～ 5	工事中のトンネル内を車で巡回する夜間の警備業務の合間に、社用車内で待機していた被災者が、翌朝、死亡した状態で発見された。	921	90	30～ 49
2017	2	6 ～ 7	高速自動車道の片側2車線道路において、走行車線を走っていた営業所の大型トラックが渋滞の最後尾にいた被災者ら4名が乗車した軽ワゴン車に追突し、軽ワゴン車は押し出され次々と前の車に玉突きし、計5台が絡む事故が発生した。この事故による死傷者は計9名。	221	17	10～ 29
2017	3	10 ～ 11	坂道で行う下水道工事において、運転手が降りて無人となったダンプトラックが動き出し、交通誘導警備を行っていた警備員に衝突。警備員はダンプトラックとガードレールに挟まれ死亡した。ダンプトラックが動き出したことに気が付いた工事作業員が警備員の存在に気が付かないまま、ガードレール越しにダンプトラックのハンドル操作を行い、ガードレールにぶつけて止めようとしていた。	221	7	100 ～ 299
		10	事業所内のT字路において、トラックの後進誘導を業務とする警備員の被災者は、近接する休憩所において休憩していたが、T字路から後進してき			

2017	4	～ 11	たトラックを見た被災者は、これを誘導するため、急いで休憩所を出た。被災者が車道に入ったところ、前進走行してきた別のトラックに激突され被災した。	221	6	1～9
2017	5	0 ～ 1	踏切修繕工事の交通誘導を6人の警備員で開始した直後、被災者は用を足しに持ち場を離れた。1時間経過しても被災者が持ち場に戻って来ないため、周辺を捜索していたところ、近くの水路で心肺停止の状態で見つかった。	713	10	100 ～ 299
2017	5	2 ～ 3	午前2時頃、被災者は、道路工事が終わりバイクで現場休憩所に向かっていた。被災者が帰ってこなかったため、現場休憩所で待っていた同僚が付近を探していたところ、6時30分海中の被災者を見つけた。現場休憩所には、決められた経路を通行するよう指示されていたが、被災者は、決められた経路以外をバイクで通行し、バイクごと海へ転落した。	231	18	10～ 29
2017	6	14 ～ 15	小型オートバイ（125cc、被災者所有）で、休憩していたスーパーマーケット脇の路上から約100m離れた小学校近くの担当の警備現場まで移動中だった被災者が、反対側の歩道に渡ろうとして車道に出てきた歩行者（非労働者）と接触しそうになり避けようとした際に転倒し、脳挫傷、頭蓋骨骨折、肋骨骨折等を負った。歩行者も転倒し、顔面及び右腕を打撲した。	231	17	50～ 99
2017	7	14 ～ 15	被災者は、宅地造成工事現場の警備業務に従事していた。当日の現場作業終了後、工事関係者が現場の片付けを行っていたとき、被災者が体調不良となったため、救急車で病院へ搬送したが、翌日搬送先の病院において、熱中症による多臓器不全により死亡した。	715	11	30～ 49
2017	7	10 ～ 11	建築現場において、上水管引き込み工事現場における公道の交通誘導を1人で行っていた警備員が、業務中にふらつき倒れ込んだため、救急搬送されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。	715	11	100 ～ 299
2017	7	16 ～	道路工事現場において、作業に使用していたドラグ・ショベルを駐車スペースに移動させていた際、前方にコーン等が配置されていたため、ドラグ・ショベルを後退させたところ、後方にいた交通誘導員に激突し、交通	142	6	10～ 29

		17	誘導員がドラグ・ショベルの下敷きになり死亡した。			
2017	8	10 ～ 11	被災者は、線路沿いにある電柱の電線にプロテクターを設置する工事の警備を行うのに、同僚警備員1名とともに、工事作業員4名に随行し、最後尾で工事場所へ向かって山中を徒歩で移動中、同人が運搬していた工事用の資材等が谷側に落ちたため、同資材を取りに行こうとして谷へ墜落した。	711	1	10～ 29
2017	8	10 ～ 11	被災者は斎場の屋外において来客者の案内と車両の誘導を行っていた。斎場において告别式が開始され、新たな来客者も途絶えていたところ、被災者が斎場前の道路の路側帯に後頭部を打ち付け倒れていたところを、通行人に発見され、救急車で病院に搬送されたものの、死亡が確認された。	999	2	50～ 99
2017	8	8 ～ 9	道路標識交換現場において、車線規制に伴う交通整理を行っていたところ、乗用車に背後からはねられ、病院へ搬送されたが、死亡した。	231	17	50～ 99
2017	8	0 ～ 1	被災者は、県道の車線の中央側に立ち、一般車を左車線に交通誘導する作業に従事していたが、中央側車線を走っていた一般車（軽四輪車）が交通誘導に気付かず、そのまま直進し被災者と激突した。	231	17	10～ 29
2017	9	10 ～ 11	歩道舗装工事現場において、被災者は交通誘導員として中央線付近で一般車両の交通誘導業務に従事していたところ、当該工事現場に隣接する事業場敷地内に駐車された無人のトラックが動き（前進し）だし、約2.5m走行し、被災者を轢き、さらに5m走行し停車した。トラックの駐車位置から被災者の作業位置までは最大5度の下り勾配になっている。	221	17	10～ 29
2017	9	12 ～ 13	出張先から本社に戻る途中、バイクで道路を走行中、道路脇のガードレールや縁石に接触、転倒し負傷した。入院加療中であったが、翌日に死亡した。	231	17	100 ～ 299
2017	9	16 ～ 17	道路舗装工事を行うため、片側1車線を規制していた。被災者は、交通誘導員として片側交互通行の車両を誘導しており、アスファルトを運搬してきた10tダンプの通行案内をしていたところ、当該ダンプとガードレール	221	17	1～9

			ルの間に挟まれ、後日死亡した。			
2017	9	0 ～ 1	被災者は、商業店舗の警備を行っていた。店舗の営業時間が終了し、店舗の従業員が帰る際に駐車場のシャッターが完全に閉まっていなかったため確認したところ、被災者がシャッターと乗っていたバイクに挟まれた状態であることを発見した。救急搬送されたが、死亡が確認された。	391	7	300 ～ 499
2017	9	10 ～ 11	県道バイパス工事の道路標識の取付け工事を行っていた現場で、工事車両を誘導していた誘導員が、隣の工事区間に土砂を運搬してきた10トンダンプの後進により轢かれて死亡した。	221	6	10～ 29
2017	10	12 ～ 13	被災者は、道路上に設置した交通規制標識の後方で、橋梁の点検業務のための交通誘導を行っていたとき、車両停止線で停止せずに走行してきた乗用車にはねられ、死亡した。	231	17	100 ～ 299
2017	10	16 ～ 17	舗装道補修工事の終了後、トラックを止め工事中の看板等を回収していたところ、交通整理を行っていた警備員が南進してきた乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
2017	10	14 ～ 15	ガス管の新設工事現場において、歩行者等の交通誘導員として現場に入っていた被災者が、現場作業を終えてバックしたダンプに公道上で激突され被災した。	221	17	50～ 99
2017	11	6 ～ 7	事業場の倉庫前面の公共バスにおいて、貨物搬入待ちのトラック1台を被災者（警備員）が誘導していたところ、トラックの左前部が被災者に接触し、その際に押し倒されるようにしてトラック左前輪でひかれて被災した。	221	6	30～ 49
2017	11	10 ～ 11	安全施設等工事において片側交互通行の南側で交通誘導中、走行してきた2tトラックに停止の合図を出したところ、2tトラックが停車せずに突っ込んできて、誘導員である被災者がはねられた。	221	17	10～ 29
2017	11	16 ～ 17	工事現場前の路上において、工事用の資機材を載せて駐車していたトラックの後ろに立って交通誘導をしていた警備員が、突っ込んできた乗用車とトラックの間に挟まれた。	231	17	100 ～ 299



2017	11	2 ～ 3	夜間に、病院構内の警備業務をしていた被災者が、同病院内の警備室に戻らないため、同僚が搜索したところ、巡回経路上の病棟横における階段下に倒れていた被災者を発見した。	413	1	30～ 49
2017	12	6 ～ 7	高速道路の舗装補修工事に伴う車線規制のため、被災者ら交通誘導員が標識等の設置作業を行っていたところ、走行車線を走行中の大型貨物自動車が路側帯に停車していた規制車両2台に衝突し、近くにいた被災者及び同僚をはねた。被災者は頭部損傷により死亡した。	221	17	50～ 99
2017	12	0 ～ 1	被災者は午前0時から、警備員としてフェリー乗場で車両等の監視業務をしていたが、午前1時55分頃、喫煙のため警備室を離れた後、行方が分からなくなり、午後1時50分頃、フェリーターミナル付近の海底で沈んでいるのを発見された。	419	10	30～ 49
2016	1	17 ～ 18	工場の新築工事現場で警備の業務を行っていた被災者が、圧送作業を終えたコンクリートポンプ車（長さ7.43メートル、幅2.24メートル。以下ポンプ車）の交通誘導時にポンプ車に激突された。	149	17	50～ 99
2016	2	17 ～ 18	自動車道の非常停車帯において、工事のための交通規制標識の撤去作業を行っていたところ、走行してきた自動車が停車中の作業トラックに衝突し、衝突された作業トラックと前方に停車していたもう1台の作業トラックの間にいた警備員2名がはさまれた。	231	17	1～9
2016	2	17 ～ 18	自動車道の非常停車帯において、工事のための交通規制標識の撤去作業を行っていたところ、走行してきた自動車が停車中の作業トラックに衝突し、衝突された作業トラックと前方に停車していたもう1台の作業トラックの間にいた警備員2名がはさまれた。	231	17	1～9
2016	2	14 ～ 15	道路工事現場において、自転車通行者を誘導していたところ、後進してきた工事車両のトラックにひかれた。	221	7	50～ 99
2016	2	9 ～ 10	水路改良工事現場において、作業開始後、作業の進行に伴い4tダンプ車を傾斜路に停車させ、バックホーにて荷卸し作業中に停車していた無人の4tダンプ車が動き出し、交通誘導員の被災者がひかれた。	221	6	30～ 49

2016	2	5 ～ 6	被災者はビルの守衛業務を朝9時から24時間行う予定であった。午前零時頃に仮眠をとり、朝5時頃に目覚めた被災者は、地下にある休憩室から1階のトイレに行き、その後、休憩室に戻る途中で階段を踏み外して踊り場に転落し、壁に頭を打ち付けた（推定）。6時半に出社してきた同僚が踊り場に倒れている被災者を発見し、救急車で病院に搬送したが5時間後に死亡した。	413	1	100 ～ 299
2016	3	10 ～ 11	病院の駐車場にて入場車両の整理業務に従事中、場内の車両が後方に急発進し、被災者を車両下に巻き込み、引きずりながら後方の植込みの樹木に車両後部を激突させ、停止した。	231	6	10～ 29
2016	3	10 ～ 11	警備員を送迎するため車を運転中意識を失い、バスの案内所に衝突して停車。その後病院に運ばれたが、3日後にくも膜下出血、低酸素脳症により死亡した。	921	90	300 ～ 499
2016	3	6 ～ 7	事務所より、社用車（軽四貨物自動車）を運転し、現場に向かっていた。途中の国道で、信号待ちで停車していた中型貨物自動車に追突、軽四貨物自動車はキャビン中央付近から出火炎上し、被災者は全焼した軽四貨物自動車の中から遺体で発見された。	221	17	50～ 99
2016	4	0 ～ 1	被災者は給水管の移設工事現場において、片側3車線道路のうち1車線を交通規制して交通誘導業務に従事していたところ、土砂を積み込むために後退してきたダンプトラックと接触して仰向けに倒れ、同トラックの右後輪に右腰部を轢かれて被災した。	221	17	30～ 49
2016	5	10 ～ 11	被災者は、工事現場で交通誘導を行うため、資材置場から自家用バイクで移動中、国道上で転倒し、道路脇のガードレールへ激突した。その後、救急搬送され、同日午後0時27分にバイク転倒事故による心臓大血管破裂で死亡した。	231	17	30～ 49
2016	5	10 ～	ガス管敷設工事で、片側一車線の北側車線を規制し、午前9時より作業を開始した。現場の東側のガス管を溶接するため、現場の西側の溶接機を積んだトラックと現場の東側のトラックを入れ替える際に、元請労働者が	221	6	10～ 29

		11	バックで溶接機を積んだトラックを移動中、このトラックを誘導していた被災者が轢かれ死亡した。			
2016	6	15 ～ 16	被災者は漁業権エリア内での違反採貝者の取締り等を行っていた警備員であるが、海中で溺れている者がいると助けを求められ、漁業権エリア外まで同行して溺れている者を確認し、海に飛び込んだが溺れた。消防隊員が駆け付けて引き上げた際には心肺停止状態であり、搬送先の病院で死亡が確認された。	713	10	30～ 49
2016	7	23 ～ 24	道路補修工事現場において、道路上で車両の交通誘導を行っていた被災者が、70代男性の運転する乗用車にはねられ被災した。	231	17	10～ 29
2016	7	17 ～ 18	T字路で、車の誘導をしていた警備会社の労働者（被災者）が、交差点の中央付近で、背後から走行してきた軽自動車にはねられ、転倒し頭を強打した。すぐに病院に搬送され治療していたが、脳挫傷のため死亡した。	231	17	30～ 49
2016	8	10 ～ 11	国道上において交通誘導員が誘導作業中、工事現場から国道に出た2tトラックに轢かれ死亡した。	221	17	10～ 29
2016	10	22 ～ 23	被災者は片側交互通行の舗装補修工事区間の東端に立ち、西進車に徐行を促す誘導を行っていた。誤って西進しようとした軽トラックと誘導通り東進してきた自動車が衝突しそうになり、回避行動を取った西進中の軽トラックが被災者と接触、跳ねられた被災者は大動脈破裂により、搬送先の病院にて翌日死亡した。	221	17	10～ 29
2016	10	18 ～ 19	19時30分に夜勤の労働者が現場に到着した際、被災者の姿が見えないため付近を捜索したところ、車を駐車している箇所からおよそ9m下方のがけ下で倒れている被災者を発見した。	711	1	10～ 29
2016	11	5 ～ 6	自動車道上り線の更新工事現場において、一般車両の交通誘導業務に従事していた被災者が、走行してきた4トントラックにはねられた。	221	17	50～ 99

2016	11	9 ～ 10	市道で、自動二輪車（125CC）を運転し、契約先へ向かう途中、赤信号で停車していた大型貨物自動車の後部に追突した。	231	17	300 ～
2016	11	3 ～ 4	被災者は、雨天の中、駅構内水巻踏切の補修工事に伴う上り線右側の車両誘導作業に従事し、午前3時30分に作業が終了後、行方不明になっていたが、約9時間後に誘導作業現場から39メートル離れた側溝（幅155cm、深さ85cm、水深30cm）に浮かんでいるのを発見された。	713	10	30～ 49
2016	11	14 ～ 15	被災者が道路規制車を運転し、トンネル内を走行中、前方を走っていた当該事業場の別車両の荷台からクッションドラムの蓋（プラスチック製）が落下したため、当該蓋を避けようとしたところ、左側縁石に衝突して、その反動で対向車線にはみ出し、対向してきた大型貨物自動車と正面衝突した。	221	17	10～ 29
2016	12	9 ～ 10	店舗駐車場内の交通整理業務中、被災者は乗用車を駐車しようとしていた客に声をかけたところ、乗用車が運転席のドアを開けた状態で後方に急発進し、体にドアが強く当たり転倒、後頭部を強打した。	231	6	10～ 29
2015	2	10 ～ 11	平成27年2月18日午前10時ころ、河川水門耐震補強工事において、現場付近を航行する船舶の状況を監視する警戒船業務中に、用を足すためにトイレを設置した台船（水面からの高さ1.4メートル）と船の間を移動していたところ、水面に転落し溺死したものの。なお、ライフジャケットは身に付けていなかった。	713	10	10～ 29
2015	11	0 ～ 1	国道交差点付近で鋼矢板の建て込み作業が行われるため、それに伴い2車線を交通規制していたところ、北方面から南向けて異常な速度（約100km以上と思われる）で近づいてきた普通乗用車に、交通誘導を行っていた被災者が跳ね飛ばされた。その後、救急車を手配したが、搬送先の病院で死亡が確認された。	231	17	50～ 99
2015	12	6 ～ 7	被災者は、社用車を運転し、自宅から警備の現場へ向かっていたところ、信号の無い交差点を右折した際、直進してきた対向車と衝突した。	231	17	1～9

2015	2	12 ～ 13	被災者は、外勤営業中に公園のベンチで意識を失い、搬送先の病院で、翌日（平成27年2月24日10時27分）くも膜下出血により死亡したものの。	921	90	30～ 49
2015	3	0 ～ 1	被災者は施設巡回中食堂の洗面台で嘔吐し倒れているところを発見され、病院に搬送されたが、急性虚血性心疾患により死亡した。労災支給決定日平成27年11月19日	921	90	100 ～ 299
2015	1	2 ～ 3	一般国道上り線において、ランプから上り線が道路改良工事のため通行止めとなっていることから、被災者が上り線を走行する車輻に、迂回路へ向かうよう誘導していたところ、当該バイパス上り線を走行していたトラックが被災者の迂回指示に従わず、バイパスを直進したため、被災者はこれにはねられ、死亡したものの。	221	17	50～ 99
2015	8	17 ～ 18	熱中症による死亡災害。午後5時まで川の土手沿いにおいて、土手の草刈作業の交通誘導作業に従事していたが、当日の作業が終了し、現場仲間にて車で被災者が乗ってきたバイクの場所まで送ってもらっていたところ、車内助手席で、運転手にもたれかかるように倒れた。救急車で病院に搬送後、加療中であったが、翌日8月2日午前7時頃死亡したものの。	715	11	30～ 49
2015	11	15 ～ 16	山中でのアンテナ・ケーブルの撤去回収工事において、交通誘導員である被災者が撤去した資材を山中から林道に置いてある車両まで運ぶ作業に加わったが、被災者は道に迷い、下山できる場所を探して山中を歩いていたところ、沢付近で約19m滑落したものの。他の作業員が被災者を見つけた際には、意識があり立つことができたが、救助を待っている間に意識を失い、病院で死亡が確認された。	711	1	50～ 99
2015	8	13 ～ 14	一般国道沿岸道路の4車線供用のため舗装工事において、片側2車線のうち1車線を工事規制して、旧アスファルト面路の切削作業の初日に、施工範囲が見通しの悪い緩いカーブに差し掛ったため、工事用ダンプトラックの工事規制内出入り誘導に就いていた2名のうち一般車走行車両の減速誘導に従事していた1名が、後退する路面清掃車の後方に誘導位置を変更して減速誘導中時速8km程度で後退する路面清掃車に轢かれた。	149	6	100 ～ 299

2015	11	12 ～ 13	工事現場の交通整理を行っていた警備員が走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
2015	7	15 ～ 16	被災者は当日の就業場所であった工事現場にて交通誘導警備業務に従事していたが、立哨場所から5メートル離れた場所で倒れているところを、他の作業員に発見され救急搬送された。被災者は搬送先の病院において熱中症と診断され、集中治療室にて治療を続けていたが、平成27年8月3日死亡した。	715	11	50～ 99
2015	9	15 ～ 16	被災者は高速自動車道において行われていた植栽作業（本線上にはみ出した樹木の枝打ち作業）の交通誘導を担当していた。被災者は一区画の植栽作業が終了し、次の作業箇所への移動のための手待ち状態にあったもので、路肩に停車していた標識車の前方で待機していたところ、軽自動車が標識車に追突した。その際、標識車がはずみで前方に押し出され、被災者が切土のり面と標識車との間に挟まれた。	231	17	100 ～ 299
2015	2	0 ～ 1	地下鉄駅で、案内業務交代時にホームから墜落した。	418	1	100 ～ 299
2015	8	13 ～ 14	被災者は、道路災害復旧工事現場において、一人で交通誘導等の警備業務に従事していたところ体調が悪くなり、現場の作業員から休むように促されて日陰で休憩していたものの、更に容体が悪くなったため救急車で病院に救急搬送されたが、同日22時22分に死亡（熱中症による死亡）が確認されたもの。	715	11	10～ 29
2015	8	17 ～ 18	被災当日16：30の業務終了の点呼、解散後、車で帰宅途中であるはずの被災者が、路上で倒れているところが発見されたもの。死亡診断書に熱中症の記載あり。	715	11	50～ 99
2015	2	2 ～	電話線工事における片側交互通行交通誘導作業時に、北方向から南方向に走行していた2トントラックが交通規制中の作業エリアに侵入し、交通誘	221	17	30～

		3	導中の被災者が2トントラックと駐車中の作業車との間に挟まれ、搬送先の病院で死亡した。			49
2015	2	10 ～ 11	被災者は警備員で、バイクで工事（個人宅への光ケーブル引き込み工事）現場に向かう際、市道の緩やかな右カーブで転倒し、心臓破裂により死亡したもの。なお、被災者は、工事現場に向かう途中であった。	231	17	1～9
2015	3	16 ～ 17	出張先の作業場において、火災感知器の交換作業を梯子を使用して行っていた際、梯子から墜落したもの。病院へ搬送されたが、翌日に死亡が確認されたもの。	371	1	300 ～ 499
2015	6	10 ～ 11	事故発生日の午前8時30分頃、被災者が自宅を出て現場（通信関係の工事現場）に向かう。午前11時前に現場での業務を終え、報告のためにミニバイクで会社に戻る途中、一灯式の信号がある交差点で出会い頭に軽乗用車と衝突し、10mほど飛ばされた。左胸部圧迫骨折により即死。衝突した際の信号の状態は、被災者側が赤色の点滅、相手側は黄色の点滅だった。	231	17	1～9
2015	7	12 ～ 13	被災者は、会社が警備業務を受託したパチンコ店において、店舗に付設してある立体駐車場で巡回警備を行っていた。平成27年7月19日、午後0時から巡回警備を開始。巡回中、立体駐車場4階の非常窓から約15メートル下の立体駐車場出入口スロープまで墜落し、死亡したもの。	418	1	10～ 29
2015	7	17 ～ 18	被災者は、交通警備に従事後会社に戻り、会社から自転車で帰宅した。その後、居宅アパート敷地内の植栽に制服姿で倒れているところを通行人が発見し、午後6時50分ごろ病院に運ばれたが、午後8時54分死亡したもの（直接死因：虚血性心疾患の疑い、原因：熱中症）。	715	11	50～ 99
2015	8	0 ～ 1	国道でトンネル内を走行中の車両①に、対向車線を進行してきた車両②がセンターラインを越え接触した。車両①は接触の反動で対向車線に飛び出して停止し、そこへ車両③が衝突した。この結果、車両①に乗車していた労働者2名が死亡。車両③に乗車していた労働者1名が負傷した。	231	17	50～ 99
		10	線路の除草作業において、午前7時40分頃から、側道での交通整理業務に従事していたところ、午前10時45分頃、体調不良を訴えた。その後			30～

2015	8	～ 11	救急車により病院に搬送され、治療を受けていたが、翌日14時28分に熱中症により死亡。	715	11	49
2015	8	～ 22	被災者は、警備員として勤務中、本来の勤務場所から離れた箇所である中劇場2階客席間の移動壁の縦穴（深さ約3メートル、幅約46センチメートル）から墜落して被災した。（どういった理由で当該場所に立ち入ったのかは不明）被災直後に被災者は自らPHSで会社に連絡し、別の労働者によって発見・救出された。	419	1	～ 9999
2015	7	～ 16	熱中症による死亡災害。午前9時より、国道上り車線において、街路樹の伐採作業の交通誘導作業に従事していたが、午後3時30分頃に、同僚に不調を訴えたため、現場近くの病院に搬送後、別の病院に救急車で転医したが、翌日8月1日午前2時頃死亡したもの。	715	11	50～ 99
2015	8	～ 1	国道トンネル内を走行中の車両①に、対向車線を進行してきた車両②がセンターラインを越え接触した。車両①は接触の反動で対向車線に飛び出して停止し、そこへ車両③が衝突した。この結果、車両①に乗車していた労働者2名が死亡。車両③に乗車していた労働者1名が負傷した。	231	17	50～ 99
2015	3	～ 2	3月4日19時に港の警備に就き、2時間毎に定時報告を入れていたが、3月5日1時の報告がなく、無線及び携帯電話を呼び出しても応答がなかったため巡回警備員を現地へ向かわせたものの発見できなかった。警察及び海上保安本部へ通報し、潜水士による海中捜索中に被災者の業務用ライトを発見したが被災者は発見できないまま3月6日に捜索終了。5月9日に現場から約4km東の海上で発見されたもの。	713	10	～ 100 299
2015	5	～ 12	市内の契約している駐車場の巡回警備の勤務中において、被災者1名が社用車（軽自動車）を運転して、巡回警備場所の駐車場に向かうために走行中、緩やかな右カーブで何らかの理由により中央ラインを超えて対向車線を走行したところに、対向車線を走行してきた4tトラックと正面衝突したものの。	231	17	1～9
			工事が終了したため、走行車線規制を解除し、規制中の看板を撤去して、			



2015	8	2	カラーコーン回収のため低速で走行していたころ、大型トラックが標識車両に追突し、標識車両が前を走行していた機台車両に玉突き衝突した。標識車両は横転炎上。標識車両の運転者1名が死亡、機台車両に乗車していた3名がやけどなどで負傷したもの。	221	17	10～ 29
2014	1	8 ～ 9	被災者は、防護柵設置工事現場へ歩いて移動しながら打合せをしていたところ、後方から、凍結した下り坂をスリップしながら歩道を乗り越えて来たワゴン車の後部に激突され、更にワゴン車が道路へ戻ろうとした際、ワゴン車後部左タイヤに轢かれ、腹部を損傷、死亡した。	231	17	50～ 99
2014	2	15 ～ 16	水道管の引き込み工事のため、市道にて片側交互通行の交通整理を行っていた被災者は、南側から走行してきたトラックを停止させるため旗振りをしたところ、北側から走行してきたワンボックスカーに背後から跳ねられた。	231	17	100 ～ 299
2014	2	23 ～ 24	被災者は、夜勤警備業務にて、机の下でうつぶせの状態で見つめられた。死因は脳出血。	921	90	1～9
2014	3	1 ～ 2	片側1車線の国道の補修工事現場にて、被災者は警備員として交通誘導を行っていたところ、走行してきた軽乗用車に激突された。被災者は約23m先の道路脇で見つめられた。事故当時、車線減少規制（下り車線の幅員を減少）を行っていたが、加害車両は前方にいたトラックを追い越す形で対向車線を走行し、被災者に激突した。	231	17	30～ 49
2014	3	12 ～ 13	道路の補修工事現場にて、舗装工事に使用する砂利を積んだトラックが後退した際、被災者が轢かれた。	221	7	50～ 99
2014	4	7 ～ 8	高速道路上にて、故障車の後方警戒業務を行っていた際、タンクローリーにはねられ、死亡した。	221	17	100 ～ 299
2014	4	5	海底に沈没していた車から、巡回警備中であった被災者が見つめられた。	231	10	30～

		6				49
2014	7	10 ～ 11	大型トレーラーが、道路に白線をひく作業で徐行作業中のトラックに追突。トラック前方の路上で作業していた作業員らのうち2名が死亡し、11名が負傷。	221	17	10～ 29
2014	7	9 ～ 10	トラックが荷卸しを終え、後退する際、警備をしていた被災者を轢き、被災者は死亡した。	221	17	50～ 99
2014	7	21 ～ 22	車両規制をしていたカラーコーン等の撤去作業中、一般車両の進入を防ぐため、発煙筒を設置しようとして中央分離帯を歩き、移動していたところ、手摺りもなく開口部になっている箇所があり、その地点から6.89メートル下まで転落した。	417	1	30～ 49
2014	10	12 ～ 13	スーパーマーケットの駐車場にて、車両誘導業務中、駐車場前面道路で対向車同士の接触事故が発生し、事後処理しようとして一方の車が駐車場へ入った際、車を急発進させ、被災者が轢かれた。	231	17	10～ 29
2014	10	4 ～ 5	トンネル内照明設備取替工事の規制内にて、撤去した資材をトラックに積み込み、路肩で積荷の点検を行っていたところ、高速道路を走行中のトラックが規制内に進入し、工事車両2台に衝突。車外で積荷点検中の被災者が死亡した。	221	17	30～ 49
2014	11	1 ～ 2	変電所設備工事の現場にて、移動式クレーンを現場から国道に誘導中、走行してきた軽トラックにはねられ、死亡した。	221	17	30～ 49
2014	11	11 ～ 12	埋設電線管路の撤去工事中、地盤の転圧作業の際、地面に敷設する碎石を積んだダンプカーを作業帯内に停車させるため、転圧作業を行っていたローラーがバックで移動したところ、作業帯の先の交差点で警備をしていた被災者が轢かれ、死亡した。	144	7	1～9
2014	11	9 ～	警備作業中、対象店舗内の通路を歩行していたところ、転倒し、頭部を打	417	2	100 ～

		10	撲し、死亡した。			299
2014	12	9 ～ 10	片側1車線道路のセンターライン上にて、交通誘導中、トラックにはねられた。	221	17	100 ～ 299
2013	12	0 ～ 1	夜間の巡回警備に従事していた被災者は、社用の乗用車を運転して国道を移動中、中央線をはみ出したため、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
2013	12	13 ～ 14	被災者2名は、警備先の仕事場から自社へ向かう途中の県道を走行中、対向車と正面衝突した。尚、現場は片側1車線の見通しのよい直線道路であった。	231	17	30～ 49
2013	12	13 ～ 14	被災者2名は、警備先の仕事場から自社へ向かう途中の県道を走行中、対向車と正面衝突した。尚、現場は片側1車線の見通しのよい直線道路であった。	231	17	30～ 49
2013	12	6 ～ 7	高速道路上り線において、インター分岐点より後方に設定した第2レーパー（車線規制）の起点位置で、被災者が一人で夜間用規制材と昼間用規制材を取り換える作業を行っていたところ、追越車線からトラックが進入し、被災者と衝突。被災者は中央分離帯あたりまで跳ね飛ばされ、死亡した。	221	17	100 ～ 299
2013	4	16 ～ 17	電柱の取替工事で、警備員である被災者は、電柱を設置する箇所の掘削作業を行っている歩道の交通整理を行っていた際、市内へ帰宅中の軽トラックにはねられ、頭を強く打ち死亡した。	231	17	30～ 49
2013	3	13 ～ 14	構造物補修外工事現場で、交通規制業務を行っていた被災者は、国道を事務所に向かって歩いていた所、後方から走行してきた軽自動車にはねられ死亡した。	231	17	30～ 49
		16	警備業務を終えた被災者は、元請の担当者から警備日報にサインをもらおうと、工事場所から離れた位置に止めていた車（自家用車）を運転して、元請の担当者に近づいたあたりで車から降り、日報を渡した際、車が後退			30～

2013	7	～ 17	し始めたので、運転席側のドアを開けブレーキを踏もうとしたが、車が急加速したため、開けたドアに体を押される状態で約26m後退した後、車とともに道路脇の田んぼのあぜに転落し、車輪の下敷きとなった。	231	7	49
2013	6	16 ～ 17	ガス管敷設工事現場の交通誘導員として勤務していた被災者は、体調不良のため駐車した車の中で休憩していた。終業時間になり、同僚が車に戻った際、被災者の意識が無いなど異変を認めたため、救急搬送されたが、熱中症の疑いで死亡した。	715	11	30～ 49
2013	8	11 ～ 12	被災者は、市道交差点で交通整理に従事していた。同交差点に軽自動車が進み、同時に軽貨物自動車が西進し交差点内で出会い頭に衝突した。その激突で軽貨物自動車が被災者に激突、全身を強く打ち死亡した。尚、南進側道路には一時停止表示がある。また、西進方向は一般車両通行可能が当該交差点までで、昼間歩行者専用の指定があるが、当該軽貨物自動車は指定除外車両であるため直進しようとしていた。衝突の原因は、双方が交差点に徐行を行わず進入したこと。	231	17	50～ 99
2013	9	22 ～ 23	国道で、水道工事のため左車線に停車していたサインカー（交通整理を表示する車）に、国道を走行してきた自営業者が運転する4トントラックが追突。弾みで押し出されたサインカーに、前方で交通整理をしていた被災者（警備員）がはねられた。	221	17	50～ 99
2013	11	8 ～ 9	工事車両の誘導中、酒気帯び運転の乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
2013	2	7 ～ 8	県道において、軽ワゴン車がスリップして対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトラックと正面衝突した。軽ワゴン車に乗車していた4名の労働者のうち、2名が死亡した。	231	17	10～ 29
2013	2	7 ～ 8	県道において、軽ワゴン車がスリップして対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトラックと正面衝突した。軽ワゴン車に乗車していた4名の労働者のうち、2名が死亡した。	231	17	10～ 29

2013	12	19 ～ 20	被災者（交通誘導員）は、サービスエリアの駐車場において自動車の交通誘導を行っていた。大型貨物自動車（トラック）が本線より駐車場に入ってきた。当該トラックの運転手は、被災者の立ち位置に気づかず当該トラックを後進させたところ、被災者を大型車輪で轢いてしまった。	221	17	10～ 29
2013	12	18 ～ 19	車両を誘導する警備業務をするため県道の歩道にいた被災者は、猛走行してきた乗用車にはねられた（車両は縁石を乗り越え、被災者に激突した）。被災者は出張作業で現地に來ていたもの。	231	17	100 ～ 299
2013	9	0 ～ 1	夜間舗装作業工事において、路面切削作業中、切削後の清掃を行うための道路スィーパーが後退した際、後方で交通誘導していた誘導員を轢いた。	149	6	30～ 49
2013	9	11 ～ 12	台風の影響で通行止めとなった県道の通行止めゲートに乗用車が衝突し、その反動でゲートが押し出され、走行車両の監視を行っていた被災者の胸部に激突した。	231	17	10～ 29
2013	11	9 ～ 10	国道の道路情報掲示板の点検作業に伴う交通誘導業務において、当該作業場所から約160メートル離れた位置で交通誘導業務を行っていた被災者は、停止合図に気が付かないで走行してきたトラックにひかれた。	221	17	50～ 99
2013	2	14 ～ 15	被災者は、残土置場で工事現場から土砂を運搬してきたダンプカーの交通誘導に従事していたが、元請労働者がドラグショベルを操作して土砂の整地作業を始めたところ、仰向けの状態で土砂に埋もれた被災者が発見された。関係者の証言から、被災者はダンプカーの後方で誘導中に、ダンプカーから降ろされた土砂に巻き込まれたものと推測される。	221	4	30～ 49
2013	6	8 ～ 9	空コンテナヤードで、車内で順番待ちをしていたトレーラー運転手が仮眠から目覚め、前で順番待ちをしていた車がいなくなっていたため前方に進んだところ、運転者を起こすために運転席側に回ろうと自転車でトレーラーに近づいていた被災者（警備員）に気づかず、自転車ごと轢いた。尚、被災者は、当該地区で誘導業務を行っていた。	221	6	30～ 49
2013	3	21 ～	交差点の横断歩道の信号が青となり、被災者が横断歩道を歩行中、被災者	221	17	100 ～

		22	の右手前方から来た右折車両が、横断歩道上で被災者をはねた。			299
2013	8	21 ～ 22	被災者は、集合住宅新築工事現場作業に係る交通誘導を行っていたが、交通誘導業務の途中で現場を離れ、そのまま行方不明になり、後日現場から約300メートル離れたマンション敷地内において遺体で発見された。行政解剖の結果、死因は熱中症と判断された	715	11	1～9
2013	8	15 ～ 16	道路舗装工事作業中、現場内で作業しているタイヤローラと一般車両が接触しないよう誘導していた被災者は、現場に隣接したドラッグストア店舗駐車場から出てきた一般車両をよけるためタイヤローラの後進方向に立ち入り、何らかの原因でうつぶせに転倒した際、タイヤローラが後進して被災者の左半身に乗り上げた。	144	7	～ 299
2013	3	13 ～ 14	乗用車で片側2車線の道路の交差点で右折待ちで停車中、後ろから来たキャリアカーに左後部を追突され、反動で対向車線に押し出されたところ、対向車線を走行していたダンプトラックに左側面から衝突され、運転していた被災者が死亡した。	221	17	300 ～ 499
2013	6	21 ～ 22	駐車場内において、被災者は門扉の鍵を施錠するため自転車で移動したところ転倒し、頭部を強く打った。その後、別の者から発見され、病院に搬送されたが死亡した。	419	2	300 ～ 499
2013	8	2 ～ 3	高架橋の耐震補強工事現場において、片側交互通行作業帯を設置し作業を行っていたところ、横断歩道の歩行者誘導を行っていた誘導員（警備員）が突進してきた乗用車にひかれ、当該乗用車と作業エリア内に停車させていた積載型トラッククレーンに挟まれた。	231	17	1～9
2013	1	13 ～ 14	新築工事の現場内において、建築物内の1階と2階を結ぶ階段の途中で倒れている被災者を現場作業員が発見した。発見当時被災者に意識はあったものの、収容先の病院で様態が急変し、死亡した。	413	1	100 ～ 299
2013	11	15 ～ 16	国道配水管敷設替工事現場において、片側相互通行を実施していたところ、進行していた軽トラックが、交通誘導のため反対側車線内で2トントラックを停止させていた被災者をはね飛ばし、2トントラックに激突し	221	17	30～ 49

			た。			
2013	10	16 ～ 17	ガス管の敷設工事現場において、誘導員として一般車両の誘導を行っていた被災者は、後退してきたバックホウ右後ろの履帯に轢かれた。	142	6	30～ 49
2013	8	15 ～ 16	県道沿いに設置されたケーブル配線の移設工事現場において、交通警備の委託を受けた警備会社の警備員が、片側交互通行の交通誘導を行うため、片側通行区間の手前の道路中央付近で誘導を行っていたところ、走行してきた2トントラックにはねられ、出血性ショック死により、搬送先の病院で死亡した。	221	17	30～ 49
2013	12	17 ～ 18	道路建設工事において、警備員2名で交通整理を行った後、被災者は駐車していた車（自家用車）に戻り、ヘルメット、反射チョッキなどを脱ぎ、現場付近の歩道に出て歩いていたところ、自転車に後方から追突され、転倒し後頭部を強打した。	239	17	10～ 29
2013	5	13 ～ 14	道路舗装工事現場において、被災者の姿が見当たらなかったため、現場周辺を捜索したところ、現場付近の崖下約20mの海に転落しているところを発見された。尚、作業場所には仮設トイレ等がなく、被災者がトイレレットペーパーを持って転落箇所方向に移動しているところも目撃されていることから、排泄目的に現場から死角になる崖上に行ったものと推測される。	711	1	10～ 29
2013	10	14 ～ 15	同業者や取引先と打合せを行うため、高速道路を走行中、後方から走行してきた大型トラックに追突された。	231	17	1～9
2013	10	8 ～ 9	被災者は、同僚が運転する警備車両（軽トラック）に乗車し、国道での交通誘導業務を行うため、片側2車線のうち中央分離帯側の追越し車線を非常点滅表示灯を点滅させ、徐行しながら所定の位置で停止させたところ、後方から走行してきた他の車両に追突された。	231	17	1～9
		2	被災者と同僚は、道路工事現場の交通誘導の業務を行う警備員であり、片側2車線の道路の下り線の2車線を規制して、交通誘導を行っていたとこ			

2013	12	～ 3	ろ、市内中心部方向から走行してきたワゴン車が同僚をはねた後、停車中の規制車と衝突し、被災者は両車の間に挟まれた。	231	17	1～9
2012	11	5 ～ 6	高速道路のトンネル南側50m付近で、標識設置工事の交通誘導作業を行っていた被災者は、南進してきた乗用車にはねられて死亡したもの。なお、南進してきた乗用車は駐車していた車などに衝突しながら、被災者をはねた。	231	17	10～ 29
2012	8	2 ～ 3	排水路新設工事の作業現場において、占有区域へダンプカーを誘導していた被災者は、後進してきたドラグ・ショベルに轢かれた。	142	7	30～ 49
2012	8	17 ～ 18	被災者は防球ネット設置工事の警備を担当していたが、警備作業終了に伴い、グラウンド内への資材運搬車両通用口を施錠し、別の出口用の門から出て帰宅するため、施錠した通用口から出口用の門まで続くコンクリート舗装の通路を原動機付き自転車を運転し走行していたところ、通路に沿って植えられた樹木の根で波状に盛り上がった部分でバランスを崩して転倒、後頭部を強打し死亡した。	231	2	1～9
2012	6	10 ～ 11	水道管給水工事のため、2車線通行の県道を1車線通行に規制し、県道上で被災者と同僚で交通誘導を行っていた。被災者は西側を向いて誘導をしていたが、西側から進行してきた2 tトラックに激突され、14m程飛ばされた。	221	17	10～ 29
2012	2	3 ～ 4	マンホール改修工事に伴い、片側交互通行としている道路のセンターライン付近に立って車の誘導を行っていたところ、車にはねられて死亡した。	231	17	30～ 49
2012	4	11 ～ 12	道路舗装工事現場で一般車両等の交通誘導を行っていた際、現場作業員が積載型トラッククレーンの運転席に乗車せずに、運転席の窓の外からエンジンを掛けたところ、エンジンの始動と共に車両が動き、前方で交通誘導を行っていた被災者に激突し、車両右前輪に被災者の左足が轢かれ、入院加療先の病院で敗血症性ショックにより死亡した。	212	17	10～ 29



2012	2	17 ～ 18	道路舗装工事現場において、片側通行にして舗装工事を行っていた際、交通誘導を行っていた被災者は、車両の誘導作業中にローラーの後方に立ち入り、アスファルト転圧中のローラーが後進したためローラー後部車輪に轢かれた。	144	6	30～ 49
2012	12	12 ～ 13	道路舗装工事現場において、工事のため道路を片側交互通行としていた。被災者は交差点の北側で南進してくる自動車を停車させるために道路上で待機していたところ、南側から北進してきた自動車に激突された。	231	17	10～ 29
2012	2	7 ～ 8	現場移動のため、国道を自動二輪車で移動中、信号のない交差点から進入してきた軽トラックと接触し、「外傷性くも膜下出血、脳挫傷」により死亡した。	221	17	10～ 29
2012	8	16 ～ 17	道路維持修繕工事現場において、のり面除草作業のために2車線道路を片側交互通行に規制中、規制車線側から走行してきたトラックを停止させようとした被災者がトラックに轢かれた。トラックは、被災者と規制車両（車線変更誘導表示付き）に激突し、被災者はトラックに約30mひきずられて死亡した。なお、現場は緩やかなカーブの下り坂であった。	221	17	10～ 29
2012	10	14 ～ 15	法面への落石防護網を設置する工事において、当該防護網設置前に支障となる木を伐採した際に発生した玉切材が高さ約15mの箇所に残っており、交通誘導員として入場していた被災者が仮設防護柵の内側を移動中、当該玉切材が転げ落ち、被災者の右側頭部へ激突した。	712	4	50～ 99
2012	3	16 ～ 17	高速道路（片側二車線で見通しは良い状況下）で法面工事の交通整理作業を終え、路肩の車両に乗り込もうとした被災者は、走行してきたトラックにはねられ、全身を強く打って死亡した。	221	17	100 ～ 299
2012	7	12 ～ 13	電車線（電線）の碍子交換等工事において、当該工事の下り線の中継列車見張り員として、当該工事箇所から東に約2km離れた駅構内のホームで業務を行っていた被災者は、昼の休憩後の作業開始前に立哨予定付近の下り線内で通過した特急列車に触車し死亡した。特急列車の運転手によると被災者を発見した際、被災者は後ろ向きで、警笛を鳴らした後は進行方向に走って行ったとのこと。	232	18	30～ 49

2012	11	5 6	被災者はバイクに乗って勤務先に向かう途中、側道からT字路を右折しようとした際、左から被災者側の側道に右折してきたタンクローリーが過ぎた後にバイクを発進させたところ、道路右側から走行してきた軽自動車に衝突した。なお、当該T字路は信号機が設置されていて、事故時は被災者側が赤の点滅信号、道路側は黄色の点滅信号だった。	231	17	50～ 99
2012	11	2 3	国道の道路修繕工事現場に軽自動車が突っ込み、現場にいた被災者（警備員）と下請の代表者の2名が死亡し、現場監督員が重傷を負った。現場は片側3車線の見通しの良い直線道路で、当時は中央分離帯側の1車線を塞いで舗装工事を行っていたが、軽自動車の運転手からは、基準を上回るアルコールが検出された。	231	17	50～ 99
2012	7	12 13	被災者は交通誘導を委託された舗装補修工事の路肩部で倒れ、救急搬送先の病院で死亡が確認された。	715	11	50～ 99
2012	1	7 8	被災者は工場増設工事にて工事関係車両の交通誘導等の警備業務に従事していた。被災当日、業務開始直後、工事で区画された歩行者通路を歩いていたところ、凍結した路面で足元が滑り転倒、頭部を路面に強打し、救急搬送先の病院で死亡した。なお、被災当日の朝の最低気温は氷点下8度であった。	417	2	30～ 49
2012	1	9 10	3階建て建屋の塗装作業を行っていた被災者は、隣接する道路上に倒れているところを発見され、頭部及び全身打撲により、救急搬送先の病院で死亡した。	418	1	30～ 49
2012	6	17 18	被災者は駐車場において車輛の誘導業務を行っていた。公道を通行する車輛があったため、出庫しようとした車輛を一時停止させようとしたところ、当該車輛運転手がアクセルとブレーキを踏み間違え、被災者を轢いた。	231	18	30～ 49
2012	6	11 12	落石監視員として監視業務を行っていた被災者は、街道直下を流れる川へ滑落し、救急搬送先の病院で死亡した。	711	1	30～ 49

2012	7	14 ～ 15	道路工事現場で警備業務に従事していた被災者が、近くの公園で休憩中に鼻血を出し嘔吐している状態で発見された。救急車で病院へ搬送されたが、熱中症により死亡した。	715	11	～ 299	100
2012	8	8 ～ 9	被災者は交通誘導警備業務中、階段そばの歩道で意識不明の状態で見倒れているところを発見され、搬送先の病院で死亡した。	413	1	～ 299	100
2012	11	17 ～ 18	被災者は駐車場の車が駐車場から公道へ出るのを誘導するため、公道上へ出たところ、走ってきた別の車にはねられた。	231	17	～ 299	100
2012	2	4 ～ 5	水道管理設工事現場において、被災者は使用後の重機を道路脇にある仮設置場に戻すため、現場作業員と共に道路横断の誘導作業中、走行してきた加害車両に撥ねられ、全身打撲並びに骨盤等の骨折により、救急搬送先の病院で死亡した。	231	17	30～ 49	
2012	4	9 ～ 10	被災者はワゴン車で国道を走向中、スリップしてセンターラインをはみ出し、対向してきたタンクローリー車と正面衝突した。この交通事故で、ワゴン車の助手席に乗っていた被災者が死亡し、運転者が胸部打撲で負傷した。	231	17	～ 299	100
2012	9	14 ～ 15	被災者は電柱建替工事現場において、交通誘導員として片側交互通行の交通誘導を行っていたところ、手旗による停止合図を無視した大型バイクに激突され、反対車線側の草むらまで約40m跳ね飛ばされ、搬送先の病院で死亡した。なお、大型バイクはそのまま逃走した。	231	17	10～ 29	
2012	12	9 ～ 10	被災者は市道の縁石の一部取り替え工事のため、縁石より約1m離れた車道側に立って交通誘導を行っていたところ、複数台連なって走ってきた車列の最後尾の軽自動車が発災者に気付かず走行してきたため、はね飛ばされた。加害者はそのまま逃走した。	231	17	50～ 99	
2011	8	15 ～	被災者は、建設工事現場の出入口における交通車両（ダンプ等）誘導作業に従事していたが、15時30分頃、同僚ににふらついているところを発	715	11	50～ 99	

		16	見され、その後に搬送先の病院にて死亡した。			
2011	5	0 ～ 1	被災者が国道において下水道工事のために片側通行として交通誘導していたところ、西方向へ走って来た軽自動車は工事現場付近の車線規制区域域の手前で停止せずに走行し、被災者を轢いたもの。	231	17	30～ 49
2011	2	14 ～ 15	被災者は、水道管取り替え工事の誘導を行っていたが、午後3時頃から姿が見えなくなり周囲を探していたところ、集水枡で溺死している被災者が発見された。	713	10	30～ 49
2011	9	11 ～ 12	被災者は、県道側溝清掃工事にかかる片側交互通行の交通誘導員として交通整理業務に従事していたところ、左車線を走行してきた軽トラックに轢かれ、救急車により病院に運ばれたが翌日死亡に至った。	221	17	10～ 29
2011	1	8 ～ 9	被災者は、ガス敷設工事現場の交通誘導警備業務を行うため、同僚作業員と共に、工事現場付近の市道交差点の歩道において、工事業者の到着を待っていたところ、北進中の乗用車と東進中の乗用車が交差点内で出会い頭に衝突し、はずみで東進中の乗用車が歩道内に突入して被災者をはねたもの。	231	17	100 ～ 299
2011	3	18 ～ 19	青信号で通過車両が交差点内になかったため右折して通り過ぎようとしたところ対抗車両が交差点内に突入してきた。そのまま通過しようとしたところ、自車の後部に激突され2回半ほど車が回転したときに投げ出され停止していたバイクにぶつかり被災した。	231	17	300 ～
2011	8	16 ～ 17	被災者が、上記場所のT字路において、配電線工事の交通誘導業務を行っていたところ、交差点を左折しようとして徐行で進入してきた軽トラックが急加速し、正面から激突され、軽トラックとともにビニールハウスのドアを突き破って押し倒されたもの。被災者は、転倒時の出血性ショックで同日午後5時43分に死亡した。	221	17	30～ 49
2011	10	8 ～	被災者は、当該事業場から市内の交通誘導業務を行う現場へ向かうため、バイクに乗り出発したところ、同事業場の南側にある町道交差点で、トラックと出会い頭に衝突した。バイクは同交差点を北から南へ直進しようとして、また、トラックは東から西へ直進しようとしていた。なお、同交	231	17	100 ～

		7	差点の南北両側には一時停止の標識がある。また、トラックの運転手にけがはなかった。詳細は調査中。			299
2011	7	10 ～ 11	国道において、ドラグショベル2台によりアスファルトの打換工事を行っている傍で、片側交互通行面と工事区画の境に立って交通誘導を行っていた警備員が、後進してきたドラグショベルのクローラに轢かれて死亡したものの。	142	7	10～ 29
2011	4	6 ～ 7	系列会社の労働者が運転する軽乗用車に乗車し、市内にある同社営業所へ向かう途中、高速自動車道、下り線トンネル内において、当該車両が故障したため、被災者と運転者は車外に出た。そこへ、後方から走行してきた大型トラックが当該車両に追突し、被災者らは、当該車両の後方に居たため、トラックと当該車両の間に挟まれ、即死した。運転者も搬送先の病院にて死亡した。	231	17	100 ～ 299
2011	3	8 ～ 7	建設現場のトラック誘導のため軽自動車にて現場に向かい、誘導位置近くの空き地に車を止めようとしたところ、運転操作を誤ったことにより、130メートル程度下方の川へ墜落してしまったもの。	231	1	50～ 99
2011	4	18 ～ 19	被災者は、責任者の指示により、同社の事務所内で待ち合わせた同僚をマイカーに同乗させ、工事現場に交通警備員として勤務するために、高速道路を走行していたが、高速自動車道下り線トンネル内でマイカーの故障により停車していたところ、走行してきた大型トラックが追突し、被災者と同乗者が死亡したものの。	221	17	10～ 29
2011	11	14 ～ 15	下請事業場が緩やかな傾斜の林道で高所作業車を使用して電話線敷設作業を行っていたが、作業終了後高所作業車を移動させるために高所作業車の運転者が逸走防止のために設置してあった輪止めを撤去した後、高所作業車のアウトリガーを格納しようとしたところ、高所作業車が後退したため、交通誘導していた被災者も加わって手で車を止めようとしたが、危険を感じ退避しようとした時、被災者が転倒し車と地面との間に挟まれ死亡した。	146	7	30～ 49

2011	8	11 ～ 12	市道の舗装補修工事現場で交通誘導を行っていた被災者が、昼休みをとるために休憩場所へ向かっていたところ、体調が急激に悪くなり、意識不明となって救急車で病院へ搬送されたがまもなく死亡したもの。なお、現場の作業開始時間は朝9時からであり、被災者は10時頃に15分程度の休憩もとっていた。	715	11	50～ 99
2011	12	9 ～ 10	工事現場内から国道に出ようとする2トントラックを優先するため、同国道から工事現場敷地内に入場しようとしたワゴン車は、警備員（被災者）からの要請で一時停止をしていたところ、同国道上を走行してきた工事関係外の10トンダンプに追突され、そのはずみで敷地内にいた同警備員（被災者）にワゴン車が激突したもの。（略図のラインの下側が工事現場敷地内である。）	221	17	30～ 49
2011	3	21 ～ 22	帰宅途中の路上で倒れている被災者を発見した通行人が救急車を要請し、大学付属病院に搬送されたが、翌日胸部大動脈瘤破裂により死亡したものの。	921	90	
2011	9	11 ～ 12	市内のスーパーの駐車場前歩道で、交通誘導警備業務中、突然通り魔に刃物で腹部など複数箇所刺され、病院へ搬送されたが同日死亡した。	911	90	50～ 99
2011	10	9 ～ 10	大型スーパーの外壁塗装工事に伴い、交通誘導員である被災者は、建物の周囲歩道で歩行者の交通誘導を行っていたところ、普通乗用車が車道に設置してある交通標識に衝突し、その衝撃で交通標識が倒れ、交通標識の背後にいた被災者の頭部に直撃し被災したもの。	231	17	100 ～ 299
2011	10	15 ～ 16	中央分離帯上で交通整理を行っていた被災者に、走ってきた乗用車が突っ込み、被災者に激突し、搬送先の病院で亡くなった。	231	17	10～ 29
2011	4	14 ～ 15	配水小管移設工事現場において、重機置場から工事帯に油圧ショベルを移動させる際、誘導のために油圧ショベルのあとを追ったところ、油圧ショベルがバックしたために被災者を轢いてしまったもの。	142	7	30～ 49
		14	高速道路舗装工事の準備中、コーンで仕切られた工事帯内においてバック			

2011	7	～	15	をしていた標識車両に、同工事区域の警備員である被災者が接触転倒、胸部を轢かれ搬送先の病院で死亡が確認されたもの。	221	6	10～ 29
2011	8	～	14	13 残土処理場において、軽自動車の車内で休憩中であった被災者が、口から泡を吹いて意識不明の状態で見送されたが、その後死亡が確認されたもの。	715	11	10～ 29
2011	9	～	9	8 道路舗装補修工事において、一次下請の作業員がドラグショベルでマンホール周辺のアスファルトをはぎ取るため後進したところ、後方にいた交通誘導員をひいてしまった。	142	7	10～ 29
2011	6	～	11	10 国道上で、光ケーブルの埋設工事のための交通整理をしていたところ、走行してきたトラックにはねられたもの。	221	17	30～ 49
2011	8	～	12	11 津波による被害を受けた橋梁補修工事現場において、歩道付近で歩行者の交通誘導業務を行っていたところ、走ってきた軽トラックにはねられた。 12 なお、災害発生現場は見通しのよい右カーブで、ブレーキ痕はなかった。	221	17	30～ 49
2011	9	～	14	13 会社所有のワゴン車で、顧客先へ2名で移動中、町道の見通しの良い片側一車線の直線道路を走行していた時、センターラインを越えて、対向車の乗用車（買い物のため、私用）と正面衝突し、助手席側の後部座席に座っていた被災者はその衝撃からシートベルトで内臓を圧迫され21時間後に死亡、運転手は打撲、裂傷を負った。相手方の乗用車の運転手はろっ骨を骨折した。	231	17	30～ 49
2010	12	～	17	16 道路工事現場における交通誘導業務を終え、現場近くの県道の歩道において、打合せ等を行っていたところ、車道を走行してきた軽乗用車に後方から激突され、3日後に死亡したもの。	231	17	10～ 29
2010	12	～	15	14 国道のL字溝設置工事に伴う片側通行の現場で、交通誘導警備業務に従事していた被災者に、脇見運転の軽四トラックが追突し、全身打撲により死亡した。災害発生時、被災者は交通規制が掛けられた範囲内におり、規制区間にはパイロン及び矢印標識等が設置されていた。	231	17	1～9

2010	12	15 ～ 16	国道（片側1車線）に架かる橋梁の補修工事のため、片側を封鎖して交互に通行させていた。交通誘導に就いていた被災者が車線を封鎖していたところ、走行してきた4 tのトラックが所定の停止位置を超え、被災者に激突した。被災者は病院に運ばれたが、死亡した。	221	17	10～ 29
2010	12	13 ～ 14	歩行者の誘導を行っていた警備員が、連絡や誘導の不備により、バックしてきた路盤転圧作業中のコンバインドローラーにひかれて死亡した。	144	6	50～ 99
2010	11	8 ～ 9	道路脇の側壁改修工事に際し、車線規制等工事開始前の準備のため警備員及び工事作業員が道路脇にて待機していたところ、走行車線を走行していた軽自動車（ワンボックス）に7 tトラックが追突し、飛ばされた軽自動車が待機していた警備員並びに工事作業員に激突したのち横転した。この際、警備員が死亡、作業員2名および軽自動車運転手が負傷した。	221	17	30～ 49
2010	11	7 ～ 8	被災者は、会社に出勤後、遊技場の自動車誘導を行うため、ミニバイクを運転して現場に向かう途中の交差点において、左側から赤信号を無視して直進してきた軽トラックと衝突し、全身打撲で死亡した。	231	17	10～ 29
2010	11	10 ～ 11	解体工事現場の搬出入口舗道上において、車道側を向いて立哨中の被災者の後部に位置していた鋼製門扉（幅4.5 m、現場囲いのためシートが張られていたもの）が、突風が吹いた際に倒れてきて下敷きになったもの。	419	5	30～ 49
2010	10	12 ～ 13	県道の舗装修繕工事において、片側交互通行規制で表層工を施工中、交通誘導員が仕上げ転圧作業中の後退してきたタイヤ・ローラーの後輪に全身を轢かれ即死した。タイヤ・ローラーの運転者が後方をよく確認していなかった。	144	7	30～ 49
2010	10	18 ～ 19	被災者は、病院増設工事現場の交通誘導をしていた。工事車両を県道に合流させるため、県道通行車両を規制誘導しながら県道に出たところ、走行してきた前方不注意の一般車両に跳ね飛ばされ、救急車にて病院に搬送されたが頭と首の負傷により死亡した。	231	17	10～ 29
		11	公共下水管理設、舗装復旧工事において、警備員が掘削車両の運搬車の誘導のために国道の一般通行車両を待機させていたところ、誘導員の後方に			



2010	10	～ 12	いた大型トラックにひかれて、死亡した。当該大型トラックは一般通行車両で、前方の確認が不十分であった。	221	17	1～9
2010	7	17 ～ 18	自動車道の舗装補修工事現場の工事車線規制箇所の先端部にて、炎天下の中、単独で保安警備作業をしていた労働者が、作業場から1 km離れた車線規制箇所内で倒れているところを一般通行車に発見された。病院に搬送されたが、熱中症と診断され7時間後に死亡したものの。	715	11	30～ 49
2010	7	17 ～ 18	ガス管理設工事において、一般車両の交通誘導を行っていた警備員が、業務終了時刻になっても同僚との待ち合わせ場所に戻ってこなかったため探したところ、工所用機械置場前の路上に倒れていた。病院に搬送されたが死亡した。熱中症と思われる。	715	11	10～ 29
2010	7	14 ～ 15	警備会社が、工事（歩道に設置されているマンホール内部の点検工事）における警備業務（歩行者の誘導等）の委託を受け、被災者（死亡）に災害発生地における警備業務を行わせていたところ、走行してきたトラックが前方不注意により歩道上に乗り上げて被災者を跳ね飛ばし、歩道上に駐車していた工事車両に衝突した後、車道で横転したもの。現場は見通しの良い直線道路だった。	221	17	10～ 29
2010	7	9 ～ 10	マンションの新築工事現場において、足場材を積載した移動式クレーン付きトラックを前から工事現場に入れて、その工事現場前の道路上にパイロン等を置き、歩行者の誘導をするために警備員が当該トラックの後方右端側に立っていたところ、走行してきた積載荷重4 tのトラック（居眠り運転）がパイロンを倒して突っ込み、警備員を約1 2 m先の電柱の植栽へ跳ね飛ばし、即死した。	221	17	10～ 29
2010	6	8 ～ 9	体育館において、被災者は天井裏の雨漏りの点検等を行うため、作業通路下にある鉄骨梁（幅約4 cm）をつたって、天井ボードに置いてあった水の入ったバケツを取ろうとしたところ、梁上でバランスを崩し足を滑らせて、鉄骨梁下の天井ボードを突き破り、約1 3 m下まで墜落したものである。被災者はヘルメット、安全帯を着用していなかった。	415	1	30～ 49

2010	6	20 ～ 21	寿司店の駐車場への車両誘導中、誘導した車両の後続車両（前方不注意）にはねられたもの。	231	17	10～ 29
2010	6	10 ～ 11	県道沿線の除草作業現場において、片側交互通行規制中の道路上で一般通行車両の交通誘導を行っていた被災者は、前方不注視で車線変更をせず走行してきた最大積載量11tトラックに激突され、そのまま前方に停車していた工事用1.5tトラックとの間に挟まれ死亡した。	221	17	100 ～ 299
2010	5	9 ～ 10	海岸高潮対策工事現場にて、交通誘導警備に従事していたところ、砂を積んだダンプカーの後進誘導を行った後、ダンプカーの死角に入り込み、ダンプカーの右側後輪に巻き込まれ、即死した。	221	7	50～ 99
2010	4	16 ～ 17	被災者は、工場内にある建設会社土木作業場の警備員詰所において、入退場者の管理を行っていたが、何らかの原因により警備員詰所を離れたところ、約85m離れたコンクリート製品のストックヤード付近において、構内下請会社の労働者が運転するフォークリフトに轢かれたもの。被災者は、直ちに救急搬送されたものの、5日後に収容先の病院で死亡した。	222	7	30～ 49
2010	4	14 ～ 15	被災者は、電力会社発注の電線支障木伐採作業現場において、片道交互通行規制のため、交通誘導業務を行っていた。規制側下り線の交通誘導中において、停止していた車両を誘導したところ、その後続の車両（軽トラック）が接近してきたため、車両誘導をしようとしたが、当該車両は脇見運転をしていて車線変更をしないまま直進し作業看板に衝突、そのまま被災者を跳ね飛ばした。被災者は死亡した。	221	17	10～ 29
2010	3	3 ～ 4	鉄道地下トンネルの改良工事で、作業中のドラグショベルの誘導と、本線上でのドラグショベルの方向転換の際の誘導の業務に従事していた被災者が、トンネル内作業を終了して保守用車に同乗して基地に戻り、保守用車が基地に収容された後、作業基地ホーム下（ホーム高さ110cm）に倒れているのが発見されたもの。基地ホームの先端のコンクリートに、被災者の衣類等の繊維上の屑が幅15mにわたり付着していた。被災者は保守用車両のデッキ上に乗っており、停止しない状態でも降車することが出来	223	7	300 ～ 499

			た。			
2010	3	19 ～ 20	駐車場の交通誘導警備業務を終え、原動機付き自転車に乗り帰宅しようとした被災者が、駐車場出口から道路に出ようとした際、周囲が暗いため出口の低い位置に張られていた鎖に気付かず、原付が鎖に引っ掛かり、転倒し死亡した。事故発生場所は、通常の通勤経路ではなかった。	231	2	10～ 29
2010	3	9 ～ 10	工事現場の交通誘導員として交通誘導作業中、工事現場内でダンプトラックが後進しようとしていたため、ダンプトラックの後方に移動し誘導していたところ、被災者の後方で作業を行っていたドラグショベルが後方をよく確認せずに後進してきたため激突され、右足を轢かれたもの。入院加療していたが約1カ月後に死亡した。	142	6	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	上水道工事現場において、県道の交通誘導を行っていた被災者が、同現場の除雪作業中に後退してきたホイール式ドラグショベルに運転手の後方不確認により轢かれたもの。	142	7	1～9
2010	2	15 ～ 16	全長400mの道路舗装補修工事において、路盤下地材の再処理作業に従事していた2次下請けの重機オペレーターがドラグショベルを後退させたところ、後方にいた警備員を轢いてしまったもの。	142	7	10～ 29
2010	2	20 ～ 21	道路を横断しようとして横断歩道を渡り始めたとき、右手より直進してきた2tトラックに轢かれたもの。病院に搬送され入院加療中であったが、6日後に死亡した。	221	6	300 ～ 499
2010	1	2 ～ 3	国道バイパスの道路改良工事現場において、夜間の交通整理にあたった警備員2名が、前方不注意で走行してきた4t貨物トラックにはねられ、1名が頭を強く打ち1時間後に死亡、1名が全治1週間の怪我を負ったもの。	221	17	50～ 99
2010	1	11 ～ 12	被災者は、国道の除排雪工事に伴う除雪車等の交通誘導員として従事していた。昼休みが近くなったので交通規制を解除するため「駐車帯」とよばれる広場に除雪車等を誘導することとなった。一方、ロータリー除雪車は駐車帯の出入り口付近にあった雪山の排雪作業を行っていたが、ロータリー車が後退した際に後方確認を怠って被災者を5m跳ね飛ばし、倒れた	149	7	0

			被災者の上を車体が通過し、さらに前方のオーガに被災者を巻き込んでしまった。			
2010	1	21 ～ 22	車両にて警備巡回中、火災の通報を受けたため、現場へ向かった。現場到着後、同僚が火災現場の状況をカメラで撮影していたところ、被災者は同僚に歩み寄ろうとし、過重労働による心臓疾患により突然前方に倒れた。被災者は既に意識が無く、火災現場にいた消防隊員が心肺蘇生を行い、救急車で病院へ搬送した。搬送先の病院で、9日後に死亡した。	921	90	300 ～ 499
2010	1	6 ～ 7	道路建設工事のため一般車両の通行する国道（片側1車線）の片側車線箇所をパイロンで囲んだ現場内に、車線を走行してきた第三者の軽自動車が入り込み、車両誘導中の警備員2名がはねられ、うち1名が死亡した。	231	17	50～ 99
2010	1	13 ～ 14	被災者は大学附属の日本語学校の警備員であるが、精神的に緊張が伴う業務に従事し、また発症前の6か月平均で月80時間を超える時間外労働が認められ、長期間の過重業務により、心臓疾患を再発症し死亡した。	921	90	100 ～ 299
2009	8	1 ～ 2	国道の420m区間の走行車線側を車線規制し、歩道の縁石設置工事をしていたところ、上り線の追越し車線を走行してきた普通乗用車が急に方向を変え、歩行者誘導を行っていた交通誘導員（被災者）がはねられた。	231	17	100 ～ 299
2009	2	8 ～ 9	道路改良（舗装）工事において警備業務に従事していた被災者は、当日の強い風雨に対し工事用看板を道路脇の柵（単管パイプ）に固定するため、当該柵を乗り越え固定していたところ、何らかの原因で2.6m下の川（水深約25cm）に転落し、同僚に発見された。	711	1	30～ 49
2009	9	9 ～ 10	電話線の張替工事のため、主要地方道道路上において、高所作業車の下方を歩行者を誘導していた交通誘導員である被災者は、センターラインを越えて走行して来た乗用車にはねられ、死亡した。	231	17	10～ 29
2009	10	15 ～ 16	下水道工事現場で、片側交互通行の誘導作業中、クレーン付きトラックを後進で移動させるための誘導を行っていた。運転手は下水道工事の立坑と電信柱の間を抜ける時、誘導していた警備員が見えなくなり、誘導状況が確認できなくなっていたが、そのまま後進したところ、警備員をはね	221	17	10～ 29

			た。			
2009	8	13 ～ 14	汚水管理設工事現場で、交通誘導作業を行っていた被災者が、午後1時20分頃、交通誘導箇所を離れ、塀に片手をつきながら、ふらついて歩いているところを元請のドラグ・ショベル運転手に発見され、被災者の同僚に伝えた。同僚が被災者を近くの公園に連れて行き、ベンチに寝かせた。その時駆け付けた他の同僚が救急車を要請し、病院に搬送した。治療を行ったが、翌日死亡した。	715	11	50～ 99
2009	1	0 ～ 1	国道の中央分離帯付替工事のため、追い越し車線をカラーコーン等で規制し、交通誘導等警備業務に当たっていたところ、規制線を突破してきた12tトラックに衝突され死亡した。	221	17	100 ～ 299
2009	10	22 ～ 23	管内舗装補修工事の工事現場である県道上において、車線を規制し片側車線を交互通行させていた警備員である被災者が車両を停止させたところ、先頭にいたロードカッター車が一旦停止したが動き出し、ひかれた。	149	17	50～ 99
2009	8	12 ～ 13	フォークリフト（最大荷重7t、コンテナ用アタッチメント付）の運転者に連絡事項を伝えるため、作業中のフォークリフトに近づいた被災者が、後進して来たフォークリフトにひかれた。	222	6	10～ 29
2009	4	13 ～ 14	都市ガスを貯蓄するタンクである都市ガス・球形ホルダー（高さ38.0m）において、ホルダー側面部に設置されている頂部にいたる点検用階段通路の手すりの錆び止め塗装を行っていた被災者が、ホルダー頂部付近の手すり外側から地上に墜落した。	418	1	100 ～ 299
2009	10	9 ～ 10	被災場所において、関係請負人の作業者が工事に使用するために立上り管（L字型の鋼管、重さ45kg）2本を2tダンプトラックに積載する作業を行っていた。その際、同所に当日の工事現場の交通誘導を行う警備員として入場した被災者が、当該作業を手伝いトラックの荷台上にて立上り管の端部を持ち上げようとしてバランスを崩しトラックの荷台の上の高さ1.35mのあたりを超え地面に墜落した。	221	1	50～ 99
			解体工事現場において、関係請負人の作業者が、ドラグ・ショベルを使用して、傾斜地（傾斜角約10度）に停めた貨物自動車（最大積載荷重			

2009	12	8 ～ 9	1600kg) に解体した廃材を積み込んでいたところ、貨物自動車動き出した。それを止めようとした現場の警備員が、その貨物自動車にひかれた。貨物自動車のサイドブレーキはかけられていた。実際の積載量2285kg (約140%) であった。	221	17	50～ 99
2009	10	19 ～ 20	高速道路路面舗装工事のための車線規制作業を行うにあたり、路肩に工事用車両2台 (作業車1、標識車1) を停車させ待機していたところ、走行車両を走行してきた13t貨物トラックが標識車の右側ドアミラーに接触した後、標識車と作業車との間で待機していた被災者をはねた。	221	17	1～9
2009	10	7 ～ 8	埠頭岸壁において、検問ゲートでの出入管理を行っているとき、構内で異状を発見してその方向に向かったところ、後進してくるダンプの後輪にひかれた。	221	7	30～ 49
2009	10	2 ～ 3	被災者は下り線追越車線の道路舗装工事現場にて交通誘導を行っていたが10tダンプのドライバーからの用事を伝えるためアスファルトフィニッシャーのオペレーター及びその後方の作業者のところまで移動する途中、下り線側のガードレールの外をカニ歩きで移動していたところ足を滑らせ約8m下の川に墜落した。	418	1	30～ 49
2009	3	14 ～ 15	高速道で行われていた舗装補修工事終了に伴い、車線規制解除のため、車線上に設置されたカラーコーン等の撤去作業を行っていた。被災者は低速で走行する2tトラックのテールゲートリフターに乗って移動していたところ、テールゲートリフターから転落した。	221	1	30～ 49
2009	1	17 ～ 18	駐車場で警備業務中、休憩を終えた被災者が再び業務に就くために、自転車で休憩場所から勤務場所に移動していたところ、交差点で出会い頭に普通乗用車と衝突した。	231	17	50～ 99
2009	12	7 ～ 8	車で会社から現場へ向かう途中、国道のトンネル北側約300mの上下線の合流付近において、被災者が運転する乗用車 (南進) が対向車線にはみ出し、対向 (北進) してきた大型トラックと正面衝突した。	231	17	30～ 49
			有線放送電話施設撤去工事現場において、交通誘導業務に就いていた被災			

2009	2	14 ～ 15	者は、作業者が工事現場の下見のため、一人で建柱車の監視を指示され、道路脇の空地で自分の車から監視していた。作業者が戻った際、自分の車をバックの状態でも移動したところ転落し、車の運転席側ドアガラスの枠と立木にはさまれた。	231	1	30～ 49
2009	9	16 ～ 17	被災者は、ふ頭の突堤のトレーラー待機場所においてバイクに乗り、トレーラーの誘導業務を行っていた。この作業中、ゲートを通らずにトレーラー待機場所に侵入してきたトレーラーが被災者の運転していたバイクを左前方タイヤで巻き込んだ。	221	17	50～ 99
2009	6	14 ～ 15	一方通行の道路を掘削するガス管の工事において、現場に到着後、2tダンプトラックの後進誘導中に当該ダンプにひかれ、病院に搬送されたが死亡した。	221	6	50～ 99
2009	7	17 ～ 18	建設現場の誘導等に従事していたガードマン3人のうち、被災者は、工事現場敷地外の道路の信号のない交差点において工事関係車両の誘導を業務としていた。被災者が道路へ右折で出て行く乗用車（一般車両）を交差点内に入って誘導していたところ、当該乗用車にひかれた。	231	17	100 ～ 299
2009	5	13 ～ 14	共同住宅改修工事現場において、産業廃棄物処理用のコンテナを貨物自動車（脱着装置付きコンテナ専用車）により被災者が誘導しながら据え付け作業中、当該貨物自動車の運転手が、前進するところギアが後進に入っていたのに気付かずアクセルを踏んだため、コンテナの後ろで誘導していた被災者は、コンテナに激突されそのままコンテナと花壇の壁の間にはさまれた。	221	6	1～9
2009	5	13 ～ 14	国道にあるトンネルの壁面の清掃作業を実施するため、トンネル内を片側交互通行の規制を行っていた。交通誘導を行っていた被災者が交通整理の途中に進入してきた軽自動車にひかれた。	231	17	50～ 99
2009	11	11 ～ 12	道路工事の交通誘導作業をしていたところ、走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
		20				100

2009	8	～ 21	店舗駐車場から出車のため、被災者が公道に出て、誘導を行っていたところ、公道を走行してきた車両に激突された。	231	17	～ 299
2009	9	～ 11	被災者が道路工事に伴う片側交互通行の交通誘導をしていたところ、直進してきた大型トラックが停止していたバイクに追突し、その後被災者をはねた。	221	17	10～ 29
2009	3	～ 9	建設会社の敷地内において現場に向かうため、建柱車のクレーン機能を用いて荷の積み込み作業をしていた。積み込みが終わり、建柱車をアウトリガーを張り出したまま走行させたので、アウトリガーが縦列駐車してあった高所作業車に激突し、高所作業車が押し出され、高所作業車の間に被災者がはさまれた。	149	6	30～ 49
2009	9	～ 17	警備員として勤務していた被災者が、施設外に出してしまったボールを回収し、作業場に戻る途中、高さ3.5mの塀を乗り越えようとして、塀の上から墜落した。	418	1	10～ 29
2009	8	～ 19	道路の工事現場で、警備員2人が片側交互通行の誘導をしていたところ、軽トラックが進入してきたため、これを止めようとした被害者がはねられた。	231	17	10～ 29
2009	6	～ 11	道路維持修繕工事において、交通整理作業中、道路を走行してきた最大積載量2tのトラックに衝突された。	221	17	30～ 49
2009	12	～ 14	道道の防雪柵設置工事現場において、被災者は、荷つり作業をしていた車両積載形トラッククレーンの後ろ側に立ち、交通誘導を行っていたところ、市街地から走行して来た乗用車にはねられた。その後、乗用車は車両積載形トラッククレーンに追突し、被災者は、乗用車と車両積載形トラッククレーンにはさまれた。なお、現場には注意喚起のカラーコーンと看板が置かれていた。事故時の天候は晴れ、路面は乾いていた。	231	17	100 ～ 299
		16	国道の電線工事現場において、被災者は片側交互通行規制によりセンターライン近くで、交通誘導業務（委託業務）を行っていたところ、走行して			



2009	2	～ 17	来た乗用車が速度を落とさず直進して来たため、反対車線側に退避しようとしたが、乗用車は急ブレーキを掛けながら、センターライン側へ寄り被災者がはねられた。なお、現場道路は、見通しの良い直線道路であり、乾燥路面だった。	231	17	30～ 49
2008	8	～ 10	下水道埋設工事において、交通誘導員として工事現場の道路上で交通整理のために自動車を誘導していた。そこで建設会社の作業者が運転する車両系建設機械が後進したところ、被災者をひいて後方に転倒して死亡した。	142	6	1～9
2008	12	～ 23	国道交差点で右折中の警備員の軽乗用車が直進してきた対向の乗用車と衝突した。警備員は道路工事の交通誘導後、帰社する途中であった。軽自動車の運転者が死亡し、同乗者警備員が重傷となった。	231	17	30～ 49
2008	11	～ 5	電話線の道路埋設工事のため、二車線の県道を片側通行としていた現場で通行車両の誘導作業を行っていた時、直進してきた車両にひかれて死亡した。	231	17	30～ 49
2008	7	～ 13	国道で配電線改良（電柱抜柱）工事を片側交通規制で施工していたところ、大型トラック（14t）が、交通規制誘導作業をしていた被災者をはねて死亡させた。その後、トラックは抜柱作業車に追突し、その弾みで作業車がタクシー会社の建物内の駐車場に突っ込み、タクシーに衝突した後、タクシーの傍らにいた作業員2名に衝突した。	221	17	100～ 299
2008	11	～ 5	国道事故対策工事現場において、被災者は、国道で夜間道路工事の規制解除をするために規制区間内に駐車していた工事規制車両の後方で作業用コーンの積み込み等の作業をしていた。その際、10tトラックが工事規制車両に衝突して被災者が工事規制車両と10tトラックにはさまれて死亡した。	221	17	100～ 299
2008	3	～ 16	水道管理設工事現場において、作業終了後、クローラ等に付着した土砂を取り払おうとしてドラグ・ショベル（機体重量5660kg）を後進させたところ、ドラグ・ショベルの右後方にいた交通誘導員が巻き込まれて死亡した。	142	7	50～ 99
			橋梁補修工事に係る現場において、被災者は技能を得るための交通誘導警			

2008	11	15 ～ 16	備の教育中、進行車両に片側通行規制の注意喚起を行うために徐行旗を路側帯で標示していた。その際、規制区間を走行していた普通車が中央線を越えて被災者の後方から追突し、被災者が転倒して死亡した。	231	17	30～ 49
2008	1	7 ～ 8	被災者は建設工事現場の交通誘導を行う警備員である。元方事業者の施工する新築工事現場内に鉄筋を運搬してきた大型トラック（15t積）を誘導している際、後進している同車後部に接触したため転倒して同車にひかれて死亡した。	221	17	10～ 29
2008	3	4 ～ 5	工事規制区域内にて警備業務をおこなっていたところ、後退してきた4t車車両積載形トラックレーンにひかれて死亡した。	212	6	10～ 29
2008	6	12 ～ 13	本社の作業員2名が、社用車の引渡しと出張用務のために当該社用車で支社へ向けて高速道路を走行中、交通事故で追い越し車線上に停車していた自動車に衝突して運転者と助手席の2名が被災し、助手席の1名が死亡した。	231	17	50～ 99
2008	3	16 ～ 17	路上の転圧作業終了後、作業に使用したローラーを道具置場から所定の位置に戻すために後進させたところ、後ろにいた警備中の被災者を後輪でひいた。	144	6	30～ 49
2008	7	10 ～ 11	被災者は、町道舗装復旧工事現場（片側通行）において、警備員として一般車両の交通誘導を行っていた。被災者がドラグ・ショベルの後方、センターラインに置かれていたカラーコーンの付近にいたところ、作業のために後進してきたドラグ・ショベルのクローラの下敷きになり死亡した。	142	7	30～ 49
2008	6	13 ～ 14	道路交通の障害となっている樹木、枝、下草の除去作業を行うにあたり、片側一車線を150mにわたり規制して車線規制の片端に被災者、もう片端に1名の警備員を配置して交通誘導を行っていた。被災者側の車両を通行させた後、無線で反対側に連絡した直後、走行してきた乗用車が被災者に激突した。	231	17	10～ 29
		17	スーパー前の横断歩道で歩行者誘導中、交差点の右方向から直進してきた			30～

2008	10	18	軽トラックにはねられて死亡した。	231	17	49
2008	7	18	道路施設工事（電柱の工事）の警備業務を終えて営業所へ警備日報を提出するため、社用車で帰社途中に車と正面衝突した。	231	17	50～ 99
2008	12	18	交通誘導警備を終えた後、事業場へ帰社するために同社所有の軽ワゴンを運転中、右前方のガードレールに正面衝突した。	231	17	30～ 49
2008	3	13	埠頭岸壁をパトロール隊が巡回中に待機車両内にいる被災者を発見した。既に意識不明で呼吸をしていない状態であり、救急隊員による蘇生を試みたが死亡した。	921	90	100～ 299
2008	6	2	地下に埋設されている通信ケーブル等の設備工事のため、道路の交差点内のマンホール付近で車の交通誘導にあたっていたところ、走行中の乗用車にはねられ死亡した。	231	17	50～ 99
2008	10	10	上水道管敷設工事において、国道を片側一車線規制にして被災者が交通整理及び重機置場の誘導を行っていたところ、規制車線内で誘導予定の最大積載量4tのダンプトラックが後進してきたため、その後部に接触して倒されてダンプトラックと路盤の間にはさまれて死亡した。	221	6	30～ 49
2008	9	10	水道ガス工事の交通誘導中、市道の掘削箇所を避けて民家駐車場から後進で市道に出ようとした軽自動車に激突された。	231	17	100～ 299
2008	2	2	作業終了後、ドラグ・ショベルを資材置場へ移動中に、当該ドラグ・ショベルを誘導していた警備員が後方より走行してきた車両に衝突され死亡した。	231	17	50～ 99
2008	1	5	国道の歩道舗装工事終了後、ドラグ・ショベルを4tトラックに積み込む作業のため、車道にカラーコーンとバーで規制をしていた。規制した脇の車道をトラックが通過していたところ、警備員が工事規制内から車道に出た	221	17	50～ 99

			ため4tトラックの左前部に衝突した。			
2008	1	12 ～ 13	火力発電所放水路基礎杭移設工事ならびに関連除去工事において、警備業務の委託を受けている事業場の作業者が、地盤改良作業で発生する廃泥を搬出するタンク車の誘導作業を行っていたところ、バックで走行していたタンク車にひかれた。	221	7	300 ～ 499
2008	9	21 ～ 22	国道の路面舗装工事の施工の際、交通誘導中に軽乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2008	3	12 ～ 13	排水工事現場で交通誘導作業を行っていたところ、正面より直進してきた乗用車に激突された。	231	17	1～9
2008	8	12 ～ 13	高速道の追い越し車線において、ジョイント部分における消音のための舗装作業を行っていた。舗装作業の終了後、規制を解除して現場から離れようとしていたところ、工事中であることを表示している標識車に13tトラックが後方から追突して標識車付近にいた被災者らが追突したトラックや標識車の下敷き等になり2名が死亡、2名が負傷した。	221	17	50～ 99
2008	10	3 ～ 4	営業所から支社に社用車で県道を走行中、反対車線のガードレールに激突した。なお、ブレーキ痕は確認できなかった。	231	17	50～ 99
2008	3	16 ～ 17	道路標識工事を行っている現場において、道路を片側通行にして交通整理を行っていたところ、本線を走行してきた乗用車が工事車両2台を追い越した後、登坂車線に進入して交通誘導していた被災者をはねた。	231	17	50～ 99
2008	7	8 ～ 9	国道のライン引き工事現場の交通誘導場所へ向かうため、車を降りて道路を横断しようと車道に出た際に走行してきた2tトラックにはねられた。	221	17	50～ 99
		14	道路維持業務において、幅員7.0mの道路で積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を路肩に停め、道路標識の基礎ブロック（重量約2t、2			30～

2008	9	15	個)の荷降し作業中、1個目の荷をつり上げ旋回したところ同クレーンが路外に転倒した。この時、荷降し箇所付近にいた警備員が同クレーンが横転した際に荷台から落下した基礎ブロックの下敷きになり死亡した。	212	2	49
2007	9	11 12	被災者は事務所にトイレが設けられていなかったため、事務所の敷地から約20m離れたところにある公園のトイレに行くため市道を渡る途中、走行してきた軽ワゴン車にはねられた。	231	17	30~ 49
2007	2	23 24	国道上において、みかん選果場への水道引き込み工事に付随する道路舗装の復旧工事のため、道路の片側車線を封鎖し、警備員を配置して作業を行っていたところ、走行してきた軽自動車に当該警備員がはねられた。	239	17	100 ~ 299
2007	6	14 15	道路修繕工事現場において、機体重量3.2tのドラグ・ショベルを運転し舗装路の均し作業を同機を後退させながら行っていたところ、同現場の交通誘導の業務に就いていた被災者が同機のクローラにひかれ、死亡した。	141	7	10~ 29
2007	6	16 17	現場移動のため、原動機付自転車で国道を走行中、縁石に乗り上げて転倒した。	231	17	100 ~ 299
2007	3	8 9	同僚1名を乗せて被災者が運転する車で当日の現場に向かう途中、直線道路で中央線を越え対向してきた乗用車と正面衝突した。	231	17	10~ 29
2007	3	11 12	護岸工事現場に通じる公道上で、被災者が、乗用車を県道に通すため、カラーコーン（一般乗用車の工事現場周辺への進入を防止するため設置）を移動させようとしていたところ、同車両が突然暴走し、はねられた。	231	17	1~9
2007	3	6 7	作業所に向かって走行中、路面の起伏にハンドルをとられ、スピードが出ていたために蛇行運転となり、反対車線のガードレールに衝突し左に横転し、助手席の被災者が死亡した。	231	17	1~9
2007	9	14	県道の道路工事に伴う交通誘導警備作業において、休憩後被災者が体調不良を訴え、引き続き日陰で休み、同僚が被災者を移動させようとしたところ	719	90	30~

		15	ろ、被災者は意識が朦朧とし、立ち上がることができなかつたため、病院へ搬送されたが、死亡した。			49
2007	8	12 ～ 13	工事現場の近くの踏切で大型トラックが立ち往生し、これに気付いた被災者が踏切の外にトラックを誘導していたところ、特急電車が接近し、被災者が踏切内の非常ボタンを押したが間に合わず、特急電車とトラックが衝突した。被災者は衝撃で引きずられたトラックの下敷きとなった。	221	6	1～9
2007	8	8 ～ 9	土地区画整理事業整備工事において、交通整理中の警備員が後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	1～9
2007	4	7 ～ 8	木造住宅新築工事に資材を運んで来たトラックが路上に駐車しようと坂道をバックした際、警備員をひいて死亡させた。	221	17	50～ 99
2007	2	8 ～ 9	市道の工事中、工事用迂回道路にて1人で交通誘導整理をしていた誘導員が軽ミニバンに追突された。災害発生日は工事休止中であったが、当該被災場所は1日に300台ものトラックが行き交う場所であるため、工事休止中でも誘導員を配置することになっていた。	231	17	0
2007	1	3 ～ 4	国道上のコンピューター通信用光ファイバーケーブル敷設工事に係る共有ボックスの切替作業を行うため、同国道の作業区域を制限し、交通誘導員を配置していたところ、当該作業区域東端に配置された警備員である被災者が、東側から直進してきた乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2007	10	18 ～ 19	道路工事に伴い、警備会社から現場に派遣されていた交通誘導員が、交通誘導中に走行してきた一般の自動車にひかれた。	231	17	30～ 49
2007	8	15 ～ 16	ガス工事現場に於いて、警備（交通整理）作業中、真夏の炎天下の中の作業であるので、体が疲弊しないように何度も休憩を取りながら作業をしていたが、休憩を一旦終えて所定の作業場所に就いてしばらくしたところ突然倒れた。	715	11	1～9

2007	1	5 ～ 6	国道（片側3車線道路）において、トラックが左車線から中央車線へ車線変更し走行していたところ、中央車線を走行していた被災者を乗せた乗用車が、トラック後方に追突した。	231	17	30～ 49
2007	6	17 ～ 18	被災者が、スーパーの駐車場西出入り口付近の道路上にて車両誘導を行っていたところ、出庫しようとした乗用車にはねられた。乗用車は、駐車場から道路に出る際、勾配を乗り越えるため、加速気味に走行していた。	231	17	100 ～ 299
2007	5	1 ～ 2	営業所の事務所内休憩室で仮眠中に食堂のゴミ箱付近より出火し、被災者は火災場所にたちすくんでいたために煙を吸い込み死亡した。	715	11	10～ 29
2007	8	10 ～ 11	埠頭の巡回警備を委託されている事業場の作業者が、軽自動車を使用し、巡回中に岸壁より車ごと海に転落した。	231	1	50～ 99
2007	2	4 ～ 5	国道の中央分離帯のガードレール取替工事で追い越し車線を規制して施行していた。工事作業終了後、作業員4名で追い越し車線に車を止め、機材の撤去作業を行っていたところ、4 tトラックが標識車に追突し、その前方で作業をしていた2名が押し出された標識車にはねられた。	221	17	30～ 49
2007	2	4 ～ 5	国道の中央分離帯のガードレール取替工事で追い越し車線を規制して施行していた。工事作業終了後、作業員4名で追い越し車線に車を止め、機材の撤去作業を行っていたところ、4 tトラックが標識車に追突し、その前方で作業をしていた2名が押し出された標識車にはねられた。	221	17	30～ 49
2007	12	21 ～ 22	被災者は、道路工事現場事務所において新入警備員の配置等についての打ち合わせをした後、当該道路工事現場にて就労中の自社警備員に声をかけるため、国道の脇のガードレールの間から道路北側の作業現場へ横断しようとしたところ、国道を西進してきた12 tトラックにはねられた。	221	17	30～ 49
2007	9	8 ～ 9	夜間の国道の舗装工事において、現場事務所で元請から交通誘導員に対する教育を受けた後、約200 m離れた工事現場の詰所に向かって街灯のない市道を歩いていたところ、橋の上から深さ約1.9 mの用水路に転落した。	418	1	10～ 29

2007	3	4 ～ 5	工場内において、定期巡回に出た被災者が相当時間経過しても戻ってこなかったことから捜索したところ、巡回ポイントである廃水処理場の油分離槽の縁に被災者の無線機とタバコを発見し、当該油分離槽内を捜索したところ槽内に沈んでいた被災者を見つけた。	713	10	100 ～ 299
2007	3	11 ～ 12	警備員である被災者は、事業場が実施する警備業務訓練に参加中、開会式の整列場所に小走りで向かっていたところ、体調の異変のため転倒した。被災者は、高血圧症等の既往症のほか、直近の時間外労働時間が80時間を超え、恒常的な長時間労働が認められた。	921	90	100 ～ 299
2007	2	7 ～ 8	廃棄物リサイクルセンターにおいて、被災者（警備員）が始業前に場内の清掃作業にあたっていたところ、廃棄物の荷下ろしのため公道からセンター場内へバックで進入してきたダンプトラック（4t）が被災者に激突した。	221	7	50～ 99
2007	5	11 ～ 12	下水道管の敷設工事現場で、掘削を行っていたドラグ・ショベルに、ガードマンがひかれた。	142	7	10～ 29
2007	3	16 ～ 17	キャッシュディスプレイ障害対応業務のため、被災者は所属する支社から同社所有の原付バイクに乗って駅前通りを走行中、信号付き交差点内で普通自動車と衝突した。	231	17	10～ 29
2007	4	14 ～ 15	被災者は、自社の求人チラシを配布するため会社をミニバイクで出発した。チラシ配布中、自動車道の側道の交差点で左側から来た乗用車と衝突した。	231	17	10～ 29
2007	1	17 ～ 18	店舗改装セールの際、店舗駐車場より客車両が帰るため誘導中、国道に出て通行車両を止めようとしたところ、はねられた。	231	17	30～ 49
2007	5	7 ～ 8	高架橋補修工事のため、工事箇所の下になる自動車道で交通誘導を行っていた作業員が、工事車両（トラック）を誘導中、バックしてきたトラックに激突されて倒れ、トラックの左後輪にひかれた。	221	17	30～ 49



2007	6	8 ～ 9	公園駐車場で、自動車の車内で待機中の被災者が、車内で死亡しているのを他の同僚が発見した。	719	90	～ 499
2007	8	13 ～ 14	片側道路規制をし、交通誘導をしていた被災者に、トラックが突っ込み、被災者をはねた。	221	17	10～ 29
2007	7	15 ～ 16	道路脇からボールが飛んできたため、運転者がブレーキを掛けたはずみで荷台に積んでいたタンクが進行方向に移動し、荷台に乗っていた被災者がタンクと荷台前部にはさまれた。	221	6	～ 299
2006	12	7 ～ 8	港湾施設の巡回警備を終えた警備員が、出入制限区域内に停めた乗用車内で仮眠中、当該車両が急発進し、約6m前方にあった岸壁の車止め（高さ20cm、幅60cm）に当該車両のフロント下部が激突、その衝撃で前方方向へ裏返しとなった車両が天井部から海面に落ちた。被災者は、脱出のために開けた運転席側窓から流れ込んだ海水により車内に押し戻され、車両と共に水深13mの海底に沈んだ。	231	1	～ 299
2006	12	21 ～ 22	トラック等の入庫・出庫管理をしていた被災者が、出庫前のフルトレーラーの被牽引車（後方台車）にひかれた。	221	7	50～ 99
2006	11	1 ～ 2	高架橋排水設備清掃のため、1車線を規制して清掃作業を行っていたところ、規制車後部に乗用車が猛スピードで追突。規制車に乗車していた労働者が負傷（休業見込み21日）、規制車の前方で交通誘導を行っていた労働者が乗用車の追突によりはじき飛ばされた規制車にはねられて、死亡した。	231	17	30～ 49
2006	12	15 ～ 16	被災者は一般国道道路改良工事の工事現場内においてトラック等の車両の誘導を行う警備員で、現場内において車両積載形トラッククレーンの後退中に被災者が轢かれた。	221	6	～ 299
2006	11	6 ～	早出出社した同僚労働者が、普段であれば出社している被災者の姿が見えないため不審に思い付近を捜したところ、事業場敷地内の駐車場から約1	417	1	10～

		7	0 m下の隣地倉庫裏に墜落している被災者を発見した。			29
2006	11	0 ～ 1	被災者は観光地の駐車場付近の道路規制のため、道路上で車両誘導等の業務に従事していたが、道路のガードレールの外側から崖の下にある遊歩道に向けて転落した。	711	1	100 ～ 299
2006	11	10 ～ 11	道路の修繕工事において、被災者は交通誘導を行っていたところ、被災者の背面方向から後退してきた締固め用機械（搭乗式振動ローラー、機体重	144	7	50～ 99
2006	10	11 ～ 12	被災者らはイベントの来場者誘導を町から委託され、その準備作業となる道路路側帯へのロードコーン設置作業を行っていた。被災者がトラック荷台上からロードコーンを道路上の作業員に手渡し、指定された区間にロードコーンを設置した。現場責任者から一部がまばらな箇所があると連絡を受け、手直しするために向かう途中で、荷台から墜落した。	221	1	100 ～ 299
2006	10	10 ～ 11	高所作業車のアウトリガーを格納していたところ、前輪側を格納している途中に高所作業車が坂下側へ逸走し、そのまま道路から法面下へ転落した。その際にガードマン（被災者）が転落した高所作業車の下敷きとなった。	146	6	10～ 29
2006	9	15 ～ 16	汚水幹線管渠築造工事において、発進立坑築造完了後、ドラグ・ショベル（0.45m <sup>3</sup> ）を約150m先の現場事務所敷地に移動させるため、交通誘導員を重機の前後2名ずつ計4名配置して、交差点を横断しようとしていた。交差点信号が赤となり、重機前方にいた誘導員がドラグ・ショベルのアームが交差点内に出ていたためオペレーターに後進指示をしたところドラグ・ショベル後方にいた被災者がひかれ死亡した。	142	7	30～ 49
2006	8	8 ～ 9	マンションの新築工事現場において、トラック運転手がトラックを移動させたところ、被災者がマンション1階階段の壁とトラックの荷台にはさまれた。	221	7	10～ 29
2006	7	18 ～	大型複合店舗の駐車場出入り口で、交通整理中の警備員が駐車場から出ようとした普通乗用車にはねられた。	231	17	100 ～

		19				299
2006	8	0 ～ 1	巡回のため、軽自動車に乗って岸壁を走行していたところ、海中に転落した。	231	1	100 ～ 299
2006	7	14 ～ 15	国道線の横断歩道標示塗り替え作業現場において、被災者は片側2車線の道路上で片側交互通行の交通誘導を行っていたところ、走行して来た乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
2006	1	17 ～ 18	下水道工事現場の交通誘導警備で、工事用トラックを後方誘導中に一般車両に激突された。	231	17	50～ 99
2006	7	12 ～ 13	道路舗装工事のため、交通誘導を行っていたところ、被災者の停止の誘導に反し走行してきた当該乗用車を制止しようとしてはねられた。	231	17	1～9
2006	7	16 ～ 17	上下水道管布設工事において、土止め支保工の組立作業中、掘削溝内におろしていたドラグ・ショベルのバケットを地上に移動させるためバケットを引き上げ、ドラグ・ショベルを後退させたとき、ドラグ・ショベルの後方にいた被災者（交通整理員）が轢かれた。	142	7	1～9
2006	6	18 ～ 19	巡回のために使用しているバイクのガソリンが無くなってきたため、スタンドに給油に行き、現場に戻る際、交差点において軽トラックと衝突した。	231	17	50～ 99
2006	4	16 ～ 17	アサリ養貝場の監視業務に従事すべく小型船舶にて海岸沖800mにある監視塔に到着したが、天候が悪化してきたため監視業務を一時中断し、陸地にある監視場に戻ろうと船に乗船しようとしたとき、海中に転落した。	713	10	30～ 49
2006	3	12 ～ 13	交差点横断歩道上において、被災者が通信設備工事の交通誘導を行っていたところ、後方から右折進行してきた乗用車に激突された。	231	17	10～ 29
		0	光ファイバーの埋設工事のため国道の下り車線に交通規制を掛け、交通誘			50～

2006	6	～	導を行っていた被災者に進行してきた加害者の車が突っ込み、被災者に激突した。	231	17	99
2006	5	3 ～ 4	国道において、被災者が、道路工事に伴う工事看板等を撤去していたところ、走行してきたトラックにはねられた。	221	17	10～ 29
2006	4	15 ～ 16	交通警備員である被災者は、用便のために現場から約100メートル離れた地点まで走っていったが、その後被災者が戻ってこないため捜索したところ、現場から約260メートル離れた側溝の集水柵内で、発見された。	418	10	50～ 99
2006	5	13 ～ 14	県道の植栽工事において、道路上で車両の交通誘導を行っていた被災者が乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2006	4	23 ～ 24	災害発生場所において巡回警備中、倉庫の荷物積卸しホームより転落した。	417	1	50～ 99
2006	2	10 ～ 11	地下鉄駅の券売機の入替のため、古い券売機（重量約400k）を昇降器（ゴム製キャタピラ付の運搬器）を使用して作業員2名で外に運び出すため、階段箇所を通っている時、踊場付近で後方に昇降器ごと転倒し、階段下にいた警備員が下敷きとなり死亡、作業員2名も負傷した。	229	6	30～ 49
2006	3	14 ～ 15	市道において、歩道改良工事の交通誘導業務を行っていた被災者が転倒し、移動してきたドラグ・ショベルに轢かれた。	142	7	30～ 49
2006	2	2 ～ 3	工事現場の夜間常駐警備中、工事現場近くの国道を横断中（横断歩道上）にタクシーにはねられた。	231	17	50～ 99
2006	3	～	電線共同溝工事において、車線規制のために被災者を含む警備員4名を配置して交通誘導を行っていたところ、パトカーから逃走していた飲酒運転	231	17	100～

		5	車両が車線減少部分で作業に従事していた被災者をはねた。			299
2006	3	14 ～ 15	小口径配水管布設替工事の現場において、市道上にて誘導していたトラックに警備員がひかれた。	221	6	1～9
2006	1	0 ～ 1	側道から国道へ右折（西行き）しようとしている工事車両の誘導補助のため、左側（西行き）からの一般車両を制止する目的で国道を横断し西行き車線に出ようとしたところ、右側（東行き）から走行してきたコンテナトレーラーに衝突された。	221	17	100 ～ 299
2006	1	13 ～ 14	搬入するため縦列駐車をして待機しているトレーラー（24t）を誘導しようとしたところ、トレーラーが突然発進したためトレーラーと接触した。	221	17	100 ～ 299
2006	1	19 ～ 20	警備業務就労後、当該場所から会社所属の巡回車にて事務所に戻るため一般道を走行中、道路脇の車庫の支柱等に激突した。	231	17	30～ 49
2005	9	10 ～ 11	県道の舗装工事現場において、路面を掘り起こす作業を行っていたモーター・グレーダーが後退した際、路肩付近で交通誘導を行っていた被災者が引かれた。	141	7	10～ 29
2005	11	15 ～ 16	国道脇の草刈作業において、交通整理を行っていた時、走行してきたトラックにはねられた。	221	17	10～ 29
2005	9	13 ～ 14	国道と店舗との間の歩道上において、被災者が交通整理を行っていたところ、国道を走行してきた乗用車が道路わきの縁石に乗り上げた後、被災者をはねた。	231	17	100 ～ 299
2005	12	14 ～ 15	下水道工事現場において、下水道管を埋設した掘削箇所をドラグ・ショベルで埋め戻し作業中、後退してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	30～ 49
		1	通信ケーブル新設・撤去工事現場において、車線変更での交通誘導警備			10～

2005	11	～	中、普通乗用車が当該工事現場に進入し、現場内に駐車していた工事車両	231	6	29
	2		に衝突し、その反動で工事車両が被災者に激突した。			
2005	2	23	下水道築造工事現場において、交通誘導を行っていたところ、飲酒運転の	231	17	10～
		24				
2005	2	14	給水車で国道を走行中、カーブを曲がりきれず、路肩歩道の擁壁に乗り上	221	17	50～
		15				
2005	2	5	舗装工事終了後、施工区間のパイロンを回収し、積込み作業中、軽自動車	231	17	30～
		6				
			れた。			49
2005	9	7	道路工事現場で交通誘導をしていた被災者が、付近の市道を横断していた	231	17	10～
		8				
2005	2	23	国道の片側交互通行の交通誘導中、赤色灯を出し停止合図を行っていた被	231	17	10～
		24				
2005	6	10	市道で、片側交互通行の交通誘導の業務中、わき見運転により直進してき	231	17	100
		11				
						299
2005	12	6	高速自動車道インターチェンジ付近において、道路舗装工事を行うにあ	221	17	30～
		7				
			エリア内で発電機に燃料を補給していた被災者がはねられた。			49
2005	4	18	パチンコ店駐車場の警備業務中に、駐車場出口付近の道路上において、出	231	17	100
		19				
						299
		12	道路上で警備業務に従事していたところ、走行してきた軽自動車にはねら			100

2005	9	～ 13	れた。	231	17	～ 299
2005	6	～ 17	道路の防災工事の現場において交通誘導及び落石等の監視を行っていた警備員が、ガードレールの外側にある川の擁壁の上部から、7m下の川に墜落した。	418	1	100 ～ 299
2005	3	9 ～ 10	下水道工事現場において、被災者が交通誘導を行っていたところ、トラックが急に後進し、そばにいた被災者に接触した。	221	7	30～ 49
2005	11	16 ～ 17	河川敷の走路整地工事において、走路整地作業を行っていたところ、地盤締固め機械のローラー車にひかれた。	144	7	1～9
2005	12	16 ～ 17	片側通行の交通整理をしていたところ、走行してきた車に、はね飛ばされた。	231	17	50～ 99
2005	6	20 ～ 21	国道で、片側通行の交通整理をしていたところ、走行してきた車に挟まれた。	231	17	50～ 99
2005	12	2 ～ 3	高速自動車道遮音壁工事のための車線規制交通誘導の警備業務従事中、規制区域内に普通貨物自動車が入り、被災者をはねた。	231	17	100 ～ 299
2005	8	17 ～ 18	売上金回収業務中に社用車の後部座席にて伝票処理作業を行っている際に倒れ、死亡した。	999	99	300 ～
2005	8	20 ～ 21	車両の誘導業務において、国道へ車両を出すため、国道を走行してきた乗用車を停車させようとしたところ、はねられた。	231	17	30～ 49
		16	自動車で行く中、交差点にて、路地より優先道路へ出ようとした際、左側			30～

2005	2	～ 17	より来た車と出会い頭に衝突した。	231	17	49
2005	9	8 ～ 9	下水道工事の準備のため路肩で交通誘導をしていた被災者が、前方不注意の乗用車にひかれ、路肩下のみかん畑に転落した。	231	17	30～ 49
2005	2	5 ～ 6	トラックで走行中、歩道にある案内標識に激突した。	221	17	1～9
2005	10	17 ～ 18	県道で、交通誘導の後片付け作業中、看板等をトラックに積んだ際にトラックが坂道を下りだしたため、前側に回りトラックを止めようとしたが、止めることができず、ひかれた。	221	17	50～ 99
2005	12	17 ～ 18	県道において、照明、信号機設置工事に伴う交通誘導業務を行っていたところ、走行してきた軽トラックにはねられた。	231	17	30～ 49
2005	2	9 ～ 10	国道のポールの塗装作業で、工事中を知らせる案内板を回収するために後進してきた貨物自動車が、交通誘導をしていた被災者に激突した。	221	6	10～ 29
2005	3	11 ～ 12	道路工事現場で交通誘導の準備をしていたところ、走行してきたトラックがそれに気づいて急ブレーキをかけたため蛇行し、中央分離帯に激突、被災者はトラックと中央分離帯との間に挟まれた。	221	17	50～ 99
2005	9	15 ～ 16	交通誘導警備に付く前に、歩道上にて乗用車にはねられた。	231	17	100 ～ 299
2005	10	18 ～ 19	事業場の駐車場から事務所向かうため、国道を横断歩道がない箇所ですら斜め横断をしていたところ、走行してきた車両にはねられた。	231	17	10～ 29
		13	水道管理設工事現場で誘導を行っていた被災者が、休憩時間に停車中のト			10～



2005	12	～	トラックの前に座って弁当を食べていたところ、突然トラックが発車し、ひ	221	17	29
		14	かれた。			
2005	5	～	警備作業中、工場本館の屋上で、はしごから墜落した。	371	1	30～ 49
		14				
		15				
2005	1	～	車両の交通整理中、傾斜部に停車していたフォークリフトのサイドブレー	222	6	50～ 99
		22				
		23	キが引かれていなかったために動き出し、被災者に激突した。			
2005	4	～	駐車場出口において、交通誘導中、停止を振り切って突っ込んできた自動	221	6	100 ～ 299
		16				
		17	車に激突された。			
2005	3	～	水道管工事を行うに当たり、交通誘導を行っていたところ、飲酒運転の乗	231	17	10～ 29
		22				
		23	用車にはねられた。			
2005	12	～	自転車に乗って道路を横断していたところ、右側から来た普通貨物自動車	221	17	10～ 29
		2				
		3	にはねられた。			
2005	1	～	市道を走行していたところ、対向車線の路肩に停車中のトラックを避ける	231	17	300 ～ 499
		6				
		7	ためにセンターラインをはみ出してきた対向車と正面衝突した。			
2005	2	～	トラックの後方にて誘導中、バックしてきたトラックと停止させていた一	221	7	100 ～ 299
		15				
		16	般車両との間に挟まれた。			
2005	10	～	スーパーマーケットの駐車場から出る利用客の車両を誘導中、被災者が公	231	17	100 ～ 299
		17				
		18	道上の車道に出たところ、右から急加速してきたワゴン車にはねられた。			
		0	高速自動車道において被災者が路肩規制終了後、後尾警戒を実施していた			30～

2005	3	～	1	ところ、走行車線を走行してきた大型トラックが標識車に追突したはずみで押し出された標識車が被災者に激突した。	221	17	49
2005	9	～	13 14	道路工事現場において、一般車両の交通誘導作業を行っていた被災者が路面の段差につまずいて転倒し、それに気付かずに後進してきた路面清掃車にひかれた。	149	7	30～ 49
2005	11	～	15 16	片側道路規制を行っている工事現場において、工事中ダンプトラックと一般車両の誘導を行っていた被災者が別の作業者が誘導するドラグ・ショベルにひかれた。	141	7	100 ～ 299
2005	10	～	17 18	作業を終えドラグ・ショベルを運転し、規制帯の中を通過して現場事務所のある土場に戻る途中、道路に電光掲示板が設置されているため、一度対向車線にはみ出し規制帯側に戻った。その際、ドラグ・ショベルの後方に一般車両が走行してきていることに気づき、一般車両を通過させるため3m後退した。この時、ドラグ・ショベルの後方で一般車両の誘導を行っていた被災者がドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	10～ 29
2005	12	～	11 12	国道跨線橋下の耐震補強工事現場において、鉄道車両の見張りを行っていた被災者が鉄道車両にはねられた。	232	6	100 ～ 299
2004	12	～	8 9	上水道管布設工事現場において、交通誘導を行っていた被災者は、材料等を搬入して来た2tトラックが、道路脇に置かれていたカラーコーンを車体の下に巻き込んだことに気付き、道路脇に停車したトラックの左前下部にもぐり込む格好でコーンを取り除く作業をしていたところ、発進したトラックにひかれた。	221	7	10～ 29
2004	12	～	15 16	水道管敷設工事現場において、掘削した溝内に水道管敷設後、水道管上に砂を敷き、その上に栗石を入れ、ドラグ・ショベルの排土板でならす作業をしていた際、運転手が当該ドラグ・ショベルを数メートル後退させたところ、交通誘導をしていた被災者をひいた。	142	7	10～ 29
2004	1	～	10	国道において、管工事現場の交通誘導を行っていたところ、走行してきた一般車両（ワゴン車）を通過させようと誘導した際、当該ワゴン車が被災	231	6	10～

		11	者に突っ込んだ。			29
2004	11	20 ～ 21	下水道築造工事において、現場近くの歩道で待機していたところ、走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
2004	5	19 ～ 20	工場敷地内を自転車で夜間巡回警備中に、岸壁から自転車で海に転落した。	418	1	100 ～ 299
2004	3	1 ～ 2	夜間道路舗装工事現場において、片側交互通行規制中、ガードマンが車線中央にて先頭車両（4tトラック）を停車させたところ、後続車（11tトラック）が先頭車両に後ろから追突した。その際、先頭車両が押し出され、ガードマン2人が跳ねられ、死傷した。	221	17	30～ 49
2004	3	9 ～ 10	車両積載形トラッククレーンのジブが、市道に突出し一般車通行の支障となるため、ジブの向きを前から横へかわすこととなり、エンジンを始動し運転席から降りた時にトラックがずるずると前進し、気を利かせクレーンのフックを外すため前にいた被災者がトラック前面と塀に挟まれた。	221	7	10～ 29
2004	12	11 ～ 12	道路の舗装工事のため4 t ダンプトラックの後退を誘導していたところ、当該道路の後方から走行してきた軽トラックにはね飛ばされて、誘導していた前記4 t ダンプトラックに激突した。	221	17	1～9
2004	3	8 ～ 9	岸壁において、出品車両の盗難防止のための警備業務を行っていたところ海中に転落した。	419	10	10～ 29
2004	2	10 ～ 11	国道舗装修繕工事に伴い、交差点の中央分離帯付近で歩行者の誘導を行っていたところ、4 t トラックが信号待ちをしていた車に追突し、中央分離帯に乗り上げ、さらに被災者をはねた。	221	17	100 ～ 299
2004	12	18 ～ 19	スーパー駐車場の誘導係を行っていた被災者が、当該駐車場から出庫していく車を国道上で誘導していたところ、走行してきた軽自動車にはねられた。	221	17	30～ 49

2004	6	23 ～ 24	国道管渠（下水道）築造工事現場において、交通整理業務を行っていた被災者が、工事現場内から掘削土砂を積み、仮置場に向かうため国道に出ようとした4tダンプトラックにひかれた。	221	7	10～ 29
2004	10	5 ～ 6	国道上で、交通規制の誘導中、走行中の大型トレーラーにはねられた。	221	17	30～ 49
2004	10	18 ～ 19	葬儀場の交通整理作業中、国道を挟んだ葬儀場駐車場から横断してくる人を誘導するため誘導灯で停止合図をして道路に出たところ、走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
2004	12	7 ～ 8	乗用車で移動中、交差点に赤信号無視で進入し、左側交差路から来た乗用車と衝突し、水田に乗用車ごと転落した。	231	17	30～ 49
2004	2	5 ～ 6	国道修繕工事の車線規制準備作業中に規制用のバリケードの配置確認作業のための作業車にひかれた。	221	6	100 ～ 299
2004	7	4 ～ 5	路面改修工事に係る車線規制に伴う交通誘導作業中、交通誘導を行っていた被災者が、規制車両（表示板を載せた車）と照明器具搭載車の間に居たところ、自動車が車線規制中の工事区間に侵入し規制車両に激突し、被災者が規制車両と照明器具搭載車とに挟まれた。	231	6	10～ 29
2004	6	11 ～ 12	バスの誘導を行う業務中に、熱中症を発症した。	719	90	100 ～ 299
2004	5	15 ～ 16	電柱立替工事現場において被災者が交通誘導を行っていた際、高所作業車が次の場所へ移動したため、急いで後を追いかけていたときに転倒した。	417	2	100 ～ 299
2004	11	13 ～	高速自動車道のインターチェンジ付近において、追越車線を走行していた貨物乗用車が中央分離帯側の溝で脱輪した後、スピンしながら走行車線を	231	17	30～

		14	走行中の貨物トラックに接触し、本線とインターチェンジとの合流地点で交通誘導をしていた作業者をはねた。			49
2004	7	23 ～ 24	駐車場から出庫する車両を誘導するため車道に出たところ、片側2車線道路の左車線を走行してきた車両にひかれた。	231	17	100 ～ 299
2004	11	0 ～ 1	工事現場の資材置場において、階段状に積まれた電柱（最高高さ約1.7m）の上から転落した。	611	1	30～ 49
2004	9	23 ～ 24	道路舗装修繕工事の交通整理中、直進してきた乗用車を当該車両の前方に出て停止させようとした時に衝突された。	231	17	30～ 49
2004	2	8 ～ 9	町道のガス配管工事において、片側車線の間付近で交通整理を行っていた警備員が、入り口の警備員の誘導で走行してきた4tトラックにひかれた。	221	17	100 ～ 299
2004	2	15 ～ 16	道路整備工事において、交通誘導作業中、移動中のドラックショベルのクローラ部にひかれた。	142	7	50～ 99
2004	11	9 ～ 10	高速道路舗装工事現場内で、交通誘導作業中、工事現場内をバックで進行して来たダンプトラックにひかれた。	221	6	30～ 49
2004	3	17 ～ 18	自転車で信号のない十字路交差点を横切ろうとしたところ、側方道路を直進してきた乗用車と衝突した。	231	17	30～ 49
2004	9	10 ～ 11	デパートの開店前の店内のエレベーター起動作業の際、外部開放キー（強制的にエレベーターの扉を開ける道具）を用いて、1階エレベーターの外 部から扉を開けた直後、エレベーターのピット内に墜落した。	414	1	1～9
		6	電話の回線の切替え工事において、国道沿いのマンホール脇で交通整理を			50～

2003	12	7	～	していた作業者がワゴン車で休けい中、ワゴン中に積まれた小型ガソリンエンジン式の発電機の排気ガスを吸入し一酸化炭素中毒により死亡した。	514	12	99
2003	12	10	～	9 木造住宅建設工事で、基礎工事用の重機を搬入するため道路で重機を載せたトラックの誘導中に、バックしてきたトラックとブロック塀との間にはさまれた。	221	17	10～ 29
2003	12	12	～	11 浄水場築造工事において、取付道路工事に使用する仮設資材（養生用鋼製金網）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）の荷台から荷卸しするため、浄水場内の坂道に積載形トラッククレーンを止めてアウトリガーを設置しているときに、クレーンが坂道下り方向に動き出しクレーンの後方で交通整理をしていた者に激突した。	212	6	10～ 29
2003	12	5	～	4 国道の舗装作業において、一般車両の誘導警備業務を行っていたときに、猛スピードで交差点を突破してきた2tトラックにはねられた。	221	17	50～ 99
2003	12	17	～	16 自動車道路面の補修工事で、誘導員が追い抜き車線から急に走行車線に進路変更してきた大型トラックにひかれた。	221	17	30～ 49
2003	12	20	～	19 埋め立て工事現場から乗用車で帰社する途中、交差点で赤信号であるのに気づかずに直進したため、右側から来た大型貨物自動車と衝突した。	231	17	30～ 49
2003	11	20	～	19 ショッピングセンターの駐車場から市道への出入口で入出荷車両の誘導中に、市道を走行中の乗用車にはねられた。	231	17	1000 ～ 9999
2003	11	18	～	17 県道上の水道・ガス管理設工事において、片側交互交通の誘導を行っていたときに、軽トラックが停止せずに突っ込んできてはねられた。	231	17	10～ 29
2003	11	7	～	7 国道補修工事の交通誘導業務のため警備員5人が普通乗用車に乗って走行中、左曲りのヘアピンカーブの登り走行車線でセンターラインを越え、反	231	17	30～ 49

		8	対車線を下ってきた大型ダンプカーと正面衝突し3名が死亡した。			
2003	11	7 ～ 8	国道補修工事の交通誘導業務のため警備員5人が普通乗用車に乗って走行中、左曲りのヘアピンカーブの登り走行車線でセンターラインを越え、反対車線を下ってきた大型ダンプカーと正面衝突し3名が死亡した。	231	17	30～ 49
2003	11	7 ～ 8	国道補修工事の交通誘導業務のため警備員5人が普通乗用車に乗って走行中、左曲りのヘアピンカーブの登り走行車線でセンターラインを越え、反対車線を下ってきた大型ダンプカーと正面衝突し3名が死亡した。	231	17	30～ 49
2003	11	0 ～ 1	スーパーの防災センターの休日に、留守番電話の調子が悪かったので椅子（回転式）に登って留守番電話を調整していたときに、バランスを崩して転落し後頭部を強打した。	371	1	30～ 49
2003	10	1 ～ 2	工事現場で、内照式矢印板およびマーカーライトを路肩に設置して歩道上で誘導中に、乗用車が歩道に乗り上げてきてはねられ電柱に激突した。	231	17	30～ 49
2003	10	11 ～ 12	町道の道路改修工事において、ショベルカーを道路端に寄せようと後退したときに、近くで交通整理をしていた者に気付かなかったためゴム製クローラ部分でひいた。	142	7	30～ 49
2003	10	11 ～ 12	ビルの解体作業に伴うガラの積み込み作業において、10tダンプ・トラックの左側前輪に車輪止めをしてスロープ上（傾斜角7.8度）に停車していたところ、手元作業員が車輪止めを外したためにダンプ・トラックがスロープを下り車道に出たので、止めようと立ちふさがったときに車道を走行中の大型観光バスの後部との間にはさまれた。	221	17	50～ 99
2003	9	9 ～ 10	警備を終えてバイクで現場から事務所へ移動中、駐車場内の交差点で乗用車と衝突した。	231	3	30～ 49
2003	8	18 ～ 19	上水道弁渠（きよ）嵩上げ修繕工事で、交通誘導をしていたときに走行してきた乗用車にひかれた。	231	17	10～ 29

2003	8	8 ～ 9	ガス配管工事現場に蛍光反射チョッキを届けるためバイクで走行中、走行中の車と接触して転んだところを後続の車両に激突された。	231	17	30～ 49
2003	8	0 ～ 1	国道で路盤調査中、片側交互通行の車両誘導を行っていたときに、軽貨物自動車が進んで来て民家の塀との間にはさまれた。	221	17	30～ 49
2003	8	5 ～ 6	変圧器の取替工事のための交通整理で、1名が車線規制開始位置で誘導合図を行い、もう1名が約70m先に設置された工事用の移動式クレーン付近でカラーコーンの位置直しをしていたときに、直進してきた普通乗用車が手前にいた交通整理員をはね、さらに直進してもう1名が移動式クレーンと乗用車との間にはさまれた。	231	17	300 ～ 499
2003	8	5 ～ 6	変圧器の取替工事のための交通整理で、1名が車線規制開始位置で誘導合図を行い、もう1名が約70m先に設置された工事用の移動式クレーン付近でカラーコーンの位置直しをしていたときに、直進してきた普通乗用車が手前にいた交通整理員をはね、さらに直進してもう1名が移動式クレーンと乗用車との間にはさまれた。	231	17	300 ～ 499
2003	8	9 ～ 10	歩道拡幅および舗装補修工事で、工事側車線の車が反対車線に出て工事場所を通過したのち元の車線にもどる際の誘導のため反対車線に出ていたときに、反対車線から走行してきた乗用車に後からはねられた。	231	17	50～ 99
2003	7	16 ～ 17	下水道管敷設工事現場で交通誘導業務を行っていて、熱中症で死亡した。	715	11	300 ～ 499
2003	6	14 ～ 15	駐車場前の道路で西方向の直進車両を誘導していたときに、出庫待ちの列の中に右折出庫車両（加害車両）が混っていて、右折したときに警備員を巻き込んだ。	231	17	100 ～ 299
2003	5	10 ～ 11	国道の舗装補修工事において、片側2車線の道路上で一般車両の交通誘導業務を行っていたときに、進入してきた乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99



2003	5	3 ～ 4	夜間の道路舗装工事において、工事区域の車両停止看板の近くで交通整理中に、対向車線を時速100km以上の速度で直進してきた酒気帯び運転の乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2003	3	16 ～ 17	大規模小売店舗の6階屋上の冷却塔清掃作業中に、誤って1階屋上まで約19m墜落した。	418	1	1000 ～ 9999
2003	3	13 ～ 14	乗用車で取引先を回って会社へもどる途中、国道の路肩部分に駐車して休憩していたところへ、後方から走行してきた大型トラックが乗用車に追突したため乗用車が押し出され、前方に駐車していた大型トラックとの間にはさまれた。	221	17	30～ 49
2003	3	5 ～ 6	光ケーブル設置のためのマンホール・管路点検作業で、国道の片側3車線のうち1車線を規制していたときに、4tトラックが規制車線に進入したまま走行してきて警備員3名をはね、うち1名が死亡した。	221	17	50～ 99
2003	3	2 ～ 3	夜間の道路舗装工事において、アスファルト合材を降ろすために後進してきた10tトラックの後輪にひかれた。	221	7	1～9
2003	2	18 ～ 19	県道の舗装工事において、片側交互誘導警備を終了しカラーコーン等の資材の片づけを終えたときに、通りかかった乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
2003	2	18 ～ 19	現場作業が終了し帰社するためワゴン車に同乗して道路走行中、トンネルを出た所に停車していた車を避けようとハンドルを切ったときにスリップし、道路脇15m下の斜面に転落した。	231	17	50～ 99
2003	2	1 ～ 2	配水管新設工事で、道路上で誘導作業を行っていたときに、進入してきた車両に後側からはねられた。	231	17	30～ 49
2003	2	6 ～	立体駐車場の警備業務で、早朝の巡回（午前6時30分頃）中に、屋上の凍結した床面で滑って転倒した。	719	2	100 ～

		7						299
2003	2	2 ～ 3	道路舗装修繕工事において、片側2車線道路の歩道側を車線規制して車両規制表示車の前方で交通誘導していた警備員が、歩道側車線を走行してきた飲酒運転の車両にはねられた。	231	17			10～ 29
2003	1	14 ～ 15	市道交差点の交通信号機の交換作業のため交通整理をしていたときに、南側から走行してきたRV車と東側から走行してきたタクシーが交差点で衝突し、その衝撃で飛び込んできたRV車と工事のため停車していた小型トラックの後部との間にはさまれた。	231	17			50～ 99
2003	1	18 ～ 19	契約先が停電になったので、復旧作業のためバイクで移動中、駐車していた車両に追突した。	231	17			10～ 29
2003	1	14 ～ 15	舗装修繕工事現場において、走行中の軽トラックの運転手（76歳）が居眠り運転で歩道縁石を乗り越えて約30m走行し、下校中の小学生および工事の誘導員をはねた。	221	17			30～ 49
2003	1	12 ～ 13	道路路面補修工事において、車道と歩道の間にある溝（幅1m、深さ0.18m）の上に敷き鉄板（1.5m×3m、質量約800kg）を敷くため、ドラグ・ショベルで鉄板をつり上げて所定の位置に旋回し、鉄板の下端が地面に接地したとき、ワイヤが緩んで敷き鉄板のつり上げ用孔からフックが外れて誘導者の方に倒れ、逃げようとしたが溝に足を取られて転倒し鉄板の下敷きになった。	372	4			10～ 29
2003	1	23 ～ 24	警備員が翌日の勤務に必要な無線機を別の作業所まで取りに行くために、単車で市道を走行中、普通乗用車に追突した。	231	17			10～ 29
2002	7	8 ～ 9	ワゴン車を使用して遊園地の従業員の送迎を行っていたが、夜勤者より出迎えがないと連絡があり、電話連絡したが応答ないので搜索したところ路上の車内で意識を失っていた。	999	99			50～ 99
		10	架空電線の張り替え工事で、2車線道路を片側通行にするためカラーコー					100

2002	11	11	ンを出しているときに、後方から走行してきた軽トラックに跳ねられた。	221	17	299
2002	11	22	当日の業務を終えて同僚警備員が運転する乗用車で走行中、路面が凍結し	231	17	10~ 29
		23	た緩い右カーブでタイヤが滑って対向車線にはみ出し対向車と衝突して助手席の者が死亡した。			
2002	3	8	ビル新築工事現場前の公道で鉄筋機材の荷降ろしを行うため、通行車両の	231	17	100 ~ 299
		9	交通誘導警備作業中に、現場近くの信号を急発進した乗用車が降り始めた雨でスリップして跳ねられた。			
2002	10	16	水路工事において、村道の片側通行の交通誘導を行っていた者が誘導場所	418	1	30~ 49
		17	から離れて掘削溝（幅約4m、深さ2.7m）に転落した。			
2002	12	23	国道の夜間舗装工事で交通誘導を行っていたとき、走行してきた軽自動車	231	17	10~ 29
		24	に跳ね飛ばされ、停車していたダンプに激突した。			
2002	12	16	漁港の建設現場での車輛誘導が終了し、会社所有の乗用車で走行中、林道	231	17	10~ 29
		17	でカーブを曲がりきれず対向車線にはみ出し対向車と正面衝突した。			
2002	12	19	工事現場の交通誘導業務を終了し、当日の作業報告を行うため事務所附近	221	17	30~ 49
		20	の駐車場から事務所へ徒歩で国道を横断中、走行してきたトラックに跳ね			
2002	7	17	警備の業務が終了したので事業場指定のガソリンスタンドへ車で向かう途	231	17	50~ 99
		18	中、信号機のない十字路交差点を右折したときに左方から直進してきたト			
			ラックと衝突した。			
2002	7	6	道路維持工事現場に向かうため乗用車で国道を走行中、信号待ちで停車中	231	17	50~ 99
		7	の車に追突した。			
		8	道路舗装工事において、4 t ダンプを土砂積込み場まで約30m後進してい			30~

2002	11	9	たときに、異常を感じたので下車してダンプ後方を確認したところ、工事現場の誘導員を左後輪で轢いていた。	221	6	49
2002	11	10	光ファイバーケーブルの設置工事において、高所作業車を設置箇所である	146	17	50～ 99
		11	電信柱横へバックで移動させていたときに、高所作業車の後方で誘導を行っていた警備員がひかれた。			
2002	10	23	片側2車線のうち内側1車線をコーンで通行規制して中央分離帯脇の排水溝	221	17	50～ 99
		24	の清掃作業を行っているところの交通監視中、工事区域内（規制車線内）で待機していた2 t ダンプトラックが背後から走行してきて轢かれた。			
2002	10	15	自動車道の上り線に停車していたパトロール車に、後方より走行してきた	221	17	100 ～ 299
		16	10 t トラックが衝突しパトロール車に乗車していた警備員2名が死亡した。			
2002	11	22	自動車道の上り線に停車していたパトロール車に、後方より走行してきた	221	17	100 ～ 299
		23	10 t トラックが衝突しパトロール車に乗車していた警備員2名が死亡した。			
2002	11	9	工事現場の交通誘導を行っていて、何らかの理由でドラグショベル後方に	142	7	50～ 99
		10	立ち入ったためバックしてきたドラグショベルに轢かれた。			
2002	7	18	電気製品量販店の駐車場に出入りする車の誘導作業中、走行してきた軽ワ	231	17	30～ 49
		19	ゴン車にはねられた。			
2002	11	10	市道の改良舗装工事の交通警備を行っていて、現場内を後退してきたブル	141	6	10～ 29
		11	ドーザーの右後方のキャタピラーに轢かれた。			
2002	10	15	国道の拡張工事において、工事に伴う片側交互通行の車両誘導を行うため	221	17	10～ 29
		16	の「交通誘導警備員」研修を受けていたときに、走行してきたライトバンにはねられ路肩のコンクリート塀に頭及び腰を打ちつけた。			
		17	道路上の敷鉄板表面についた泥をドラグショベルのバケットで取り除く作			10～

2002	10	18	業で、オペレーターが運転席から後方に誰もいないことを確認したのち18mほど後進したときに、交通誘導員を右側クローラで轢いた。	141	7	29
2002	10	8	7 通信ケーブル撤去工事（夜間工事）での交通誘導の仕事を終えて会社のラ イトバンで事務所に戻る途中、国道の下りカーブで中央線を越えて反対車 線に飛び出し約37m下の農道に転落した。	231	17	30～ 49
2002	11	19	18 道路工事の誘導作業が終わり、翌日も同じ現場での仕事があったため社有 車で会社の寮へ戻る途中、反対車線の車に前方の車を追い越したところで 正面から衝突された。	231	17	30～ 49
2002	9	10	9 国道の橋梁点検業務のため片側交互通行に規制した道路で交通整理を行っ ていて、走行してきた4tトラックを停止させようとしてトラックに轢かれ た。	221	17	1～9
2002	9	11	10 公道上でガス管工事の警備中、突然腹痛となったので2tダンプを借りて （トイレを探すためと思われる）300mほど走行したとき、運転を誤って 左側の立ち木に激突した。	221	17	30～ 49
2002	9	20	19 電柱の建て替え工事において、交通誘導等を行っていた警備員が軽トラッ クに跳ねられた。	231	17	1～9
2002	6	16	15 道路改良工事現場において、交通誘導員が制止したにもかかわらずワゴ ン車が突っ込んできて、センターラインのピン打ちをしていた作業者と交 通誘導員を跳ね2名とも死亡した。	231	17	30～ 49
2002	9	17	16 トンネル改修工事の交通整理に従事した3名が軽貨物車で帰宅途中、国道 脇の標識に衝突して縁石に乗り上げ横転し運転手が死亡した。	231	17	10～ 29
2002	9	16	15 ビル新築工事において、一般人が運転していた乗用車が現場前に駐車して いた軽トラックに激突したため、激突された軽トラックが動きだし現場前 にいた警備員に激突した。	231	17	100 ～ 299
		9	トンネル出口より約50mの地点で交通誘導中、走行してきた4 t トラック			10～

2002	8	～	が規制区間範囲を見誤ってセーフティコーンをなぎ倒しながら突っ込んで	221	17	29
		10	きた。			
2002	8	11	国道の舗装工事において、道路沿いのコンビニへ出入りする車の誘導を	144	6	30～
		～	行っていて後進してきたタイヤローラーに轢かれた。			49
		12				
2002	3	8	仕事依頼先の車の後に付いて50ccのバイクで作業現場へ向かうため脇道よ	231	17	1～9
		～	り国道を横断中、走行してきた乗用車と衝突した。			
		9				
2002	7	12	走行中の20tトラックが、スピードを落とすことなく停止線を突破して車	221	17	50～
		～	線規制のため置いていた車両（2tトラック）の脇で規制区間の車両誘導を			99
		13	行っていた者に激突し、約30mはじき飛ばした。			
2002	7	10	国道に設置されている遮断機の定期点検中、遮断棒が降下したところへ大	391	6	50～
		～	型トラックの屋根が接触したため断棒が振れて交通整理員に当たった。			99
		11				
2002	6	17	大型ストアの駐車場出入口で車の誘導を路上で行っていたときに、駐車	231	17	100
		～	場から出てきた乗用車に右足をひかれて転倒し、路面に頭部を強打した。			～
		18				299
2002	6	9	高速道路のポットホール埋め戻し工事のため路肩に停車していた標識車	221	17	10～
		～	に、本線を走行していた大型トレーラー（14t）が追突し、警備員が跳ね			29
		10	飛ばされて高架下の町道に墜落した。			
2002	4	6	自動車の販売店で泊まり込みの警備業務に就いていて、朝シャッターを開	231	17	300
		～	けていたところへ国道を走行していた乗用車が飛び込んできて轢かれた。			～
		7				499
2002	7	20	構内の巡回作業中に裏門の電動式の上下開閉式の鉄製ゲート（たて	418	4	10～
		～	3.4m、横6.7m、質量860kg）をペンダントスイッチで閉めるときにゲー			29
		21	ト落下防止用に固定ボルトの片方を抜かないまま下降させたため、ゲート			
			が引掛かって閉まらなくなったので金切鋸でボルトを切断したところ、			

			ゲートが落下して下敷きとなった。			
2002	6	20 ～ 21	すし店の駐車場の駐車整理・誘導者が第2駐車場に向うため横断歩道ではない箇所を横断中、ステップワゴン車と接触した。	231	17	1～9
2002	9	15 ～ 16	空港事務所から注文があったハイジャック防止訓練用のナイフを届けに行く途中、信号機の無い県道と町道の交差点で4 t ダンプと出合頭に衝突した。	231	17	50～ 99
2002	4	3 ～ 4	自分の担当地域（約300社）の警備のため車内で待機していたところ、異常通報があり現場確認して「異常なし」と監視センターに報告があった後に連絡が途絶えたので、同僚が最後の連絡場所に赴いたところ背中を包丁で刺され死亡していた。	364	99	50～ 99
2002	6	1 ～ 2	国道に情報ボックスを設置作業で、片側規制のバリケード内で交通誘導をしていたところへ走行してきたRV車が突っ込んできて激突された。	231	17	30～ 49
2002	6	14 ～ 15	国道の道路工事現場で、片側交互通行の交通誘導作業中に走行して来た普通トラックに跳ねられた。	221	17	50～ 99
2002	4	13 ～ 14	マンション新築工事において、土中に仮埋めした長さ4mの杭の上の同種の杭を移動式クレーンを用いて吊ったまま2つの杭を仮溶接し、その直後に写真撮影を行うため杭の至近距離で黒板を持っていたところ、仮溶接が外れてきて杭が身体に激突し、反動でクレーンのアウトリガーに頭部を強打した。	419	6	30～ 49
2002	2	10 ～ 11	楽器店の看板取付工事で、現場の交通誘導員が現場2階にあるトイレに行き、用済み後にトイレから廊下に出る際に転倒し頭と腰を強打した。	417	2	10～ 29
2002	4	11	現場から現場へ2台の高所作業車で移動中、前を走行していた高所作業車が荷を落として停車したのを後の高所作業車が気付かずに追突し、助手席	221	17	100 ～

		12	に同乗していた者が死亡した。			299
2002	2	15 ～ 16	マンション新築工事現場の入口で、警備員が生コン車の現場入場の誘導をするため公道へ出たところ、走行してきたトラックに跳ねられた。	221	17	30～ 49
2002	2	12 ～ 13	公共下水道工事において、立坑掘削作業箇所の掘削が終了したので車両系建設機械を立坑掘削作業箇所に移動させるため、誘導者が車道中央に向かい移動したときに走行してきた乗用車にはね飛ばされ、さらに対向車線の車両にもはね飛ばされた。	231	17	50～ 99
2002	3	2 ～ 3	国道の追い越し車線を走行中の普通乗用車が、橋の吊足場設置作業の交通整理に従事していた者を跳ね飛ばした。	231	17	1～9
2002	3	14 ～ 15	町道改良工事で、ボックスカルバート設置後の埋め戻し作業中、土砂を運搬してきた10 t 積ダンプを誘導するため徐行しているダンプの後方から左前方に向けて歩行しているときに、ダンプの左前部に接触して転倒し左前輪で腹部を轢かれた。	221	6	1～9
2002	2	21 ～ 22	国道を横断する既設のガス管の撤去のため、カラーコーンによる車線規制を行い作業を開始しようとしたところに、走行してきたワゴン車が突入し、規制車線内にいた警備員2名を次々にはねた。	231	17	50～ 99
2002	2	21 ～ 22	国道を横断する既設のガス管の撤去のため、カラーコーンによる車線規制を行い作業を開始しようとしたところに、走行してきたワゴン車が突入し、規制車線内にいた警備員2名を次々に跳ねた。	231	17	50～ 99
2002	3	16 ～ 17	下水管布設工事現場において、ドラグ・ショベル（機体質量：2.57t）で埋め戻し後の転圧作業を行っていたときに、交通整理を行っていた者を後進で轢いた。	142	7	30～ 49
2002	2	9 ～ 10	国道の歩道整備工事において、3次下請の労働者が運転する大型特殊自動車（26t）が後退して警備員に激突した。	149	6	50～ 99



2002	2	14 ～ 15	排水路改良工事現場において、一般車両及び工所用ダンプの誘導を行っていた警備員が、後進したバックホーのキャタピラに轢かれた。	142	7	10～ 29
2002	2	12 ～ 13	公共下水道管渠布設工事現場で、交通整理員が進行してきた通行車両を止めようとしてその車に接触して反対車線に飛ばされ、反対車線を進行してきた車両にも接触した。	231	17	10～ 29
2002	1	17 ～ 18	耐震対策のための鋼板設置工事において、交通整理員が移動式クレーンの旋回範囲に立ち入り、クレーンのカウンターウエイトと鋼管手すりとの間に挟まれた。	212	7	10～ 29
2001	11	16 ～ 17	市道の工事現場で交通誘導中、センターライン付近を直進してきたワゴン車にはねられた。	231	17	50～ 99
2001	11	17 ～ 18	管路施設工事において、交通誘導中の者が走行してきたトラックにひかれた。	221	17	30～ 49
2001	11	13 ～ 14	水道工事後の道路復旧工事現場において、左車線で中央車線への交通誘導作業中に手に持った交通誘導旗(柄の長さ1.35m、直径2cm)に車が接触し、旗の柄の部分で腹部を強打した。	231	17	30～ 49
2001	12	9 ～ 10	消火器に粉末薬剤を充填するため、タンクに消火用粉末薬剤を投入して窒素ガスにより圧送していたところ、突然タンクが破裂した。	319	15	100 ～ 299
2001	11	23 ～ 24	国道の交差点付近の街渠清掃作業で、車線変更規制区域内で車両誘導を行っていたときに、規制区域内に進入してきた普通自動車に激突された。	231	17	30～ 49
2001	10	17 ～	簡易水道新設工事において、片側交互通行の交通誘導を行っていて作業が終了したので道路上の鉄板を片付けるためにドラグショベルを移動する間、一般車輛を止める作業を行っていたときに急に一般車輛が進入してき	142	7	10～ 29

		18	たので誘導するためドラグショベルに接近したところ、ドラグショベルが突然バックしてきてひかれた。			
2001	12	13 ～ 14	道路補修工事の準備作業として路面に破損箇所のマーキングをしていたところ、大型トラックが突っ込んできてマーキングしていた労働者1名と、交通誘導をしていた労働者2名の合計3名をはね、交通誘導をしていた者1名が死亡した。	221	17	10～ 29
2001	11	23 ～ 24	国道の舗装工事現場の交通誘導で、誘導中の作業員と交替するため車道からガードレールの間を抜け歩道に行こうとして、車道と歩道の間(約1m)からおよそ9m下の橋脚基礎部分に墜落した。	414	1	10～ 29
2001	9	9 ～ 10	インターチェンジ付近で側道工事のために交通整理等をしていたところ、軽4貨物自動車は路肩の規制線を越えて進入し激突された。	221	17	30～ 49
2001	10	7 ～ 8	下水道工事現場の交通誘導のため軽ワゴン車で走行中、t字路を右折したときに走行してきた乗用車と衝突した。	231	17	100 ～ 299
2001	9	9 ～ 10	路肩で側道工事の交通整理をしていたとき、軽4貨物車が路肩の規制線を突破してきて衝突した。	221	17	100 ～ 299
2001	8	1 ～ 2	工事現場において、規制車とクッションドラムの間で片側交互通行の誘導業務を行っていたところ軽自動車が停止せずに突っ込んできたため、軽自動車と規制車との間に挟まれた。	231	17	50～ 99
2001	8	19 ～ 20	老人保健施設で開催された夏祭の交通整理を担当していた者が、国道の中央線付近で施設から出てくる車両を誘導していたところ、通りかかった乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2001	3	10 ～ 11	道路舗装のため片側交互通行の誘導中、止まれの合図を無視して進入してきた大型トレーラを制止させようとトレーラの前に出てはねられた。	221	17	1～9

2001	6	11 ～ 12	国道の工事現場で、作業中のドラグショベル付近を車両誘導のため通行していたところ、ドラグショベルのオペレーターが気づかずにショベルを移動させたためクローラに巻き込まれひかれた。	142	7	30～ 49
2001	6	15 ～ 16	側道の拡張工事において、車両誘導中に、後退していたトラックと接触し頭部を左後輪にひかれた。	221	6	50～ 99
2001	3	15 ～ 16	片側1車線道路の工事区間の出口部で通行車両の誘導をしていたときに、反対側方向から同僚警備員の制止を振り切って走行してきた車に激突された。	231	17	30～ 49
2001	5	15 ～ 16	下水道工事のため県道上で交通整理をしていたところ、片側交互通行規制区域内を走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2001	4	22 ～ 23	客先の夜間警備のためにスクーターで道路上を走行中、停車していたトラックに追突した。	231	17	50～ 99
2001	4	11 ～ 12	電話線接続端子管の取替工事において、高所作業車を次の作業箇所へ移動するため一旦ブームを降下させて地面に降り警備員がアウトリガーを格納するため車体側面の操作レバーを操作したところ、車体左側のアウトリガーのみ格納したため車体が傾きブロック塀との間に挟まれた。	146	7	10～ 29
2001	1	6 ～ 7	警備の仕事場所へ行くための乗用車で国道を走行中、対向車線へはみ出して対向のワゴン車と正面衝突した。	231	17	50～ 99
2001	4	1 ～ 2	電柱立替工事において、交通整理をしていたときに、西から直進して来た普通乗用車に衝突された。	231	17	50～ 99
2001	3	5 ～	バイクで走行中、信号機手前で反対車線に飛びだして縁石に乗り上げ、電柱に追突した。	231	17	50～ 99

		6				
2001	3	2 ～ 3	道路舗装工事のため路上で交通誘導を行っていたときに、4tトラックにはねられた。	221	17	1～9
2001	3	4 ～ 5	夜間の道路舗装工事の警備員が同僚に小用のため交代を求められ徒歩で進行中、走行して来たトレーラーに後方から追突された。	221	17	30～ 49
2001	3	17 ～ 18	下水道工事において、荷台に砂利を積載したまま後退した4tダンプトラックに、道路上で一般車両の誘導をおこなっていた警備員がひかれた。	221	6	1～9
2001	3	16 ～ 17	排雪作業現場付近交差点で一般車両が進入しないよう警備を行っていたが、持ち場を離れて除雪用ロータリー車の前方に移動したときに、ロータリー車が前進したため地面とロータリー部分との間に挟まれた。	149	7	30～ 49
2001	2	23 ～ 24	3車線のうち最内側車線1車線をカラーコーンで長さ約150mにわたり交通規制し、敷地を囲むフェンスの取替作業を行っていたところ、中央車線を走行してきたワゴン車が区間内の中間部あたりから急に規制車線内にカーブしてカラーコーンをはねとばして入り込み交通警備員に激突した。	231	17	1～9
2001	2	23 ～ 24	道路工事の交通整理をしていたところ、酒気帯び運転の軽乗用車に正面から激突された。	231	17	30～ 49
2001	2	1 ～ 2	夜間工事現場で片側交互通行の誘導中、ワゴン車が走行してきたので停止の合図を繰り返したが停止せず、直前で急ブレーキをかけたが間に合わずそのまま誘導者と接触し、反対車線から逃走した。	231	17	10～ 29
2001	1	13 ～ 14	光ケーブル接続工事現場において、一般通行人の誘導を行っていた警備員が昼食のため建設業者が現場に止めていたワゴン車の中に入っていたところ、内部で運転中のガソリン発電機の排ガスのためCO中毒となった。	514	12	30～ 49
		18	駅構内において、下り線のポイント(転てつ器)の不転換が発生し輸送指令			30～

2001	2	～	から調査を指示された見張員1名とパート作業員2名が上り線内を通りポイントに向かう途中、見張員と作業員1名が列車に跳ねられた。	232	18	49
2001	2	3 ～ 4	片側2車線を1車線に交通規制をして車道の舗装工事をしているところへ、並走してきた乗用車のうち歩道側を走行していた車が車線変更して前へ出ようとして中央分離帯に接触し、反動で作業箇所中央部で誘導していた者を車の前で押すようにしてアスファルトフィニッシャに激突した。	231	17	50～ 99
2001	2	14 ～ 15	道路拡幅工事において、交通整理等の警備業務中に、掘削穴に砕石を入れて表面の均し作業を行っていたドラグショベル(機体質量7.5t)のクローラに頭部をひかれた。	142	7	10～ 29
2001	1	13 ～ 14	国道の法面補強工事を行うため法面側の車線を交通止めにし、同僚と工事現場の両側に立って車両の交通誘導を行っていたときに、走行してきた貨物自動車誘導・車線変更の掲示板に気付かずバリゲート・誘導表を跳ね飛ばした。	221	17	30～ 49
2000	11	18 ～ 19	し尿圧送管配管工事現場で一般車両の交通整理を行っていたときに、交通整理区間外から工事現場反対側車線へ直進してきた普通乗用車にはねられた。	231	17	100 ～ 299
2000	10	16 ～ 17	建設現場の交通誘導警備業務を終了して普通乗用車で走行中、緩やかな下りの左カーブで対向車線にはみ出してトラックと正面衝突した。	231	17	50～ 99
2000	8	10 ～ 11	国道の道路清掃作業において、片側交互通行の交通誘導を行っていたところ、走行してきた居眠り運転のトラックと後方に停車していた標識車(軽トラック)に挟まれた。	221	17	10～ 29
2000	8	16 ～ 17	スーパーの駐車場整理のために、前々日から炎天下のもと就労していたところ、3日目の夕方になって体調の不良を訴え病院に移送されたが、熱中症で死亡した。	715	11	10～ 29
2000	3	16 ～	配水管布設工事において、ダンプから砕石を降ろす作業をしていたドラグショベルの近くで一般車輛などの誘導者がバックしてきたドラグショベル	141	7	50～ 99

		17	にひかれた。			
2000	12	10 ～ 11	道路中央線上の発光体埋め込み工事において、片側通行としていたトンネル内で誘導灯を持って車の誘導を行っていたときに、走行してきた10tトラックにはねられた。	221	17	10～ 29
2000	12	0 ～ 1	警備予定の現場より1、3m離れた路側帯に停めた車両内で休憩中、資材を積み込むために移動しはじめた工事用の建柱車がバックしてきて車両が巻き込まれた。	143	17	100 ～ 299
2000	12	7 ～ 8	工事現場へ自転車で向う途中、後方から来た自動車に接触されて転倒した。	231	17	100 ～ 299
2000	3	22 ～ 23	建設現場から乗用車で国道を走行中、対向車線にはみ出して対向の車と正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
2000	7	15 ～ 16	共同溝整備工事において、鉄板(質量800kg)をバックホーでトラックに積み込んでいるときに、玉掛け用具の吊り荷側のフックから鉄板が外れて落下し、トラックの傍で交通整理をしていた者が下敷きになった。	372	4	10～ 29
2000	7	15 ～ 16	公共下水道管渠布設工事において、国道の片側規制のため通行車両の誘導を行っていて、右折してきた散水車に激突された。	221	17	50～ 99
2000	9	16 ～ 17	工事現場の車両誘導をしていて、乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2000	7	22 ～ 23	国道で電柱移設工事のために交通整理をしていて、乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2000	8	11 ～	下水管布設工事において、一車線を規制して通行車両の誘導を行っていた警備員が走行してきた2tトラックにひかれた。	221	17	1～9

		12				
2000	6	15 ～ 16	トラックをバックで運転中、警備をしていた者に激突した。	221	6	10～ 29
2000	3	14 ～ 15	高架橋の修繕工事において、落下防止用のネットを橋脚に設置するため高所作業車がバックしたところ、車輛を誘導していた警備員が高所作業車の後部と橋脚との間に挟まれた。	146	6	10～ 29
2000	9	21 ～ 22	駐車場ビルの巡回中、トランシーバーでの定常連絡が屋上駐車場からを最後に途絶えたので他の警備員が確認に行ったところ、屋上駐車場で意識を失って倒れているのを発見した。(頭蓋骨骨折による脳挫傷)	417	2	10～ 29
2000	3	13 ～ 14	公園の道路工事で、交通誘導を行っていた者が100m先にある休憩所に向かうまたは休憩所から警備場所に戻る途中に崖から谷に転落した。	711	1	10～ 29
2000	2	1 ～ 2	国道交差点付近の道路舗装工事の警備業務に従事中に、通行車両にひかれた。	231	17	1～9
2000	2	19 ～ 20	パチンコ店駐車場から出て右折する車を誘導するため、車道に出て対向車を停止させようとして車にはねられた。	231	17	30～ 49
2000	12	10 ～ 11	国道下に埋設された下水道枝管を埋設する工事で、道路上の一般車輛等の交通誘導中の警備員が後退してきた小型のドラグショベルのクローラ部に左足首から左大腿部にかけて踏み潰された。	141	7	1～9
2000	5	9 ～ 10	新築工事現場で、現場に生コンを運搬してきたコンクリートミキサー車を誘導中に、後進していたミキサー車にひかれた。	221	17	100 ～ 299
2000	4	2 ～	リハビリセンター内の警備巡回中に、階段から足を踏み外し転落した。	413	1	50～ 99

		3				
2000	4	11 ～ 12	道路工事現場において、2車線を1車線を規制する交通誘導を行っていて、走行して来るライトバンを停止させていたところ、後の10tトラックの運転手が気づくのが遅れ前方に停止していたライトバンに追突し、追突されたライトバンが誘導者に接触して路上に転倒したところに止まりきれなかったトラックにひかれた。	221	17	50～ 99
2000	6	5 ～ 6	ホテルの夜間警備で定期巡回中に、ホテル屋上から28m下の地上に墜落した。	418	1	30～ 49
2000	12	10 ～ 11	道路舗装工事のため片側交互通行の誘導を行っていたとき、東に向かって走行してきたワゴン車に、南に向かって走行してきた自動車学校の教習車が衝突し、衝突の弾みでワゴン車が左回転してはねられた。	231	17	30～ 49
2000	8	16 ～ 17	工事現場の交通誘導業務を終えて車で走行中、トンネル内で中央線をはみ出し対向のトラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2000	7	2 ～ 3	情報管路設置埋設工事で、舗装作業のため国道で交通誘導を行っていて、進行してくる4tトラックに赤色灯で車線変更の合図を行ったにもかかわらずトラックが直進してきてはねられた。	221	17	10～ 29
2000	4	11 ～ 12	国道下の下水管洗浄作業を行っていた車輛(吸水車)がバックしたときに、作業に伴う交通整理を行っていた警備員がひかれた。	221	17	30～ 49
2000	6	8 ～ 9	工事用道路と県道の交差点で工事用車両の誘導中に、走行してきた前方不注意の軽乗用車にはねられた。	231	17	100 ～ 299
2000	11	4 ～ 5	夜間工事現場で、車線規制帯の誘導を道路上で行っていたときに、直進してきた自動車に激突された。	231	17	10～ 29



2000	11	14 ～ 15	配水管敷設工事現場で後退する工事車両(2tトラック)を誘導中に支障となるカラーコーンを移動しようとしたときに、車両が電柱に衝突し、折れた電柱が電線に引っ張られた反動で腹部に激突した。	418	6	～ 299	100
2000	10	23 ～ 24	地中配電工事現場において、待機していた車を作業帯へ誘導するため、横断歩道を通行中に信号を無視して進行してきたワゴン車にはねられた。	231	17	～ 299	100
2000	9	11 ～ 12	下水道管移設工事現場において、埋め戻しの土砂を運んでくるダンプを現場内に入れるスペースをつくるため現場内を後進で移動中の2 tトラックに、一般車両の誘導者がひかれた。	221	7	～ 299	100
2000	7	4 ～ 5	ガス工事後跡の道路本復旧舗装工事(夜間作業)で、朝方に道路規制撤去を始めるため、作業帯の先端外側で一般車両を誘導していたガードマンが居眠り運転の3. 5tトラックにはねられた。	221	17	30～ 49	
2000	3	1 ～ 2	残土置場の入口付近で搬入トラックの誘導を行っていたときに、歩道に飛び込んできた乗用車にひかれた。	231	17	～ 299	100
2000	3	7 ～ 8	工事現場に入っていた4tトラックの納入順番が違うので一旦場外へ出すため笛で誘導し、後進から前進にさせようとしたがそのまま後進してきたため信号機とトラックの後部との間に挟まれた。	221	6	50～ 99	
2000	1	8 ～ 9	ワゴン車に4名の警備員が乗り競輪場へ向かって走行中、国道へ出る手前でハンドル操作を誤って対向車線に飛び出し、ダンプ車と衝突し、運転していた警備員が死亡した。(他の3人も負傷)	231	17	～ 299	100
2000	1	8 ～ 9	同僚と巡視中にオーケストラピットへの扉の施錠の状況を確認しようとして、誤まって、深さ2. 7mのピット内に墜落した。	414	1	～ 299	100
2000	3	8 ～ 9	国道の舗装改修工事において、センターライン引き作業の交通誘導をしていたガードマンが、走行してきた一般通行車両にひかれた。	221	17	10～ 29	

2000	11	19 ～ 20	軽ワゴン車で国道を走行中、交差点を右折してきた普通乗用車と衝突し、軽ワゴン車が大破炎上した。	231	17	300 ～ 499
2000	7	14 ～ 15	現場の作業が完了したので同じ現場で働く他社の作業員の車に同乗し走行中、照明灯に左前が接触し、その反動で車が進行方向右側にふられ横転した。その時、後方座席の窓が空いていたため被災者の上半身が窓から飛び出してしまい、胸部を圧迫され死亡したもの。	221	17	50～ 99
2000	6	21 ～ 22	警備業務で門扉の施錠のため駐車場に向けて道路を横断中、右手より走行してきた自動車にはねられた。	231	17	100 ～ 299
2000	5	8 ～ 9	銀行へメール等(現送バックを含む)を搬送する車に現金等を搬入しているときに、通用口前に停車中の現金輸送車の陰から拳銃を持った男が飛び出してきて発砲し、現金を盗み逃走した。	911	90	100 ～ 299
2000	4	9 ～ 10	会議のため本社へバイクで走行中、横から車が出てきてバイクの側面に激突した。	231	17	30～ 49
2000	7	17 ～ 18	工事現場の交通誘導を終え乗用車で走行中、見通しの良い市道と県道の交差点で左から県道を走向して来た乗用車と出会い頭に衝突した。	231	17	10～ 29
2000	6	15 ～ 16	下水道工事現場において、車両及び歩行者の交通誘導を行っていた者が、居眠り運転のワゴン車が直進してきたためはねられた。	231	17	10～ 29
1999	12	2 ～ 3	国道の夜間道路工事現場において、延長750メートル区間の片側通行帯で交通誘導をしていたところ、走行してきた10トントラックにはねられた。	221	17	50～ 99
1999	12	1	空港ゲートで軽ワゴン車が進行してきたので、交通誘導灯による停止の合図をしながら門扉を約2m開放したがスピードを落とさず進行してきたた	231	17	1000 ～

		2	め、軽ワゴン車に跳ねられた。			9999
1999	9	22 ～ 23	寺境内で警備員が銃で撃たれた。	921	90	10～ 29
1999	12	3 ～ 4	国道管理施設工事の車線規制の誘導業務で、現場内に駐車した車の中で休憩を取り警備交代のため規制帯の中を移動していたときに、飲酒運転の車にはねられた。	231	17	100 ～ 299
1999	12	23 ～ 24	バイパスの切削工事において、切削クズを運ぶ空車の10tダンプが作業箇所付近に近づこうと後進しているときに、出入口で作業車の誘導・監視を行っていた交通整理員がひかれた。	221	7	30～ 49
1999	12	13 ～ 14	下水道管理設を行う現場で、掘削した路面のアスファルトを積載したトラックを移動するため、そのトラックの運行経路上に停車していた別のトラックが待避しようと後進したときに車両の後方で清掃作業をしていた者をひいた。	221	6	1～9
1999	4	11 ～ 12	オークションのため運搬してきた車両の配置等の調整を行うため事務所を出て構内を移動中、運搬してきた車両を降していたトレーラーの登坂用板につまづいて転倒したところにトレーラーからバックで降りてきた車にひかれた。	231	7	100 ～ 299
1999	11	5 ～ 6	道路改修工事で国道バイパスの1車線を規制するため、交通整理を行っていたところ、切削車に給水するために後退してきた散水車にひかれた。	221	6	100 ～ 299
1999	11	13 ～ 14	情報BOX設置工事で、一片側交互通行の交通規制を行っていたときに、先頭車両の軽四トラックがそのまま突っ込んできたため、約8m跳ね飛ばされた。	221	17	50～ 99
1999	11	14 ～ 15	下水道汚水管渠整備工事において、バリケードの外で交通整備を行っていたときに、バリケード内で作業を行っていたドラグショベルが後退してきてひかれた。	142	6	10～ 29

1999	10	1 ～ 2	道路整備工事現場で、車線規制のため一般車両の誘導を行っていて軽トラックにひかれた。	221	17	50～ 99
1999	10	16 ～ 17	下水道工事現場において、発進立坑のシートパイル打込みが終了したので移動式クレーン(25t)で発電機等をトラックに載せる作業中、交通車輛の誘導の待機中の警備員が直進してきた乗用車にはねられ、反対車線に飛ばされたところを別の乗用車にはねられた。	231	17	1～9
1999	10	4 ～ 5	警備用車輛で巡回警備中、居眠りで道路左側街路樹に衝突し、同乗者が死亡した。	231	17	100 ～ 299
1999	9	8 ～ 9	工事現場において、県道の交通整理を行っていて、現場からダンプが道路に出るため走行してきた乗用車を停止させようとしたが停止せずはねられた。	231	17	1～9
1999	9	11 ～ 12	施設内を巡回にでた警備員がなかなか戻ってこないのと同僚が探しに出かけたところ、地下1階の階段室扉の前でうずくまっている被災者を発見し、声をかけたとたんあおむけに倒れた。	413	1	100 ～ 299
1999	9	13 ～ 14	国道の片側交互通行の交通整理中、赤旗を出し停止合図を行なったが普通トラックが突っこみはねられた。	221	17	100 ～ 299
1999	9	1 ～ 2	道路専有許可を得て2車線の片側で開削工法により水道管の敷設工事中、走行してきたタクシーが工事区域に突っ込んできたため、交通誘導警備員が案内板と一緒に跳ね飛ばされた。	231	17	50～ 99
1999	9	1 ～ 2	下水道工事現場で、片側交互通行の車両誘導中に走行してきた車両に跳ね飛ばされた。	231	17	100 ～ 299
1999	9	10	工事用出入口の歩道上で交通誘導業務に従事していて工事用ダンプを誘導し終えた直後に、制動を失い歩道に突っ込んできた軽ワゴン車にはねられ	231	17	50～ 99

		11	12メートル引きずられた。			
1999	9	12 ～ 13	国道の道路工事現場において夜間工事を行っていたところに乗用車が相当なスピードで進入してきて現場脇に止めてたトラック(積載荷重1.5t)に激突し、同トラックとともに現場内に突っ込んできたため、誘導者がトラックと加害車両に挟まれた後にはね飛ばされた。	231	17	10～ 29
1999	8	8 ～ 9	県道脇の除草作業のため、交通整理を行っていたところ、反対車線からセンターラインを超えて、暴走してきたタンクローリーにはねられた。	221	17	10～ 29
1999	8	21 ～ 22	路面切削機による路面の切削工事で4箇所切削を完了し5箇所目に移動するときに、切削機の前方で通行車両の誘導を行っていた警備員が切削機にひかれた。	149	7	1～9
1999	8	1 ～ 2	国道の情報BOX布設工事現場で、片側交互通行の誘導中、ワゴン車に跳ね飛ばされた。	231	17	30～ 49
1999	7	8 ～ 9	積載型トラッククレーンへ車両系建設機械を積込むため、重機置場から道路上へ約1メートル出たところで誘導者をクローラでひいてしまった。	142	7	30～ 49
1999	6	1 ～ 2	夜間の下水道工事現場で交通整理を行っていて、ライトバンにはねられた。	231	17	50～ 99
1999	2	10 ～ 11	県道の舗装工事現場で車輛の誘導を行っていたとき、車輛移動のため前進してきた路面切削機にひかれた。	149	6	30～ 49
1999	5	12 ～ 13	高速道路の補修工事において、交通規制用器材の積込が完了し現場を離れようとしていたときに、走行してきた3トンの保冷車が停車していた標識車に追突し、そのはずみで交通規制要員5名が標識車にはねられた。	221	17	100 ～ 299
		6	会社の車で同僚が運転して2人で建築工事現場に向かっている途中、交差			100

1999	5	7	点で右折してきた乗用車と衝突した。	231	17	299
1999	4	2 3	下水道工事現場近くにある交差点内でタクシーと普通乗用車が衝突事故を起こし、その反動で進行方向に向かって左回転したタクシーが衝突現場より約5メートルのところで工事現場の交通誘導をしていた警備員を約5メートル跳ね飛ばした。	231	17	50～ 99
1999	4	16 17	マンション新築現場で、足場板15枚を55tクローラクレーンで吊り上げていたときに、玉掛ワイヤーから荷が抜け落ちてきて下にいたガードマンと激突した。	212	4	10～ 29
1999	2	21 22	作業場所へ出入する車両の誘導をしていたときに、後方よりバックしてきたダンプにひかれた。	221	18	30～ 49
1999	4	10 11	国道の道路工事現場で車両誘導をしていたガードマンがトラックにはねられた。	221	17	30～ 49
1999	3	18 19	国道維持補修工事において、緩い下りのカーブ部分で車両の誘導を行っていたときに大型8トントラックが走行してきたので、道路中央部まで出て合図をしたが、トラック運転手の気付くのが遅れてひかれた。	221	17	50～ 99
1999	2	20 21	仕事を終えた従業員をマイクロバスに乗せて営業所に向かう途中、信号のない市道交差点で乗用車と出会い頭に衝突し、バスが180度回転して横転し、バス運転手が脳挫傷で死亡したほかマイクロバスに乗っていた労働者9人が重軽傷を負った。	231	17	100 ～ 299
1999	2	1 2	国道トンネル内のケーブル敷設工事のため、車両通行規制の警備を行っていたときに、走行してきた軽自動車は停車の合図を無視して走行してきたため、この車と後方に駐車していた自動車との間に挟まれた。	221	17	30～ 49
1999	3	23	水道工事現場で、交通整理をしていた警備員が乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49

		24				
1999	2	13 ～ 14	構内道路を自転車で管理棟へ向かって走行中、前方より直進してきて右折しようとした2トントラックに衝突し、車体に巻き込まれた。	231	6	30～ 49
1999	3	17 ～ 18	工事のためバックしてきた2トントラックを誘導中、トラック後部タイヤにひかれた。	221	6	50～ 99
1999	2	22 ～ 23	片側2車線の1車線を交通規制にして道路維持工事を実施中、一般車の誘導を担当していた者が工事車両にひかれた。	221	17	10～ 29
1999	2	20 ～ 21	葬儀場で駐車場の誘導をしていたときに、通行してきた乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
1999	2	18 ～ 19	発電所の定時巡回を同僚と2名で車両で実施していて、岸壁に向かうゲートを開けてその場で1名が監視に立ち、1名が車両を運転し不審者等の有無の確認のため物揚場に向かったときに、岸壁端から車両ごと海に転落、溺死した。	418	10	10～ 29
1999	2	2 ～ 3	桁下照明器具の取付工事のため、高速JCT付近で走行車線規制を実施し作業していたところ、追い越し車線を走行していた乗用車が右側高欄に接触し、その反動で走行車線の作業帯に突っ込み車両を誘導していた者をはねた。	231	17	0
1999	2	17 ～ 18	港のエプロンでコンクリート製電柱を積載して後進した貨物自動車の荷台から2.75メートルはみ出した部分に、進行してきた警備員の運転する原動機付自転車が激突した。	231	3	10～ 29
1999	2	2 ～ 3	校舎4階の音楽室内を巡回警備中に、吹奏楽部の生徒が気が付かず音楽室の扉を施錠したため扉が室内から開かず閉じ込められたので、電気ドラムのコードを固定して窓から垂らし地上に降りようして墜落した。	418	1	300 ～

1999	1	10 ～ 11	県道の路面再生工事において、乳剤散布作業車による片側車線の散布が終了したので運転者が車両を後退させたときに、一般車両の交通誘導中の者をひいた。	221	7	10～ 29
1999	2	16 ～ 17	道路舗装作業現場で通行車両の誘導をしているときに、後退してきたローラーに接触・転倒して胸部を圧迫された。	144	6	30～ 49
1999	1	11 ～ 12	道路工事現場において、歩道部分にを敷く砂利を積載した2tのダンプトラックを歩道上をバックしていたときに、誘導者をひいた。	221	7	50～ 99

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.html)に戻る。